一日本酒壹升ノ重量ヲ四百八十目ト爲スハ各關同一ノ取扱ナルモ尙ホ實査ノ成績ニ依ル事
一醬油壹升ノ重量ハ其品質ニ依リ各港一定シ難シ當分實査ノ成績ニ依ル事

評價々格ニ關スル事項

一從價稅品ノ評價々格ヲ各港同一ニナスノ問題ニ就テハ
(1)少クモ四ケ月ニ壹回各港價格表ヲ調製シ互ニ交換スル事即チ此價格表ニ記スヘキモノハ實際通關セシ貨物ノ鑑定價格ニシテ報告當時ノ價格ニ據ル事其交換期ハ本年十二月ヲ第壹回トス又其重要品目ハ各港適宜ニ之ヲ定ムル事
(2)見本品ヲ交換スル事
但シ見本品ハ前以テ其必要ナル品名ヲ定メ置ク事
(3)新規ノ貨物輸入シタル時ハ其商標、產地製造地等ヲ詳記シテ相交換スル事
(4)各港互ニ吏員ヲ派出シテ調査セシムル事
一輸出品ノ原價ハ其輸出港ノ價格ニ據ルヘキ事
一輸入「タンク」石油ノ價格ハ從前各港區々ナリシ事ノ問題ニ就テハ自今以後左ノ方法ニ依リ各港一致ヲ計ル事
(1)仕入書ヲ提出セサルトキハ輸入港ニ於テ評價々格ヲ附シ之ヲ他港ヘ報スル事
(2)仕入書ヲ提出セシトキハ是ニ依リ課稅シ其仕入書ヲ謄寫シテ之ヲ「タンク」油ヲ輸入スヘキ他港ヘ送付スヘシ又增價ヲナシタルトキハ其旨ヲ仕入書ノ寫シニ記入シテ送付スル事
但シ緊急ノ場合ハ電報ヲ以テ通知スル事
(3)橫濱稅關ヨリ駐歐領事ニ依賴シテ「タンク」市價ヲ取調フル事

一輸出銅類ノ價格橫濱神戶二港ノ間ニ庭徑アルコトノ問題ニ就テハ抑モ銅類ノ價格ハ大ニ品質ノ良否ニ關係アルヲ以テ互ニ其品質ヲ精密ニ分拆シ其分析表ヲ對照シテ品質ノ良否ヲ儘メ其品質ニ準シテ各關時價ニ從ヒ可成一定ノ評價ヲ附スル事
一輸出ノ粉茶ハ季節ニ依リ價格ニ高低アルノ問題ニ就テハ每百斤八圓ヲ最高トシ以下漸次低減スルコト但シ市中相場ニ準ス

類別ノ事項

輸入從量稅品

		稅目第三十八號	革ノ部
一「ロルレル、レザー」	但シ一定ノ寸法ニ切放チ表面ニ光澤ヲ出シ裏面ヲ平滑ニ爲セシモノ		
一「クリアラー、クロース」(毛織物)	同	第七十六號	羅紗ノ部
一「ビリヤー、グロース」(毛織物)	但シ狹ク切放チテ紡績器械ニ用ユルモノ 同	同	同
一造船等ニ使用スル鐵板	但シ各種ノ板形ヲ爲スモノ 同	第四十四號	熟鐵ノ部
一「ホルロー、アイロン」	但シ形ヲ爲セル竿鐵 同	同	同
一「ハンドル、アイロン」	但シ形狀ハ前項ノ「ホルロー、アイロン」ニ類シパケツノ把手ニ用ウル竿鐵ナリ 同	同	同
一「シャフチング、アイロン」	同	同	指令ニ依ル

但シ鎚ヲ以テ鍛ヘタル巨大ナル鐵材

一綿手巾ノ一打宛連續シタルモノ　同　第十五號　手拭ノ部

但シ形付ニシテ内地ニテハ主ニ風呂敷トシテ用ユルモノ

一砲身用塊鋼　同　第五十一號　鋼ノ部

但シ本品ハ三百八十「ミリメートル」乃至四百「ミリメートル」ノ「インゴットスチール」ニシテ砲心用ノ粗製品ナリ

一傘地用綿繻子　同　第十三號　綿繻子ノ部指令ニ依ル

一形付綿フランネル　同　第十一號　綿織物ノ部

一「エラスチック、カンヴァス」　同　第三十九號　麻布類ノ部

但シ「フラックス」製ニ限ル

一夏布（支那地方ヨリ輸入スル粗麻布）　同　同　同

但シ第三十九號ニ依ルモノハ「フラックス」製ニ限ル

一支那麻布及朝鮮麻布　同　同　同

但シ前項ニ同シ

一「クレイプ、フランネル」　同　第八十二號　毛織物ノ部

但シ「メレンス」トシテ

一象牙ノ切片（三吋ヨリ五吋位迄ノモノ）　同　第三十六號　象牙ノ部

但シ本品ハ加工ノ際ニ出テタル屑ニアラスシテ特ニ小サク切リタルモノナリ

一「クロム、エルロー」　同　第三十七號　「ペイント」ノ部指令ニ依ル

但シ粉末ノモノ

一「アイシング、シユガー」　同　第七十二號　白砂糖ノ部

但シ分拆ノ結果ニ依リ白砂糖トナス

一薄地綿帆布　同　第十一號　綿織物ノ部

一「フエザー、エッヂ、コンペックス、アイロンバー」　同　第四十四號　熟鐵ノ部

但シ其形狀略ホ前ノ「ホルロー、アイロン」ニ類ス

輸入從價稅品

「一ネールアイロン」

但シ 上圖ノ如キ竿鐵ニシテ普通ノ「ネール、ロット、アイロン」ニアラス

一「チヤンネル、アイロン」「ダーブル、アングル、アイロン」「チー、バルブ、アイロン」ノ類

一綿ダマスク連續飯臺掛

但シ壹枚ツヽ切放ツヘキ分界ノアルモノニ限ル

又分界ノ分明ナラサルモノニシテ幅四十「インチ」ヲ超ヘサルモノハ第十三號綿純子從量稅

一毛織形付連續卓子掛（地合フランネルニ類ス）

但シ從價稅トナスモノハ幅七十吋前後ニシテ卓子掛地ト認ムルモノニ限ル

一連綿ノ綿手巾地

但シ本品ハ特ニ切放ツヘキ筋ヲ織出シタルモノニシテ其地合ハ晒金巾ニ類ス

一雨覆用ノ「カンヴアス」

但シ「フラックス」以外ノ纖維ヲ交ヘタルモノニ限ル

一「ルームドーラス」

但シ前同斷

一「グラス、クロース」
一更紗ノ腰巻
　但シ本品ハ印度ヨリ輸入スル更紗ニシテ巾個ノ長キ凡ソ三吋位ニ切斷セシノミニテ巾人ノ腰巻ニ使用スルモノナリト云ヘリ然レトモ普通ノ更紗ヲ短ク切リタル迄ノモノナレハ小切更紗トシテ從價稅ニ決ス
一加工屑象牙
　但シ象牙細工ヲ爲ス時ニ出テタル屑
一椰皮蓆
　但シ一定ノ大サニ切斷シテ綿布ノ緣ヲ取リ鉸付スヘキ紐ヲ付セル等既ニ一ツノ敷物ト認メ得ルモノ
一活　鶴
　但シ本品ハ普通本邦ニ於テ食料ニ供セス主モニ動物園等ニ飼養スルモノナレハナリ
一葉卷シカレツト
一支那木棉
一動植物標本
一看　板
　但シ課稅スヘキ相當ノ價格アリト認ムルモノニ限ル
一地圖、海圖及地球儀
一「クリスマスカード」
一集書本

　但シ書手本ハ無稅
一「インゴット、アイロン、スラブ」
　但シ煉鐵製ノモノニ限ル　鑄鐵製ナレバ第四十五號ノ從量稅
一「エムポースド、チンプレート」
　但シ「チンプレート」ニ形ヲ打出シタルモノ
一膃ヲ拔キ鹽ヲ施シタル鳥類
一朝鮮國通用銅錢
　但シ潰シ地金ト見ルナリ
一砂糖ノ包裝ニ用ヒシ故「アンペラ」嚢
　但シ糖汁ヲ搾出スル爲メ輸入スルモノ
一無地羽二重（他國ニ輸出シ染色ノ上再輸入スルモノニ限ル）
　但シ橫濱稅關伺ニ對スル指令ニ依ル
　從量從價ノ區別ハ橫濱稅關ニ於テ分拆ノ結果ヲ俟テ更ニ協議スヘキ物品
一「パテント、ドライアー」
　輸入從量從價ノ鑑別ハ實際ノ認定ニ任スル物品
一鐵板及棒鐵ノ切片
一鐵線切屑（スクラップ、アイロン、ワイアー）
一砲車用材（ガンカーレジ、マテルアル）
一「サンマー、フランネル」（薄地毛織物）
　但シ名稱ニ拘ハラス實際ノ認定ニ任ス

一毛織紡績交織フランネル（綿ノ少ナキモノ）
仕入書面ニ毛綿ナルコトヲ明記シアル場合ニハ毛綿交織トナシ單ニ仕入書面ニフランネルト記載シアルトキハ實際ノ認定ニ任ス

輸入無税品

一連續紋縮緬腰帶
但シ本品ハ支那ヨリ輸入スルモノニシテ毎反五筋分一筋毎ニ切放ツヘキ二條ノ筋ヲ織出シ又其分界ニハ横糸ヲ拔キテ切斷スヘキ區劃ヲ示シ腰帶トナスコト顯然タルモノ

一金屬製ノ胴締
但シ衣服ノ部ニ依ル

一日本壹分銀及壹朱銀（地金ト看ル）
但シ其名稱ハ參考ノ爲メ申告書ニ記入シ置ク事

一「デー、ブロック」（壹枚宛剝キ取ルヘキ暦ナリ）
但シ書籍類ト看ル

損傷品修復ノ後再輸入ノ件

一機械類ヲ輸入シ一旦使用ノ後損傷ヲ生シタルニ依リ修復ノ爲メ積返シ修繕ヲ加ヘテ再ヒ輸入スル場合ニハ課税セサル事

輸入税ノ徴否ハ經伺ヲ要スル物品

一富ノ闥札

輸出從量税品

一糸屑　輸出税目第四十三號　屑糸ノ部

一「ラーヂ、スキン」（一種ノ製茶）品質ニ依リ等四十七號ノ茶或ハ第四十八號ノ番茶トス

一金巾類ノ繿縷　輸出税目第二十九號　屑布ノ部

一精製樟腦　輸出税目第三號　樟腦ノ部

一トロ、昆布　同　第三十二號　刻昆布ノ部

一慰斗昆布　同　第三十一號　板昆布ノ部

輸出從價税品

一黄銅潰地金

一礦水

一亞鉛錠（故亞鉛ヲ内地ニテ鑄潰シ錠トナシタルモノ）

一明骨

一刻鯣

一海老及貝ノ佃煮

一肥料用ノ干海老粕及同干小蟹

一鯖酢漬

一烏賊ノ鹽漬

一屑昆布

一挽茶

一骨茶

一磚茶

一粉茶

一玉　茶　明治十三年六月布告第二九號輸出免稅品
一精製安質母尼　同
一硫化安質母尼　同
一粉末安質母尼　同
一屑眞鍮　明治二十一年十二月勅令第八三號輸出免稅品
一鋼
一屑　鐵　同
一毛　皮　同
一生毛皮　同
一「ラムネ」　同
一「ヂンヂャ、エール」　同
一「ソーダ、ウヲター」　同
一鹽キガリ　同
一石油殘滓　同
一凍　氷　同
一油石灰（パッティー）　同
一製紙原料　同
一「タール」及ヒ「ピッチ」　モチ以テ單ニ製作シタルモノヽ部
一燈　心　綿ノ部
一硝子塊　玻璃ノ部

但シ硝子ヲ鑄流シテ塊ト爲セシモノ

一硝子粉末　同
一和製毛織糸　同
一屑　綿　同
一屑　麻　同
一竹削屑　同
一魚　鰾（從前魚鰾ト稱スルモノハ自今以後魚油トス）　同
積返品ノ部
一糖密及酒類ノ樽ヲ解キ放チタルモノ　積返品トシテ無稅
一鐵鐵トシテ輸入シ帶鐵トシテ使用シタルモノ　同
一葉鐵（石油鑵ノ潰シ物）　同
一輸入器械類ノ潰地金
潰地金トシテ課稅スルカ或ハ積返ノ器械トシテ免稅スルカハ實際ノ認定ニ任ス
輸出稅ノ徵否ハ經伺ヲ要スル物品
一內地ニテ着色シ再輸出スル紅茶（但シ輸入稅濟品）
輸出稅ノ徵否アルヤ否ハ經伺ヲ要スル物品
一輸入ノ毛織糸ヲ內地ニテ染色シ包裝ヲ改造シ再輸出スルモノハ之ヲ內國製品ト認メ得ルヤ如何

附　言

前記各品ノ取扱方ヲ通觀スルトキハ類別ノ方針一途ニ出サルノ嫌アルヲ免レスト雖モ抑モ從前各港ノ取扱方タル多年ノ慣例ニ依リ不文律ト爲リ居ルモノアリ或ハ指令ニ基クモノアリ今之ヲ一定

ノ方針ニ依テ改正セントスルハ勢ヒ多年ノ慣例ヲ破毀シ或ハ指令取消ノ上請ヲ要スルモノアルニ至ラン然リ而シテ前途ヲ考フレハ關稅定率法既ニ發布セラレ條約稅ノ完成亦期年ヲ出サラントス此際ニ方リ現行稅目ニ關スル取扱方ヲ一定ノ方針ニ依リ改正セント企圖スルハ蓋シ策ノ得タルモノニアラサルヘシ況ンヤ本案ノ旨趣ハ單ニ從前各港取扱方ノ區々ニ渉ルモノヲ一致セシムルニ在ルヲ以テ本會ニ於テハ類別ノ方針一途ニ出サルコトハ姑ク問題ノ外ニ措ケリ

類別方法ニ關スル事項

輸入ノ部

一支那燒酎、紙製壺入）　同
一露國ラウオッカー（樽入）　同

右二品ハ「アルコール」ト燒酎トノ度合ノ分界定マル迄ハ燒酎トシテ取扱フ事

輸出ノ部

一混交茶ノ類別　有稅

右ハ實際混交ノ歩合ニ從テ引分ケ分類スル事

包裝費試驗料等貨物ノ元價ニ加算シテ課稅スヘキモノト否ラサルモノトノ區別

一染料ヲ入レタル鑵代　同
一酸化古扱留篇ヲ入レタル鑵代　同
一漆及香水ノ瓶箱幷ニ「シール」　瓶代ハ有稅箱以下ハ無稅
一乾麵包ヲ入レタル鑵代　有稅
一油及脂肪類ヲ入レタル鑵、瓶、桶等　同
一乳油類ノ包裝

但シ外函代價ヲ特揭シタルモノハ其外函代價ヲ除ク然レモ石油、松精油、アルコール等ノ特別ノ場合ニハ外函代ヲモ籠メテ課稅ス

一幾那鹽其他製藥ヲ入レタル瓶　同
一紙卷煙草及剉煙草ヲ入レタル鑵　同
一鑵詰食物等ノ鑵　同
一硫酸等ヲ入レタル瓶　同
一火藥及他ノ瀑發物ヲ入レタル箱樽及鑵等　同

但シ外函ノ代價ヲ除ク

一金銀細貨類ヲ入レタル飾筐　同
一海底電信ヲ貯藏シタル「タンク」　同
一懷中時計ノ筐及眼鏡入レノ革筐等　同
一塗料ヲ入レタル鑵　同
一乾酪ヲ包タル鑵　同
一曹達水ヲ容レテ一時輸入シ其包有物ヲ消費シタル後積返リ更ニ同物ヲ容レテ輸入スル容器　同
一「チヨコレート」及菓子類ヲ入レタル彩色筐　同
一苛性曹達ノ鑵　同
一「ホワイトレッド」及「ホワイトジンク」ヲ入タル鑵　同
一獵銃等ニ附屬シタル筐類　同
一鐵鑵ノ極印料　同

一水銀ヲ入レタル鐵鑵　有税
一食鹽ヲ入レタル瓶　同
一松精油、アルコール類ヲ入レタル鑵及外箱　同
一織物類ヲ入レタル外箱内ノ「ブリツキ」　無税
一針金鋼及鋼ヲ卷キタル眞（外裝ト看做ス）　同
一酒類ヲ入レタル二重樽ノ外樽　同
一見本品ヲ入レタル小箱數個ヲ運搬ノ便ヲ計リ大箱ニ入レ輸入スルトキ内外ノ箱料　同
一英國產麻糸ノ包裝ニ使用セル綿布（スッパー）　同
一亞鉛板ヲ入レタル樽ノ「ライニング」　同
一仕入書ニ記載シアル諸器械ノ試驗料　同
但シ精密ナル學術用機械ノ證明書ノ如キ之ヲ付貳セサレハ授受ノ出來サルモノハ有税

備　考

從量税品及無税品ノ場合ニ於テ元價ニ加算スヘキ性質ノ包裝費ハ其元價中ニ算入スルニ止メ包裝費ニ對シ別ニ課税スルコトナシ

一、「ハム」及「ベーコシ」輸入ノ際腐敗ヲ防ク爲メ施シタル鹽及包纏シタル帆布代ハ包裝費ト看做シ課税スヘカラストハ關税局長ノ指令ナリ此指令ハ取扱上不便ナレトモ別段ニ取消ヲ上申セサル事

雜　件

新規若クハ取扱上疑義ニ渉ル輸出入品ノ件

一新規若クハ取扱上疑義ニ渉ル輸入品若クハ輸出品アルトキハ同品ノ輸入若クハ輸出ノ見込アル他港ニモ直ニ其見本ヲ送達シテ取扱振リ等ヲ打合スル事

國定税率ニ規定セル各種物品ノ見本ノ件

一國定税率ニ規定セル各種物品ノ見本ヲ豫メ各税關ニ備付スルノ必要アルヲ以テ此等ノ見本品ハ追テ各税關ヨリ之ヲ本省ニ請求スル事

税關ニ於テ定ムル輸入品諸費歩合ノ件

一税關ニ於テ定ムル輸入品諸費ノ歩合ヲ各港畫一ニ爲スノ問題ニ就テハ各港ニ於テ毎月產地、製造地、仕出港ヲ記シタル表ヲ作リ之ヲ交換比較シ以テ均一ナラシムルヲ得ヘキモノハ之ヲ一定シ其一定シ得ヘカラサルモノハ之ヲ其儘ニ存シ置キ各港適宜ノ處分ニ任シ又其交換表ハ課税原簿乙號ニ依リ項別ヲ爲シテ調製セハ書式モ區々ニ渉ラスシテ可ナリ而シテ毎月表中ノ疑點又ハ新ニ協議ヲ要スルモノアルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ次ノ協議會ニ於テ決定スルコト、シ若シ新規ノ輸入物品アルトキハ電信ニテ之ヲ各關ニ問合スルコト

税關ニ於テ使用スル秤量器ノ件

一税關ニ於テ使用スル秤量器ノ件ハ漸次日本秤量若クハ佛式秤量ニ改ムルノ可否如何ノ問題ハ充分取調ノ上次會ニ於テ協議決定スルコト

仕入書ノ件

一仕入書ハ申告人ヲシテ製造元若クハ仕入元ノ原仕入書ヲ提出セシムル樣各港ニ於テ同一ノ方針ヲ取ル事ノ問題ニ就テハ新條約ノ實施モ切迫シ居ルヲ以テ其實施ノ曉迄勵行シ得ラル、限リ原仕入書ヲ差出メシムルコト、シ不得止場合ニ限リ各關從前ノ取扱ニ委スル事

若シ仕入書中疑ハシキ點アルトキハ之ニ對スル證明ヲ爲サシメ又虛僞ノ事實明白セシ時ハ日澳交易定則第五則若クハ税關法第五條ニ依リ處罰スル事

仕入書未着ノ場合ニ受理スヘキ理由書ノ件

一仕入書ナキ場合ニ受理スヘキ理由書ノ書式ヲ各港同一ニスルコトノ問題ニ就テハ横濱ニ於テ現ニ受理スル理由書ヲ可トス

申告書面鑑定價ノ欄ニ記載スヘキ價ノ件

一申告書面鑑定價ノ欄ニ記載スヘキ事項ヲ各港同一ニスルノ問題ニ就テハ稅關ニ於テ記入スルモノハ總テ此欄内ニ記スルヲ可トスルモ實際ハ從來ノ如ク各關適宜ノ取扱ニ任スル事

機械類輸入ノ際預リ稅ノ件

一機械類輸入ノ際仕入書ナク且其重量等モ分明ナラサルトキ預リ稅ヲ爲スノ當否如何ノ問題ニ就テハ各關鑑定課長ノ見込ニ依リ便宜ノ取扱ヲナス事

收稅後不足貨物ノ爲メ申告書面訂正ノ件

一收稅後貨物ノ不足ヲ生シタル場合其原量ヲ訂正スルカ又ハ原量ヲ其儘据ヘ置キ其不足ノ數量ヲ下部ニ記入シ差引スルカノ問題ニ就テハ原量ニ朱線ヲ畫シ其下部ニ訂正數量ヲ記入スル事

申告書面ニ記入スヘキ單位以下小數ノ件

一仕入書ヲ附シ申告スル單位以下ノ小數ハ其儘ニ据置キ更ニ記入スルモノハ高價品ヲ除キ其總計額ヲ碼、ポンド斤等ニ止メ總テ單位以下ノ小數ヲ省略シテ四捨五入スル事

主稅局案ニ對スル決議

一新ニ査定法ノ大綱ヲ定メ之ニ基キテ各稅關ニ於テ輸入物品ノ純量ヲ檢定シ及其包裝ノ種類ニ從ヒ風袋ノ片量等ヲ書一ニ爲ス事

（決議）査定ノ方法ハ各關ニ於テ調査シ次ノ協議會ニ提出シ而シテ之ヲ決定スルコト又風袋ノ件ハ本會議ノ議案（風袋ノ）ニ據ルヘキ事

一各稅關ニ於テ輸入物品ノ價格及諸費ノ歩合ヲ書一ニナサンニハ鑑定課ニ備フヘキ帳簿ノ整理完全ナラサレハ能ハス現時各稅關ニ備フル處ノ帳簿ヲ以テ足レリトスル乎又記帳ノ方法ニ於テ改善ヲ要スル事ナキヤ

（決議）各港雜形ヲ取寄セ之ニ依リ互ニ協議決定スルコト、ナリシモ開會中各關ヨリ雜形到着セサリシヲ以テ本會ニ於テ之ヲ議スル運ニ至ラス依テ會長ヨリ其旨ヲ主稅局ニ報告スル事

一關稅定率法ノ稅表ニ揭クル物品中從量稅ト爲サント欲スル爲メ既ニ本局ヨリ各關ニ向テ諸掛費ノ調査ヲ要求セラレシ物品ノ他ニ從量稅品ニ更ムヲ可トスル物品アリヤ宜シク協議アラン事ヲ望ム

決議　本案ハ篤ト調査ヲ要スル問題ナレハ遽ニ本會ニ於テ定メ難シ故ニ追テ主稅局長ヨリ各關ノ意見ヲ徵セラレンコトヲ希望ス

八、徵收課事務

十五、處務細則　二十六年十月各課處務を配布せり今徵收課に屬するもの及其改正の順序を尋れは左の如し

徵收課

第一條　徵收課ニ調定係收入係ヲ置キ其事ヲ分掌セシム

第二條　調定係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條　輸出入及噸稅ヲ調定シ之ヲ申告書ニ記載スヘシ

第二章　分課事務

第四條　輸入從價稅品ノ元價ヲ換算シ稅額ヲ算定スヘシ

第五條　借庫敷料雜庫敷料上屋及敷地料船舶出入港手數料其他雜收入ヲ調定スヘシ

第六條　輸出入稅及稅關雜收入本納金及過誤納金返戻追徵及內外國人內地回漕貨物ノ預リ稅額ヲ調定整理スヘシ

第七條　船舶艙口破封其他犯則ニ係ル罰金等ヲ調定スヘシ

第八條　輸出入稅ノ從量從價及庫租出入港手數料雜收入金ヲ區別合計シ日々之ヲ調定原簿ト對照シテ日計簿ニ記入スヘシ

第九條　關稅及稅關諸收入ノ納入告知書ヲ調製スヘシ

第十條　關稅及稅關諸收入ノ調定額ヲ各調定原簿檢定簿及日計簿ニ登記スヘシ

第十一條　收入官吏ノ調製セル每月收入報告書收入金仕譯書及收入金月計對照表ニ對スル總報告書ヲ調製スヘシ

第十二條　輸出稅及雜收入ニ關スル證憑書類ヲ取纏メ之ヲ下檢查官ニ送付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　過誤納金額明細書及他港回漕預リ證明細書ヲ調製スヘシ

第十四條　納入告知書ノ番號金額及其他ノ要件ヲ調定原簿ニ登錄シ告知書ニ關長ノ印ヲ押捺シ元簿ト割印シテ之ヲ發スヘシ

第十五條　歲入豫定計算書歲入月額金庫區分表及歲入增減計算書ヲ調製スヘシ

第十六條　收入係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第十七條　關稅及稅關諸收入ノ金額ヲ納入告知書ニ基キ納入ヲシテ本金庫ニ納付セシムヘシ

第十八條　本金庫ヨリ回付シタル領收書ヲ檢定シ之ヲ納人ニ交附スヘシ

第十九條　本金庫ヨリ差出ス稅金領收日計表ヲ檢定シ之ヲ保存スヘシ

第二十條　本金庫ヨリ差出ス歲入金月計對照表ニ證明ヲ爲スヘシ

第廿一條　諸收入ニ係ル現金ノ預リヲ爲シ本金庫ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

第廿二條　保管金ノ內ヨリ拂出ス金額ノ仕拂切符ヲ發スヘシ

第廿三條　無請求品公賣代金ヲ買受人ヨリ受取リ之ヲ本金庫ニ保管セシメ又ハ其仕出ヲ爲スヘシ

第廿四條　保管金ノ內ヨリ仕出シタル金額ヲ每月合計シ本金庫ヨリ差出ス雜部金月計對照表ニ證明ヲ爲スヘシ

第廿五條　關稅及稅關諸收入ノ現金ヲ受取リタル時ハ其領收證ヲ發スヘシ

第廿六條　前條ノ現金ヲ受取リタルトキハ現金拂込書ヲ製シ定期限內ニ之ヲ本金庫ニ送附スヘシ

第廿七條　本金庫ヨリ現金拂込書ノ領收書ヲ得ルトキハ之ヲ定期限內ニ關長ニ提出シ檢定ヲ受クヘシ

第廿八條　收稅表及每月收入報告書ニ收入金仕譯表及本金庫ヨリ送附ノ歲入金月計對照表ヲ添ヒ定期限內ニ之ヲ關長ニ提出スヘシ

第廿九條　收入計算書現金出納計算書收入內譯表書及之ニ對スル證憑書類ヲ定期限內ニ關長ニ提出スヘシ

第三十條　調定係ヨリ發シタル納入告知書ヲ收入簿調定額欄內ニ登記シ告知書ヲ納人ニ交付スヘシ

第卅一條　納人現金ヲ本金庫ニ納付シタルトキハ收入簿ニ收入濟ノ記入ヲナスヘシ

第卅二條　領收證ノ別符ヲ輸出稅輸入稅庫出租出入港手數料ノ五科目ニ分チ日計ヲナシ之ヲ收入簿ト對照スヘシ

第卅三條　現金出納簿ニ現金ノ出納ヲ記入スヘシ

第二章　分課事務

第卅四條　收入報告表收入金仕譯書收稅表收入內譯書現金出納計算書ヲ調製スヘシ

第卅五條　調定濟額ノ更正アルトキハ調定係ヨリ其事由書ヲ得テ式ニ依リ收入簿ノ更正ヲ爲スヘシ但調定濟額ノ取消アルトキハ調定官ヨリ通知ヲ得テ式ニ依リ收入簿ノ取消ヲナスヘシ

後二十九年六月各課處務細則ヲ改定シ其徵收課ニ屬スルモノヽ中第十一條第十九條ノ二條ヲ改刪シ他ハ毫モ加筆スルコトナク之ヲ襲用セシメタリ後三十一年各課分掌規定ノ改定配布ト共ニ

第八條　徵收課ニ於テハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一、海關稅幷稅外諸收入ノ調定

二、納入告知書ノ調製

三、海關稅幷稅外諸收入金ノ返戻及追徵

四、調定濟額收入濟額及收入未濟額ノ整理

五、現金出納ニ關スル取扱

六、調定額計算書及諸明細書ノ調製

七、收入報告書同計算書及現金出納計算書ノ調製

八、金庫收入月計對照ノ證明

九、諸證憑書類ノ取扱

十、支署ヨリ送附スル調定諸計表ノ調査及保管

十一、歲入豫定計算書同增減表ノ調製

等の各事項を分掌せしめたり

十六、租稅及租稅外諸收入　大藏省より毎年租稅及租稅外諸收入豫定計算書調製順序を定めて配布し稅關に於ける各收入の豫算を徵し之れに據りて確定豫算を調製して更らに之を配布せり而して今之れに對する二十六年度以降三十一年度に至る當關の實收入を見れは左の如し

明治二十六年度歲入租稅增減表

科目	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	翌年度へ繰越額	豫算額ニ對シ調定額增△減	豫算額ニ對シ收入濟額增△減
歲入經常部							
租稅	一九五、八三四、八四一	一九五、八三四、八四一	一九五、八三四、八四一	—	—	—	—
海關稅	一九五、八三七、八四一	一九五、八三七、八四一	一九五、八三四、八四一	—	—	一〇三、九五三、五三一	一〇三、九五三、五三一
輸出稅	一九、八五五、七〇一	一九、八五五、七〇一	一九、八五五、七〇一	—	—	九、三七一、三六一	九、三七一、三六一
輸入稅	一七五、九五二、一四〇	一七五、九五二、一四〇	一七五、九五二、一四〇	—	—	九四、五八二、一七〇	九四、五八二、一七〇

右表中△印ハ朱書ナリ以下之ニ準ス

明治二十六年度歲入租稅外諸收入增減表

科目	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	翌年度へ繰越額	豫算額ニ對シ調定額增△減	豫算額ニ對シ收入濟額增△減
歲入經常部							
官物物貸下料	六三、一九三	五九、三六六	五九、三六六	—	—	△ 三、八二六	三、八二六
稅關雜收入	六、九八一、五二三	七、八七六、二七四	七、八七六、二七四	—	—	八九四、七五二	八九四、七五二
官業及官有財產收入	七、〇四四、七二五	七、九三五、六四〇	七、九三五、六四〇	—	—	八九〇、九二五	八九〇、九二五
庫租	四、四七四、九二八	四、二〇七、四二九	四、二〇七、四二九	—	—	△ 二六七、四九九	△ 二六七、四九九

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰翌年度へ越額	調定額増△減	入済額増△減
輸出入品検査手数料	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	一、〇〇〇円	—	—	—	—

明治二十八年度歳入租税外諸収入増減表

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰亜年度越額	調定額増＝△減ノ	収入済額増＝△減ノ
歳入経常部							
第三款　財産及営業収入							
第一項　税関雑収入	八六七・五六	八五九・六六	八五九・六六			△ 三四・〇〇	△ 三四・〇〇
港湾使用料	四五五・〇〇	四五八・〇三	四五八・〇三			△ 六・一〇	△ 六・一〇
収入金	一九六・〇〇	一九六・〇〇	一九六・〇〇			△ 一・七〇	△ 一・七〇
雑出金	二〇三・五六	二〇三・五六	二〇三・五六			△ 四九・〇〇	△ 四九・〇〇

明治二十八年度歳入租税増減表

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰亜年度越額	調定額増＝△減ノ	収入済額増＝△減ノ
輸出税	三九・七〇一・四四	三九・七〇一・四四	三九・七〇一・四四			△ 一三・九〇・三六	△ 一三・九〇・三六
輸入税	二一一・四一・三六	二一一・四一・三六	二一一・四一・三六			△ 一九・四一〇・八四	△ 一九・四一〇・八四
海関税	三〇八・一六・二四	三〇八・一六・二四	三〇八・一六・二四			△ 一四・〇七・三一	△ 一四・〇七・三一

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰亜年度越額	調定額増＝△減ノ	収入済額増＝△減ノ
歳入経常部							
第三款　財産及営業収入							
第一項　税関雑収入	八六七・五六	八五九・六六	八五九・六六			△ 三四・〇〇	△ 三四・〇〇
港湾使用料	四五五・〇〇	四五八・〇三	四五八・〇三			△ 六・一〇	△ 六・一〇
収入金	一九六・〇〇	一九六・〇〇	一九六・〇〇			△ 一・七〇	△ 一・七〇
雑出金	二〇三・五六	二〇三・五六	二〇三・五六			△ 四九・〇〇	△ 四九・〇〇
第四款　諸収入							
第一項　官吏遺族共済法納金	四四・七五三	四四・七五三	四四・七五三				
第二項　官吏遺族共済法納金	四四・七五三	四四・七五三	四四・七五三				
第三項　雑収入	一〇〇・七五	一〇〇・七五	一〇〇・七五				
第四款　建物貸下料							
第一項　代物代物	一・三三	一・三三	一・三三				
第二項　代物代物	一・三三	一・三三	一・三三				
第三項　建物貸下料	六・一三	五・一三	五・一三				
第四款　雑収入							
第一項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第二項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第三項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第四款　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第一項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第二項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第三項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第四款　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第一項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第二項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第三項　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二
第四款　雑収入	一一・六五	一〇・〇四三	一〇・〇四三			△ 一・六二	△ 一・六二

明治二十九年度歳入租税増減表

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰越年度額ヘ	調定額増ニ対シ△減	収入済額増ニ対シ△減
輸入税	三五、六八三、〇〇〇	三五、六八三、〇〇〇	三五、六八三、〇〇〇				
輸出税	一四、九〇〇、〇〇〇	一四、九〇〇、〇〇〇	一四、九〇〇、〇〇〇				
海関税	七九、〇三五、五六	七九、〇三五、五六	七九、〇三五、五六				
租税	四八、五七九、二五	四八、五七九、二五	四八、五七九、二五				
歳入経常部	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二				

明治二十九年度歳入租税外諸収入増減表

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰越年度額ヘ	調定額増ニ対シ△減	収入済額増ニ対シ△減
歳入経常部							
第二款官業及官有財産収入	七、〇八六、五四三	一〇、三六四、五六八	一〇、三六四、五六八			三、七七八、〇二四	三、七七八、〇二四
第三款雑収入	三、七一三、三三五	五、九四一、三五五	五、九四一、三五五			二、二二八、〇二〇	二、二二八、〇二〇
第四款雑収入	一、八七〇、〇〇〇	二、一四〇、〇〇〇	二、一四〇、〇〇〇			二七〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇
第一款第一項官吏遺族扶助法納金	四、二三七	四、二三七	四、二三七				
第四項官吏遺族扶助法納金	四七、三四五	四七、六四五	四七、六四五			三〇〇	三〇〇
第一款第五項輸出酒類戻税還納金		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇			一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
第一款第一項輸出貴戻税還納金	一〇、〇〇〇						
第一款第四項雑収入	六、八六二	六、八六二	六、八六二				
第一款第四項雑収入臨時部	四、五七九、二五	一一、三五〇、五六	一一、三五〇、五六			六、七七〇、三一	六、七七〇、三一
第一款第四項雑収入合計	四、五九四、一三一	一一、三六一、四〇三	一一、三六一、四〇三			六、七七〇、三一	六、七七〇、三一
第一款第五項納付金補足							
第一款第五項物品売払代金							
第一款第四項拂下物品代金							
第一款第四項官有物拂下代金							
第一款第四項官有地拂下代金							
第一款第四項臨時部収入合計	四、五九四、一三一	一一、三六一、四〇三	一一、三六一、四〇三			六、七七〇、三一	六、七七〇、三一
総計	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二				
納付金							
第一款第五項納付金補足							
第一款第四項拂下物品代金							
第一款第四項官有物拂下代金							
第一款第四項官有地拂下代金							
第一款第四項臨時部収入合計							
総計	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二				

雑出庫入港収租入関入有

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰越年度額ヘ	調定額増ニ対シ△減	収入済額増ニ対シ△減
歳入経常部							
第二款官業及官有財産収入	七、〇八六、五四三	一〇、三六四、五六八	一〇、三六四、五六八			三、七七八、〇二四	三、七七八、〇二四
第三款雑収入	三、七一三、三三五	五、九四一、三五五	五、九四一、三五五			二、二二八、〇二〇	二、二二八、〇二〇
第四款雑収入	一、八七〇、〇〇〇	二、一四〇、〇〇〇	二、一四〇、〇〇〇			二七〇、〇〇〇	二七〇、〇〇〇
第一款第一項官吏遺族扶助法納金	四、二三七	四、二三七	四、二三七				
第四項官吏遺族扶助法納金	四七、三四五	四七、六四五	四七、六四五			三〇〇	三〇〇
第一款第五項輸出酒類戻税還納金		一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇			一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
第一款第一項輸出貴戻税還納金	一〇、〇〇〇						
第一款第四項雑収入	六、八六二	六、八六二	六、八六二				
第一款第四項雑収入臨時部	四、五七九、二五	一一、三五〇、五六	一一、三五〇、五六			六、七七〇、三一	六、七七〇、三一
第一款第四項雑収入合計	四、五九四、一三一	一一、三六一、四〇三	一一、三六一、四〇三			六、七七〇、三一	六、七七〇、三一
第一款第五項納付金補足							
第一款第五項物品売払代金							
第一款第四項拂下物品代金							
第一款第四項官有物拂下代金							
第一款第四項官有地拂下代金							
第一款第四項臨時部収入合計	四、五九四、一三一	一一、三六一、四〇三	一一、三六一、四〇三			六、七七〇、三一	六、七七〇、三一
総計	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二	一七六、一二四、八六二				

第九項 官有物貸下料	五四、二五二	五四、二五二	五四、二五二	—	—	—	—
建物買下料	五四、二五二	五四、二五二	五四、二五二	—	—	—	—
第四款雜收入	五七、一三六	五九〇、〇六九	五九〇、〇六九	—	—	五三二、九三三	五三二、九三三
第四項雜入	二、六七〇	五三二、七四二	五三二、七四二	—	—	五三〇、〇七二	五三〇、〇七二
返納金	二、六七〇	二九、一二〇	二九、一二〇	—	—	二六、四五〇	二六、四五〇
輸出酒類戻稅還納金	—	四〇九、八二八	四〇九、八二八	—	—	四〇九、八二八	四〇九、八二八
輸出糞戻稅還納金	—	九三、七九四	九三、七九四	—	—	九三、七九四	九三、七九四
第五項 官吏遺族扶助法納金	五四、四六六	五七、三二七	五七、三二七	—	—	二、八六一	二、八六一
官吏遺族扶助法納金	五四、四六六	五七、三二七	五七、三二七	—	—	二、八六一	二、八六一
合計	七、六六五、七〇〇	一〇、九七四、七二七	一〇、九七四、七二七	—	—	三、三〇九、〇二七	三、三〇九、〇二七
歳入臨時部							
第二款 官有物拂下代	四九、八七〇	六五、七〇二	六五、七〇二	—	—	一五、八三二	一五、八三二
第四項 物品拂下代	四九、八七〇	六五、七〇二	六五、七〇二	—	—	一五、八三二	一五、八三二
物品拂下代	四九、八七〇	六五、七〇二	六五、七〇二	—	—	一五、八三二	一五、八三二
第六款 製艦費補足金	五四四、六六〇	五七二、八六一	五七二、八六一	—	—	二八、二〇一	二八、二〇一
第二項納付金	五四四、六六〇	五七二、八六一	五七二、八六一	—	—	二八、二〇一	二八、二〇一
納付金	五四四、六六〇	五七二、八六一	五七二、八六一	—	—	二八、二〇一	二八、二〇一
合計	五九四、五三〇	六三八、五六三	六三八、五六三	—	—	四四、〇三三	四四、〇三三
總計	八、二六〇、二三〇	一一、六一三、二九〇	一一、六一三、二九〇	—	—	三、三五三、〇六〇	三、三五三、〇六〇

明治三十年度歳入租稅增減表

科目	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	翌年度へ繰越額	豫算額ニ對シ調定額增△減	豫算額ニ對シ收入濟額增△減
歳入經常部							
租稅	五九、〇一九、四三五	九一、六八〇、一八六	九一、六八〇、一八六	—	—	三二、六六〇、七五一	三二、六六〇、七五一
海關稅	五九、〇一九、四三五	九一、六八〇、一八六	九一、六八〇、一八六	—	—	三二、六六〇、七五一	三二、六六〇、七五一
輸出稅	一二、八八五、二一九	七、九〇二、六二五	七、九〇二、六二五	—	—	△四、九八二、五九四	△四、九八二、五九四
輸入稅	四六、一三四、二一六	八三、七七七、五六一	八三、七七七、五六一	—	—	三七、六四三、三四五	三七、六四三、三四五

明治三十年度歳入租稅外諸收入增減表

科目	豫算額	調定濟額	收入濟額	不納缺損額	翌年度へ繰越額	豫算額ニ對シ調定額增△減	豫算額ニ對シ收入濟額增△減
歳入經常部							
官業及官有財産收入	七、五〇七、九〇六	九、六九六、七二八	九、六九六、七二八	—	—	二、一八八、八二二	三、一八八、八二二
稅關雜收入	七、四五三、六五四	九、六五〇、五七六	九、六五〇、五七六	—	—	二、一九六、九二二	二、一九六、九二二
庫租	三、八三八、三四〇	五、九五七、四五六	五、九五七、四五六	—	—	二、一一九、一一六	二、一一九、一一六
出入港銀	一、七八四、〇〇〇	一、四二九、〇〇〇	一、四二九、〇〇〇	—	—	△三五五、〇〇〇	△三五五、〇〇〇
雜收	一、八三一、三一四	二、二六四、一二〇	二、二六四、一二〇	—	—	四三二、八〇六	四三二、八〇六

明治二十一年歳入租税外諸収入増減表

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰越年度額へ	調定済額増△減シ	収入済額増△減シ
歳入経常部							
官業及官有財産収入	七、五〇六、六四〇	一〇、一〇六、六四〇	一〇、一〇六、六四〇				
関税	七、四五三、六四〇	一〇、〇六〇、六四〇	一〇、〇六〇、六四〇				
雑収入	三、〇五〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
出港税	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
入港税	二、〇五〇、〇〇〇	〇	〇			△ 一、〇四〇、〇〇〇	△ 一、〇四〇、〇〇〇
租税	三、四五三、六四〇	九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇			九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇
輸出税	三、四五三、六四〇	九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇			九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇
輸入税	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇			一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇
海関税	二、〇五三、六四〇	八、〇二〇、六四〇	八、〇二〇、六四〇			八、〇二〇、六四〇	八、〇二〇、六四〇
歳入臨時部							
総計	七、四五三、六四〇	一〇、〇六〇、六四〇	一〇、〇六〇、六四〇				

明治二十一年度歳入租税増減表

科目	豫算額	調定済額	収入済額	不納欠損額	繰越年度額へ	調定済額増△減シ	収入済額増△減シ
輸入税	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
輸出税	二、〇五三、六四〇	八、〇二〇、六四〇	八、〇二〇、六四〇				
輸出煙草戻税還納金	三、四五三、六四〇	九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇				
官吏遺族共助法納金	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
官吏遺族共助法納金	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
経常部合計	七、四五三、六四〇	九、八四〇、六四〇	九、八四〇、六四〇				
歳入臨時部							
製品代下金	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
官有物払下代	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
臨時部合計	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
総計	八、八五三、六四〇	一〇、八八〇、六四〇	一〇、八八〇、六四〇				
臨時部製品払下代金	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
臨時部官有物払下代金	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
臨時部納付金							
臨時部製艦費補足金							
臨時部納付金							
合計	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
歳入経常部							
官吏遺族共助法納金	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
輸出煙草戻税還納金	三、四五三、六四〇	九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇				
輸入税	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
輸出酒類戻税還納金	三、四五三、六四〇	九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇				
返納金入	二、〇五〇、〇〇〇	〇	〇			△ 一、〇四〇、〇〇〇	△ 一、〇四〇、〇〇〇
雑収入	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇				
建物貸下料	五四、一五三	五四、一五三	五四、一五三				
官有物貸下料	五四、一五三	五四、一五三	五四、一五三				
歳入経常部							
税関税	五、〇一九、四五六	一〇、〇四七、四五八	一〇、〇四七、四五八				
輸入税	五、〇一九、四五六	一〇、〇四七、四五八	一〇、〇四七、四五八				
輸出税	二、八三九、三九	九、三四九、九九	九、三四九、九九				
税関税	一三、一四三、三九六	一三、一四三、三九六	一三、一四三、三九六				
歳入臨時部							
総計	一三、一四三、三九六	一三、一四三、三九六	一三、一四三、三九六				
臨時部製品払下代金	五、一四三、六四〇	五、一四三、六四〇	五、一四三、六四〇				
臨時部官有物払下代金	五、一四三、六四〇	五、一四三、六四〇	五、一四三、六四〇				
臨時部納付金							
臨時部製艦費補足金							
臨時部納付金							
合計	五、一四三、六四〇	五、一四三、六四〇	五、一四三、六四〇				
歳入経常部							
官吏遺族共助法納金	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
輸出煙草戻税還納金	三、四五三、六四〇	九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇				
輸入税	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇	一、〇四〇、〇〇〇				
輸出酒類戻税還納金	三、四五三、六四〇	九、〇六〇、六四〇	九、〇六〇、六四〇				
返納金入	二、〇五〇、〇〇〇	〇	〇			△ 一、〇四〇、〇〇〇	△ 一、〇四〇、〇〇〇
雑収入	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇				
建物貸下料	五四、一五三	五四、一五三	五四、一五三				
官有物貸下料	五四、一五三	五四、一五三	五四、一五三				

| | | |

第十四條　倉庫ニ關スル諸願書ヲ保管スヘシ
第十五條　積荷目錄ノ寫ヲ受領シ陸揚個數ト通關個數ノ通知ヲ得テ之ヲ目錄ニ記入スヘシ
第十六條　積荷目錄中爆發物又ハ危險物ヲ記載シアルトキハ之ヲ其關係課ヘ通知スヘシ
第十七條　庫租及雜庫敷料敷地料ニ關スル諸證憑書類ヲ取纏メ之ヲ會計檢査院ニ送付スルノ手續ヲ爲スヘシ
第十八條　管守係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
第十九條　借庫雜庫敷地ノ貨物ヲ監督シ其位置ヲ整理シ及個數容積數量ヲ調査スヘシ
第二十條　借庫上屋ヨリ本庫ニ移納スル貨物ハ假入貨物帳簿ニ記載シ本課ヘ通知スヘシ
第二十一條　雜庫及敷地ニ出入スル貨物ノ個數容積數量記號番號貨主ノ氏名入庫ノ年月日ヲ貨物出入庫控簿ニ登錄シ又出庫貨物ハ庫敷料及輸入稅濟證書幷輸入免狀等ヲ入庫願書ノ控簿ニ照査シ檢印ヲ捺スヘシ
第二十二條　上屋期限ヲ經過シタル貨物ハ其記號番號及年月日控簿ニ登錄シ之ヲ假庫ニ納ムヘシ
第二十三條　庫外ニ置ク巨大重量ノ貨物ノ位置ヲ定メ其容積數量ヲ算計シテ之ヲ本課ニ通知シ及其品質記號番號個數ヲ記錄シ之ヲ監視部ニ通知スヘシ
第二十四條　神戸港ヨリ稅未納及稅濟ノ火藥其他爆發物ヲ輸入シタルトキハ搭載艀船ハ田中新田倉庫ノ側ニ繫留セシメ現場ニ出張入庫ノ手續ヲ爲スヘシ
第二十五條　前條ノ物品出庫ヲ願出タルトキハ出張ノ上引取ヲ許スヘシ
次て二十九年六月各課處務細則の改正と共に
第六條　輸出入貨物雜庫借用願書及損傷品入庫願書ヲ受理シ之ヲ整理スヘシ
右の一ヶ條を加へ二十六年規定の該細則第六條以下を遞下して全文二十六條に增加せしめたる外一の改竄を加へさりき降つて三十一年四月各課分掌規定の制定と共に倉庫課の分掌を規定せり

第九條　倉庫課ニ於テハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
一、保稅倉庫、火藥庫、借庫及庶庫開閉幷ニ鎖鑰ノ保管
二、入出庫貨物ノ諸願届書其他倉庫ニ關スル文書ノ受理及整理
三、貨物入出庫ノ監督及在庫品ノ管守
四、出庫通知書及保稅倉庫ニ關スル諸免狀ノ附與
五、入庫品預證券ノ附與
六、取扱手數料ニ對スル登記印紙ノ調査及消印
七、保稅倉庫ニ關スル回送品假納稅ノ取扱
八、私設保稅倉庫ノ監督
九、貨物藏置期限ノ調査
十、倉庫內貨物ノ配置
十一、在倉腐敗品、藏置期限經過貨物、無請求品及滅却品ノ處分
十二、藏番ノ監督
十八、各倉庫及上屋　借庫、火藥庫及上屋に就ては既に本史第一期及ひ第二期に於て記述せるを以て關稅法發布以前に至る間何等記すへきの事なし但三十一年四月庶庫一棟貸渡の場合に於て左の事項を規定し同月一日より施行せしめたり即ち

大阪稅關倉庫借用ニ付遵守スヘキ條項

第一條　煉化又ハ木造倉庫(何)坪一ヶ月一坪ニ付庫租金七拾五錢トシ明治　年　月　日ヨリ同年　月　日迄全　ヶ月分庫租ヲ前納スヘシ

第二條　入庫ノ貨物ハ輸出入ノ貿易品ニ限ル輸入品ハ關稅既濟ノモノタルヘシ

第三條　火藥其他爆發物或ハ燃易キ危險物及倉庫内ヲ汚損スヘキ物品類ハ一切入庫ヲ許サヽルヘシ

第四條　庫内ニ於テ吸烟及火氣ヲ用ユルコトヲ禁ス臨時點火スルコトアラハ船舶用ランプヲ使用スヘシ

第五條　休日又夜中開庫スルトキハ其時々稅關監視部ヘ届出許可ヲ受クヘシ

第六條　稅關官吏ハ何時ニテモ庫内ニ立入リ臨檢スヘシ

第七條　借用倉庫損傷シタルトキハ速カニ其旨ヲ申立修繕ヲ求ムルヲ得ヘシ
但借主ノ不注意ニヨリ生スル破損ハ稅關ニ於テ元形ノ通リ修繕シ其費用ハ借主ヨリ辨償セシムル

第八條　貸與期限中倉庫ノ錠鍵共借主ニ相渡シ在庫品ニ對シ堅固保護ノ責ニ任セサルヘシ

第九條　期限中貸借ヲ廢止セントスルトキハ稅關ヨリスルモ借主ヨリスルモ壹ケ月前ニ通知スヘシ

以上

右之條々遵守シ決シテ違背不致候也

明治　年　月　日

大阪稅關長　殿

倉庫借用願

一第何號倉庫　何坪

右者海外貿易上必要ニ付借用仕度左記御命令ノ條項堅ク相守リ毫モ違背不致候ニ付御許可被成降度此段奉願候也

年　月　日

借主　姓　　名　印

大阪稅關長　殿

倉庫返上御届

一第何號倉庫　何坪

右者豫テ借用致居候處　月　日ニテ期限滿了相成候ニ付返上致候間此段御届申上候也

年　月　日

借主　姓　　名　印

大阪稅關長　殿

其他火藥庫に對しては三十年八月二日派出吏員の心得方を定め

大阪稅關所屬火藥庫派出吏員心得

一、火藥庫へ出庫スル爆發品ハ何レモ納稅濟ノ輸入品ニシテ都度倉庫課員之ニ臨檢スルモノトス

一、藏置品ノ出庫ヲ願出ルトキハ庫租徵收ノ手續ヲ了シタル後出庫ノ取計ヲナスヘシ

一、入庫ノ物品及貨主ノ別ヲ明瞭ナラシムルタメ貨主口別ニ積別ケ標札ヲ掲クヘシ

一、庫内及出入口ニハ藁莚ヲ敷キ摩擦ヨリ發スル危險ヲ豫防スヘシ

一、爆發品ニ接近スル派出員貨主其他關係人ハ燐寸吸烟器其他發火ヲ容易ナラシムヘキ危險品ヲ携帶スヘカラス此等ハ都テ衣體ヨリ除却シ庫番ニ依托シ置クヘシ

一、庫内ニ出入スルモノハ必ス草履ヲ穿ツヘシ靴木履等ヲ用ユヘカラス

一、派出員ハ入出庫品ヲ取扱フヘキ貨主及雇人等ニ充分注意ヲ加ヘ危險ナカラシメンコトヲ期スヘシ

又如何ナル事情アルモ夜中ハ倉庫ノ開閉ヲ許サス

第二章　分課事務

一、庫内ノ用務ヲ辨シ終リタルトキハ内外ノ鎖鑰ヲ密鎖シ庫番ニ注意ヲ示シタル後引取ルモノトス

明治三十年八月二日　　大阪税關倉庫課長

又三十一年二月新築落成の上屋を同六月一日より使用せしめ之を東上屋と稱し專ら輸入品の藏置に從來の上屋は之を西上屋と稱し輸入出品の藏置に各充用せしめたり

十九、保税倉庫　三十年三月法律第一五號を以て保税倉庫法を發布し輸入手數未濟貨物の藏置に關する法律を定め同六年之れか施行細則を發布し同二十四日之れに關する心得方を大藏大臣より達示せり

第一二七六號　　税關

保税倉庫法及同細則施行ニ付テハ左ノ通心得ヘシ此旨相達ス

保税倉庫法施行細則第七條ノ回送願書貳通ヲ受領スルトキハ其壹通ハ留メ置キ他ノ壹通ハ之ヲ仕向地ノ税關又ハ税關支署ニ送付スヘシ

細則第二十一條第一項ノ届出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ届出人ニ通知スヘシ

左ノ場合ニ於テハ其都度關係書類ヲ添ヘ申報スヘシ

一、細則第二十六條第一項ノ届出アリタルトキ

一、同條第二項ノ供托物受戻ノ證明ヲナシタルトキ

一、私設保税倉庫ノ改築、構造變更若クハ其增減ヲ認許シタルトキ

一、前項ニ依リ擔保金額ヲ增減シタルトキ

一、細則第三十三條ノ營業廢止ノ届出アリタルトキ

左ノ場合ニ於テハ直チニ電報ヲ以テ申報シ尚ホ詳細書面ヲ以テ申出ヘシ

一、庫主死亡スルカ若クハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

一、保税倉庫法第三十條ノ場合アリタルトキ

官設保税倉庫ニ供スル倉庫ノ位置、構造、棟數、坪數ヲ詳記シ其圖面ヲ添ヘ主税局ヘ報告スヘシ其變更アルトキ亦同シ

保税倉庫藏置貨物ノ出入ハ官私設ヲ別チ別紙甲乙丙號書式ノ通一ケ月毎ニ取調ヘ翌月初旬主税局ヘ報告スヘシ

官設保税倉庫敷料定率表ニ掲ケサル物品ニシテ表中類似物品ノ定率ヲ準用シタルトキハ其品名準用ノ定率及理由ヲ詳記シ其都度主税局ヘ報告スヘシ

明治三十年六月二十四日　　大藏大臣　伯爵　松方正義　印

何税關保税倉庫貨物出入表　　甲號

明治何年何月中

入庫					出庫				
品名	箇數	數量尺度	元價	庫敷料	立方尺	箇數	數量尺度	元價	庫敷料

通計										

元價及庫敷料ニハ通計ヲ付スルヲ要ス

何私設保稅倉庫貨物出入表　乙號

明治何年何月中

品名	入庫				出庫			
	個數	數量尺度	元價		個數	數量尺度	元價	

通計										

元價ニハ通計ヲ付スルヲ要ス

是と同時に當稅關は借庫の一部を割ひて保稅倉庫に宛てたるも當時輸入手數未濟貨物の保稅を出願するもの絕へてなかりし

未、庶務課事務

二十、處務細則　二十六年十月規定配布せる各課處務細則中庶務課に屬するものを示せは左の如し

庶務課

第一條　本課ニ文書係統計係出納係用度係ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

第二條　文書係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條　官吏ノ職務及身分ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ

第四條　申牒往復命令等ノ諸文案ヲ起草スヘシ

第五條　各課成案ノ回議ヲ調査シ意見アルモノハ其主務課ニ協議シ之レカ取扱ヲ爲スヘシ

第六條　訴願及訴訟ニ關スル事項ヲ調理スヘシ

第七條　稅關法稅關規則違犯者ニ對スル申渡ノ手續ヲ爲シ及犯則事件告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　官報ヲ閱覽シ及官報掲載ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ

第二章　分課事務

第九條　各課擔任外ノ諸務ヲ調理スヘシ

第十條　關印及關長ノ官印ヲ管守スヘシ

第十一條　諸法令ヲ調査シ年報書ヲ編纂スヘシ

第十二條　各課ヨリ資料ヲ蒐集調理シ本港外國年報ヲ編纂スヘシ

第十三條　現員取調表並職員原籍表ヲ調製スヘシ

第十四條　吏員ノ勤怠ヲ調査シ職員勤務表ヲ調製スヘシ

第十五條　吏員ノ分課錄印鑑簿履歷簿住居簿ヲ整理スヘシ

第十六條　外國人ノ諸文書ヲ接受飜譯シ其答案ヲ起草シ及之ヲ發遣スヘシ

第十七條　外國人ノ應接ニ通辯シ及外國人引合始末ヲ登錄スヘシ

第十八條　難船報告船難證書ノ證明手續ヲ取扱フヘシ

第十九條　外國人ノ往復書類ヲ編纂整理スヘシ

第二十條　內國新聞紙ヘ公告ノ事項ヲ取扱フヘシ

第二十一條　諸文書ヲ接受發遣シ及ヒ之ヲ件名簿ニ登錄スヘシ

第二十二條　諸文書ヲ淨寫シ及文書回達諸表送達ノ取扱ヲ爲スヘシ

第二十三條　接受ノ文書中回答ヲ要スルモノニシテ主任者ヨリ回答案ノ具申回付等延引漏退スルトキハ之カ督促ヲ爲スヘシ

第二十四條　郵便料電信料ノ受渡ヲ爲スヘシ

第二十五條　吏員出勤簿ヲ整理スヘシ

第二十六條　當宿直員ノ配布指定ヲ整理スヘシ

第二十七條　諸法令及諸文書ヲ編纂整理保管スヘシ

第二十八條　監視部長ヨリ具申セル監吏補賞罰ノ撰定ヲ審査シ及其辭令案ヲ起草スヘシ

第二十九條　文書保存規則ノ規定ニ從ヒ文書ノ保存期限ヲ擬定シ關長ニ具申シテ之ヲ處理スヘシ

第三十條　公文簿冊ノ貸借ハ渾テ文書借覽規則ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第三十一條　吏員ノ出張俸給ノ增減及賞罰金等ノ事項ニ關シ其都度收入支出方通知ノ手續ヲ擔任スヘシ

第三十二條　統計係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第三十三條　輸出入物品ノ數量元價稅額及輸出入貨幣出入船舶ニ關スル諸件ノ統計ヲ爲スヘシ

第三十四條　輸出入品簿輸出入貨幣並地金簿出入船舶簿其他事務上必要ナル帳簿ヲ整理シ諸表編製ノ資料ニ備フヘシ

第三十五條　每半月官房第三課ヘ送付スル輸出入貨幣並地金表ヲ調製スヘシ

第三十六條　每月官房第三課ヘ送付スル輸出品表輸入品表輸出入元價國別要計表輸出入貨幣並地金表出入船舶表輸出入無檢查無稅品表博覽會出品積戻品表及輸入藥種表輸出燐寸表等ヲ調製スヘシ

第三十七條　每半年官房第三課ヘ送付スヘキ外國往來船貨價格表ヲ調製スヘシ

第三十八條　每年主稅局ヘ送付スヘキ外國貿易年報ニ要スル前年比較表ヲ調製シ期限前順次ヲ以テ速ニ鑑定課ヘ送付スヘシ

第三十九條　輸出入申告書ノ諸項ヲ審查シ疑義アルモノハ之ヲ主務ノ課係ヘ通牒シ又ハ過誤アルヲ發見セハ尙之ヲ關長ヘ具申スヘシ

第四十條　輸入品元價及輸出入貨幣價格ハ總テ成規ニ依リ日本銀貨ニ換算スヘシ

第四十一條　貨物輸出入申告書並船舶出入港屆書ヲ保管スヘシ

第二章　分課事務

第四十二條　製表材料ヲ蒐集保存シ及統計ニ關スル諸件ヲ調査スヘシ
第四十三條　每半年主稅局ヘ送付スヘキ輸出入品噸量內外船舶表ヲ調製スヘシ
第四十四條　每月各出張所ヨリ送付スル輸出入物品表輸出入國別要計表輸出入貨幣表出入船舶表輸入藥種表博覽會出品及積返品月表等ヲ審查シ及保存スヘシ
第四十五條　每半年各出張所ヨリ送付スル外國往來船貨價格表及輸出入品噸量內外船舶表ヲ審查スヘシ
第四十六條　每半月各出張所ヨリ送付スル輸出入品價格及收稅要計輸出入金銀貨幣表ヲ審查スヘシ
第四十七條　前項ニ揭ケサル統計ニ關スル諸件ヲ臨時調查處理スヘシ
第四十八條　輸出入重要品ノ前年比較表ヲ調製シ每月之ヲ關長ニ呈出スヘシ
第四十九條　輸出入品價格及輸出入貨幣ノ前年ニ比較セル要計表ヲ調製スヘシ庶務課ハ第五十條ヨリ以下悉皆適用ス
第五十條　出納係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
第五十一條　每年度經費ノ概算ヲ調理シ幷租稅外諸收入ノ豫算計算書ヲ調製スヘシ
第五十二條　經費概算決定ノ達アルトキハ仕拂ノ細目豫定書ヲ調製スヘシ
第五十三條　經費ノ仕拂命令案其他收入ニ係ル回議ヲ起案スヘシ
第五十四條　經費仕拂命令案ノ決議ニ依リ仕拂命令ヲ調製スヘシ
第五十五條　經費仕拂領收證ヲ檢定シ其仕拂切符ヲ交付スヘシ
第五十六條　租稅外諸收入ノ納入ニ對シ納入告知書ヲ調製スヘシ
第五十七條　歲入歲出證憑書類ヲ調查シ之ヲ本省ヘ送付ノ手續ヲ爲スヘシ
第五十八條　租稅外諸收入納入告知書ヲ納人ニ交付シ納人ノ取扱ヲ爲スヘシ
第五十九條　從價稅品買上代金仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ
第六十條　出納官吏ノ身許保證金及辨償金等ニ關スル事項ヲ調查スヘシ
第六十一條　關稅及稅關諸收入幷輸出酒類醬油烟草等ニ係ル返稅ヲ願出タルトキハ願人ヨリノ書類金額等ヲ調查シ之カ返戾ノ取扱ヲナスヘシ
第六十二條　每月本金庫ヨリ送付セル月計對照表雜部其他ノ對照表照合ヲ爲シ之カ證明ヲ爲スヘシ
第六十三條　歲出入諸報告書計算書幷仕拂內譯書ヲ查閱スヘシ
第六十四條　工事其他ノ契約ニ關シ諸受負人ヨリ差出ス身許保證金ノ保管預ヲ取扱フヘシ
第六十五條　宿直幷徹夜勤務ノ食料及出張旅費ヲ計查スヘシ
第六十六條　臨時開廳幷荷仕役ノ時間出務人員及臨時勤勞手當支給額ニ係ル調查ヲ爲スヘシ
第六十七條　用度品ノ購買ニ係ル回議ニ對シ其物品及代價ヲ照查スヘシ
第六十八條　新營幷修繕ニ係ル回議ニ對シ其費額ヲ計畫スヘシ
第六十九條　會計ニ關スル諸文書ヲ起草スヘシ
第七十條　雇人ノ採用罷免及給料增減ノ取扱ヲ爲スヘシ
第七十一條　經費及收入幷雜部金諸拂戾金用度物品ノ出納ヲ各其帳簿ニ記錄スヘシ
第七十二條　經費及收入ニ關スル諸報告書諸計算書幷仕拂內譯書等ヲ調製スヘシ
第七十三條　諸帳簿及諸計算表ヲ整理保管スヘシ
第七十四條　用度係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
第七十五條　用度諸物品豫算ヲ調製スヘシ

第二章　分課事務

第七十六條　用度品ノ購買及不用品從價稅買上品沒收品ノ賣却ニ關スル回議ヲ起草スヘシ
第七十七條　廳中所要ノ諸物品ハ競爭又ハ隨意契約ヲ以テ購入スヘシ
第七十八條　廳中所要ノ諸物品ハ各課ノ請求ニ依リ當否ヲ查定シ交付ノ手續ヲ爲スヘシ
第七十九條　物品購買代價及營繕ニ關スル仕拂金ノ受取人及其證書ノ確否ヲ查定スヘシ
第八十條　從價稅買上品不用品及沒收品ハ競爭又ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スヘシ
第八十一條　建物船舶其他ノ新營修繕又ハ變更ヲ要スルトキハ設計書及圖面ヲ調製シ回議ヲ起草スヘシ
第八十二條　新營及修繕工事ノ指揮監督ヲ爲スヘシ
第八十三條　工事其他ノ受負ニ關シ契約書ヲ調製スヘシ
第八十四條　土地家屋買上拂下及貸借ノ方案ヲ調查シ幷ニ登記等ノ手續ヲ爲スヘシ
第八十五條　在庫物品其他保管ニ屬スル物品ハ時々檢查シ毀損セサル樣注意スヘシ
第八十六條　各課使用ノ物品ヲ臨時檢閱スヘシ
第八十七條　本關所屬ノ地所建物幷ニ官舍ヲ管理シ且臨時檢閱スヘシ
第八十八條　小使ノ勤惰ヲ視察シ及之カ指揮ヲ爲スヘシ
第八十九條　雇人ヲ使役シ廳中其他ノ掃除ヲ爲サシムヘシ
第九十條　非常ノ際職人及驅付人足ヲ使用スヘシ

然るに後二十九年六月九日分課規程一部の改正を行ひ新たに稅關長官房を置き其結果庶務課の處務細則を頒てり

庶務課

第一條　本課ニ出納係及用度係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム
第二條　出納係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
第三條　每年度經費ノ概算及豫算ヲ調理シ並租稅外諸收入ノ豫定計算書ヲ調製スヘシ
第四條　經費概算決定ノ達アルトキハ仕拂ノ細目豫定書ヲ調製スヘシ
第五條　經費ノ仕拂命令案其他收入ニ係ル回議ヲ起案スヘシ
第六條　經費仕拂命令案ノ決議ニ依リ仕拂命令ヲ調製スヘシ
第七條　經費仕拂領收證ヲ檢定シ其仕拂切符ヲ交付スヘシ
第八條　租稅外諸收入ノ納入ニ對シ納入告知書ヲ調製スヘシ
第九條　歲入歲出證憑書類ヲ調查ジ之ヲ本省ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ
第十條　租稅外諸收入納入告知書ヲ納入ノ取扱ヲナスヘシ
第十一條　從價稅品買上代金仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ
第十二條　出納官吏ノ身元保證金及辨償金等ニ關スル事項ヲ調查スヘシ
第十三條　關稅及稅關諸收入幷輸出酒類醬油烟草等ニ係ル返稅ヲ願出タルトキハ願人及書類金額等ヲ調查シ之レカ返戻ノ取扱ヲナスヘシ
第十四條　每月本金庫ヨリ送付スル月計對照表雜部金其他ノ對照表ノ照合ヲナシ之カ證明ヲナスヘシ
第十五條　歲出入諸報告書計算書幷仕拂內譯內譯書等ヲ查閱スヘシ
第十六條　工事其他ノ契約ニ關シ諸受負人ヨリ差出ス身元保證金ノ保管預ヲ取扱フヘシ
第十七條　宿直並徹夜勤務ノ食料及出張旅費ヲ計查スヘシ
第十八條　臨時開廳並荷仕役ノ時間出務人員及臨時勤勞手當金支給額ニ係ル調查ヲナスヘシ
第十九條　用度品購買ニ係ル回議ニ對シ其物品及代價ヲ照查スヘシ

第二章　分課事務

第二十條　新營並修繕ニ係ル回議ニ對シ其費額ヲ計査スヘシ
第二十一條　會計ニ關スル諸文書ヲ起草スヘシ
第二十二條　雇人ノ採用罷免及給料增減ノ取扱ヲナスヘシ
第二十三條　經費及收入並雜部金諸拂戻金用度物品ノ出納ヲ各其帳簿ニ記錄スヘシ
第二十四條　經費及收入ニ關スル諸報告書諸計算書並仕拂內譯書等ヲ調製スヘシ
第二十五條　諸帳簿及諸計算表ヲ整理保管スヘシ
第二十六條　用度係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
第二十七條　用度諸物品ノ豫算ヲ調査スヘシ
第二十八條　用度品ノ購買及不用品從價稅買上品沒收品ノ賣却ニ關スル回議ヲ起草スヘシ
第二十九條　廳中所要ノ諸物品ハ競爭又ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ購入スヘシ
第三十條　廳中所要ノ諸物品ハ各課ノ請求ニ依リ當否ヲ調査シ交付ノ手續ヲナスヘシ
第三十一條　物品購買代價及營繕ニ關スル仕拂金ノ受取人及其證書ノ確否ヲ查定スヘシ
第三十二條　從價稅買上品不用品及沒收品ハ競爭又ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スヘシ其賣却シ得サルモノハ棄却ノ手續ヲナスヘシ
第三十三條　建物船舶其他ノ新營修繕又ハ變更ヲ要スルトキハ設計書及圖面ヲ調製シ回議ヲ起草スヘシ
第三十四條　新營及修繕工事ノ指揮監督ヲナスヘシ
第三十五條　工事其他ノ受負ニ關シ契約書ヲ調査スヘシ
第三十六條　土地家屋ノ買上拂下及貸借ノ方案ヲ調査シ並ニ登記等ノ手續ヲナスヘシ
第三十七條　在庫物品其他保管ニ屬スル物品ハ時々檢查シ毀損セサル樣注意スヘシ
第三十八條　各課使用ノ物品ヲ臨時檢閱スヘシ
第三十九條　本關所屬ノ地所建物並ニ官舍ヲ管理シ且隨時檢閱スヘシ
第四十條　小使ノ勤惰ヲ視察シ及ヒ之カ指揮ヲナスヘシ
第四十一條　雇人ヲ使役シ廳中其他ノ掃除ヲ爲サシムヘシ
第四十二條　非常ノ際職工及ヒ駈付人足ヲ使用スヘシ
後三十一年四月各課分掌規程の改定配布と共に庶務課に屬する分掌を定めて曰ク
第十條　庶務課ニ出納係、營繕係ヲ置ク
第十一條　出納係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
一　經費ノ豫算及決算
二　支拂命令ノ調製
三　關稅及稅關諸收入幷輸出酒類、烟草醬油ノ返稅其他諸支出金ノ取扱
四　金庫歲出月計對照表ノ證明
五　出納官吏金櫃帳簿ノ檢查ノ取扱
六　出納官吏身元保證金辨償金ノ取扱
七　工事其他契約保證金ノ保管
八　經費其他支出金ニ係ル計算、報告、證憑書類ノ調製提出
九　諸物品ノ購買保管供給其他傭人被服ノ保管
十　不用品從價稅買上品及沒收品ノ賣却
十一　土地建物ノ賣買貸借
十二　所屬官舍ノ貸與ニ關スル事項

第二章　分課事務

十三　傭人ノ進退勤惰及指揮監督
十四　事務所内外ノ取締掃除及備付
十五　官有財産ノ管理
十六　稅關申告諸書式用紙販賣ノ監督
第十二條　營繕係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス
一　土地建物用船等ノ新營修繕ニ關スル設計及圖按ノ調製
二　新營及修繕工事ノ受負契約
三　新營及修繕工事ノ指揮監督幷檢査
四　土地建物其他圖按ノ保管
所屬建物及ひ地所　卅四年一月現在當關所屬の建物及地所は左の表に就て之を見るへし

大阪稅關所屬建物表

（三十四年一月調査）

所在地	名稱	構造	坪數 一階平家	坪數 二階平家	建築年月	價格	備考
大阪市北區富島町貳番地	本關	煉化造	六六、四三七	三一、三	明治二十六年三月	四六、八七四〇二一	
同	鑑定課	木造		七五、〇	同　年同月	三五四、〇七八	
同	上屋	同		七五、〇	同廿二年十一月	八六六、四一〇	
同	同	同		一四、八七五	同二十八年一月	一、二四八、〇〇〇	
同	小使詰所	同			同二十五年七月	八四、五〇〇	
同	炭薪物入二ケ所	木造		六、〇	明治二十五年七月	一八、〇〇〇	
同	便所	同		三、〇	同十九年六月	七〇、三八二	
同	書物庫	土藏造	七、五〇		同元年七月	三〇九、五〇〇	
同	借庫	煉化造	八七、五〇		同十九年五月	三、五三一、六〇三	
同	同	同	一〇一、七五		同二十年三月	三、八九八、〇〇〇	
同	同	土藏造			同八年一月	一、〇五一、一三六	
同	同	同			同元年五月	五、一五一、三六四	
同	同	同	五〇、〇		同　年五月	二、〇六一、〇〇〇	
同	同	同	五〇、〇		同　年同月	二、〇六一、〇〇〇	
同	監視部	木造		二六、〇	同三十一年二月	一、二三二、一一〇	
同	上屋	同		一六五、〇	同　年三月	四、〇〇八、一〇〇	
同	火藥庫	煉化造		六〇、〇	同三十年三月	三、一九五、八七〇	
大阪市西區田中新田ノ内二番地天保町	監所	木造		二一、九五	同　元年	七三一、〇〇〇	
大阪市天保町一番地	水夫詰所	同		一四、五〇	同十九年九月	九四、五〇〇	

大阪市北區富島町貳番地	炭薪物入二ケ所	木造	六、〇	明治二十五年七月	一八、〇〇〇	
同	便所	同	三、〇	同十九年六月	七〇、三八二	
同	書物庫	土藏造	七、五〇	同元年七月	三〇九、五〇〇	
同	借庫	煉化造	八七、五〇	同十九年五月	三、五三一、六〇三	
同	同	同	一〇一、七五	同二十年三月	三、八九八、〇〇〇	
同	同	土藏造		同八年一月	一、〇五一、一三六	
大阪市北區富島町四番地五番地	同	同		同元年五月	五、一五一、三六四	
大阪市北區富島町五番地	同	同	五〇、〇	同　年五月	二、〇六一、〇〇〇	
同	同	同	五〇、〇	同　年同月	二、〇六一、〇〇〇	
大阪市北區富島町一番地ノ内	監視部	木造		同三十一年二月	一、二三二、一一〇	
同	上屋	同		同　年三月	四、〇〇八、一〇〇	
大阪市西區田中新田ノ内二番地天保町	火藥庫	煉化造		同三十年三月	三、一九五、八七〇	
大阪市天保町一番地	監所	木造		同　元年	七三一、〇〇〇	
同	水夫詰所	同		同十九年九月	九四、五〇〇	

廿五年取毀

大阪市北區玉江町二丁目十番地	官舍	木造	五一、〇	一一一、二五	建築年月不詳 同十六年十二月編入 一、六四一、五五五
同	同	同		六八	同三十二年三月二十八日新築 一、一八二、九六〇
西成郡川南村大字湊屋道路ノ内	安治川監所	同		三、二五	同三十二年三月三十一日 一八八、九五〇
大阪市西區中南大字中口第百五十二番ノ二大阪府船圍場付屬地	木津川監所	同		三、二五	同　年　月　日 一八八、九五〇
					所在地所ハ大阪府ヨリ借受ケ無料 大阪府ヨリ借受ケ有料

大阪税關所屬地坪數表（同上）

所名	所在地番	坪數	備考
本關構内	大阪市北區富島町四番地五番地	一、五六四、九〇〇 坪	内 二一八、〇〇 大阪府ヨリ引繼ノ分 但荷揚場
監視部構内	大阪市北區富島町一番地ノ内	五五一、九四〇	内 四九五、五〇 遞信省ヨリ引繼ノ分
計		二、一一六、八四〇	五六、四四 大阪府ヨリ買上ノ分
關長官舍	大阪市北區富島町五番地ノ内	一七〇、一九〇	明治三十二年度新築ノ餘本關構内五番地ノ分々割シタル分
火藥庫	大阪市西區田中新田ノ内二番地	四〇五、〇〇〇	
天保町監所	大阪市西區天保町一番地	二四二、五九六	内 六四、〇 二十八年一月川岸地大阪府ヨリ引繼ノ分
各官舍	大阪市北區玉江町二丁目十番地	六八〇、〇〇〇	
計			
總計		三、六一四、六二六	

二十一、給與　二十四年四月一日以降傭（月給拾圓以下 日給參拾五錢以下）以下の輩にして宿直若しくは徹夜勤務に服するものに限り左の區別に據り食料を支給せり

一傭（月給拾圓以下 日給參拾五錢以下）宿直（夕朝二度）徹夜（小夜食一度）食料（一度分參錢五厘）

一給仕、小使以下（同上）（同上）食料（一度分貳錢五厘）

後七月九日横濱税關の上請に據り税關監吏補にして月給拾圓以下のものも亦認可せられたるを以て各港均しく此例規に倣へり後二十五年四月九日大藏省より官吏以下食料支給方法を改正し之を各税關に達せり

當省官吏以下食料支給方明治二十五年四月一日ヨリ別紙ノ通改正ス

明治二十五年四月九日　　税關

但税關長ハ適宜廢減スルコトヲ得尤モ廢減シタルトキハ其旨屆出ヘシ　　大藏大臣　伯爵　松方正義

大藏省官吏食料支給規程（明治二十五年四月一日改正）

一判任傭員	宿直	一直	金七錢
一同	徹夜	一回	金拾錢
一取締掛員	宿直	一回	金拾錢
一給仕小使以下小者ノ類宿直		一直	金五錢
一同	徹夜	一回	金七錢五厘

右取締掛員ノ外宿直ニシテ徹夜勤務スルトキハ徹夜ノ額ヲ給ス

後二十六年十二月給仕小使以下の死亡或は解雇に對し給與方法を定め之を稅關長より達せしむ
達第拾號

給仕小使定人足藏番水夫等勤務中死亡又ハ官ノ都合ニ據リ解雇シタルトキハ自今左ノ通給與方可取計此旨相達ス

明治二十六年十二月二十二日

庶務課

大阪稅關長　潁川君平 印

給仕小使定人足藏番水夫等勤續滿一ケ年以上十ケ年未滿ノ者死亡又ハ滿五ケ年以上十ケ年未滿勤仕ノ者官ノ都合ニ依リ解雇シタルトキ

各其日給三十日分　但月給ノ者ハ壹ケ月分勤續十ケ年以上ノ者死亡又ハ官ノ都合ニ依リ解雇シタルトキ

各其日給六十日分　但月給ノ者ハ二ケ月分勤務上怠惰不品行其他不都合ノ所爲アル爲メ解雇シタルトキハ前二項ノ限リニアラス

二十二、宿直　二十五年一月宿直員郵便物取扱に關する假規定を配布して曰

一宿直者ハ午後九時及翌午前九時ノ兩度ニ郵便函ヲ開披シ宿直日誌ニ記載シ開關ノ節直ニ文書課へ引渡シ證印ヲ受ケ置クヘシ文書課ハ宿直員ヨリ引繼ヲ受ケタル郵書ハ夫々其主任者へ配付シ受取人ヨリ證印ヲ受ケ置クモノトス

但至急郵書及電信ハ受信者へ直ニ使送シ其旨日誌ニ記入シ受取人ヨリ證印ヲ受ケ置クヘシ

一文書課ハ郵便函ノ鎖鑰ヲ閉關時限迄ニ其當日宿直者へ引繼キ可申ニ付翌日郵便物引渡シト同時ニ同課へ返付スヘシ

右之通相定ム

後二十六年四月宿直員にして開關時間前後に於ける手數濟貨物の取扱方に關し訓示する處あり
開關時間前後ニ於テ輸入稅濟貨物引取願出候時宿直員ニ於テ上屋事務取扱居候處近來貨物輻湊之爲メ內許シ等ハ數人之手ニ相渉リ候樣ノ場合モ有之精算之際頗ル繁雜ヲ來シ候由ニ付以後ハ宿直員必ス立合之上一層記號個數等精密ニ相調ヘ內許ノ時ハ免狀ヘ裏書ノ上扱ヒ者ノ捺印致スヘキ旨課長ヨリ被達候條爲念及御通知候也

明治二十六年四月十三日

翌二十七年八月宿直若しくは當直は從來雇員をも服務せしめたるも爾後判任以上を以て當らしむることゝなせり蓋し傭員を以て責任官吏と伍せしむるは不當なればなり
當宿直之義ハ是迄雇員打混シ居候處明十九日ヨリ判任以上（課長ヲ除ク）ヲ以相勤メ貨物掛ノ事務ヲモ廉略ノ取扱無之樣嚴守相行候樣關長ヨリ被達候間此段御了承相成度候也

明治二十七年八月十八日

鑑定課　檢査課
收入課　查定係
統計係

庶務課長　小林敬直
庶務課
貨物係

後二十九年四月當宿直員心得を配布せり

當宿直員心得

一失火ノ豫防トシテ各室一回巡視スヘシ
一至急ノ來書及電報ハ課長ノ宅ヘ送致スヘシ
一臨時開廳及仕役願ハ課長ノ宅ヘ願人ヲシテ出頭セシムヘシ
一仕役追願許可ハ當宿直及監視部ニテ取計フヘシ

右條々堅ク相守ルヘキモノ也

明治二十九年四月一日

大阪税關

二十三、電話交換機の架設　明治二十六年六月二十八日電話交換機架設の加入書を提出せるも以來公　加入者多きか故を以て交換局より永く之れか架設に着手せす遂に翌年五月二日當關より

諸第二十六號

電話交換機備付之義ニ付去二十六年六月二十八日加入申込書差出置候得共其後今日迄御着手無之ニ付過日當關吉村屬ヲ以テ都合及御問合候處現時加入者夥多ノ爲メ來年度ニモ不相成候テハ設置之順次ニ迫ハサル哉ノ赴然ルニ當關ノ如キハ神戸大阪兩税關間ノ照會往復頻繁タルハ勿論公用ノ敏捷ヲ企圖スルニハ交換電話機設置ノ須要一日モ缺クヘカラス候條特別之御取計ヲ以テ申込順序ノ如何ニ係ラス速ニ架設有之樣致度此段譯テ及御依頼候也

二十七年五月二日

大阪税關

電話交換局御中

と要求して同月上旬之れか架設を終れり後三十年四月監視部と天保町出張所との間に特用電話線を大阪府警察用既設の電柱に添架せんとし先つ之れを大阪府に交渉して曰

大阪府警察用既設ノ電柱ヲ借用添架致度過般係官ヲ税關ヨリ天保町出張所マテ電話線架設可致ニ付貴府警察用既設ノ電柱ヲ借用添架致度過般係官ヲシテ御内談申入候際將來電柱ヲ修理スル費用分擔可致云々ハ素ヨリ當然ノ義ニ有之候條右電柱借用方御承諾相成度此段及御照會候也

明治三十年四月十日

大阪府知事　内海忠勝殿

大阪税關長　頴川君平

大阪府は直ちに左の如く回答し來れるを以て遂に五月二十二日之れに同意して監視部と天保町出張所との間に於ける特用電話柱ヲ大阪府の回答は左の如し

警第一九三七號

本月十日地第二一號付ヲ以テ警察部及天保町水上巡査派出所間ニアル電柱ヘ電線添架之義御照會之趣領承右添架上別紙契約ニ御異存無之ニ於テハ何等差閊無之候條此段及御回答候也

明治三十年五月五日

大阪府知事　内海忠勝

大阪税關長　頴川君平殿

（別紙）

契約書

一　大阪府警察部及天保町水上巡査派出所間電話柱ヲ借受ケ大阪税關及天保町出張所間ニ電話線ヲ添架ス

一　電柱補修費及電柱敷地料ハ線條數ノ割合ヲ以テ大阪税關之ヲ負擔スルモノトス

一　添架六ケ月ニ滿タサルトキハ其年度ノ敷地料ハ負擔セサルモノトス

一　大阪府ヨリ添架線ノ撤去方申込アルトキハ其通知ヲ受ケタルトキヨリ三ケ月以内撤去スルモノトス

右ノ通契約取結候也

年　月　日

大阪税關

府知事宛

二十四、土曜日半休の廢止　從來我税關其他各官衙に於て毎土曜日の勤務時間を半日に限れるは果して何の時よりの慣行にや今俄かに調査するに暇なしと雖も土曜日の半休は今も猶各官衙に於て慣行する處なり然るに我税關に於ては二十八年十一月十三日を以て左の如く達し土曜日半休の慣行

を廢止せり

從來土曜日ハ半休致來候處爾來廢半休候旨關長ヨリ御口達有之候間御心得迄ニ及御回達候也

二十八年十一月十三日　文書係

各課御中

監視部御中

二十五、經費　曩きに大阪稅關をして神戸稅關の出張所と指定せし以來當稅關の經費は神戸稅關と合併支辨せしめ後十三年度に於て一旦之れを獨立せしめたるも翌年關長の申請によりて再ひ之れを合併(本史第二期六篇經費の章參照)し爾來當關の經費は常に神戸稅關の手に於て支辨せられたり而して二十九年度始めて當稅關より直接支辨することゝなれり是即ち大阪稅關經費の獨立と見て不可なかるへし今試みに當時之れか爲めに大阪本金庫と往復せる公文書類を示して當時の事情を悉すの一端とせん

庶第五〇號

從來本關經費仕拂方神戸稅關ニ於テ取扱來候處二十九年度ヨリ分離特ニ當關ヨリ直ニ仕拂可申就テハ成規ニ基キ仕拂命令大阪本金庫宛發行可致就中至急即日拂ヲ要スル場合ハ該案內仕拂命令欄外ニ即日拂ヲ要ス云々記入送付候事ニ致度右以前及御打合候也

附言　神戸稅關ニ於テモ至急ヲ要スル場合ニハ本文ノ通取計居候間爲念申添候

明治二十九年三月三十一日　仕拂命令官

大阪稅關長　穎川君平

大阪本金庫御中

右回答

國第七六號

二十九年度ヨリ貴關經費仕拂方之儀ニ付庶第五〇號ヲ以テ御照會之趣承知致候其中至急支拂ヲ要スル仕拂命令ハ特ニ其旨ヲ記シタル請求書ヲ案內命令ト共ニ御送付相成候樣致度此段及御答候也

大阪本金庫

金庫出納役代理人

日本銀行大阪支店長　鶴原定吉㊞

大阪稅關御中

而して左に二十五年度以降三十一年度に於ける當關の經費を示せは左の如し

科目	年度別	廿五年度	廿六年度	廿七年度	廿八年度	廿九年度	三十年度	卅一年度
經常部	俸給及諸給	五、四八四、九八九円	五、三三四、〇二八	五、〇三四、一八五	四、九七六、一三八	五、七七九、三五三	七、九〇七、二九七	八、三〇九、五八五
	廳費	一、七七六、五九九	一、五六八、一八〇	八一六、一〇八	七九四、六四六	一、〇一四、〇〇〇	一、二四二、〇〇〇	二、〇〇六、九四七
	修繕費	六七九、二六一	五一七、六三四	六一八、九〇一	一、〇二二、一〇〇	六二八、〇〇〇	五九八、〇〇〇	二九七、〇〇〇
	旅費	一四二、四二〇	一六四、一〇〇	二〇三、六二〇	二三五、九六〇	二四三、六二〇	五〇〇、八一〇	四一一、四五〇
	雜給及雜費	二、五二八、八一三	二、〇九八、一一九	二、四〇一、四三四	三、二三二、八三一	三、七二一、四六四	四、七五〇、一八四	四、六四五、五八八
	密輸出入申告者給與			六一七、六〇〇				
	諸拂戻金	九、一四一、九九九	八、六二四、六一三	七、二七〇、九八七	一六、四七六、六六八	一〇、九九九、四七四	三六、四四九、七九六	二四、六二八、八七〇
臨時	新營費		五一、五〇〇		四八、二五〇	三、九三七、〇八四	九、〇六四、五九八	一〇、八六八、七二九
	神戸大阪兩稅關風害修繕費					二四五、七六四		

部			
震災新營費	四、八二五、九〇二		
震災修繕費	九四二、九〇〇		
計			

二十六、經費に關する注意二件　二十九年十二月經費節約に關する注意を與へて曰

本年度ハ諸物價ノ暴騰ニ依リ經費ニ缺乏ヲ告ケ日々消耗スル木炭石炭ノ如キ非常ノ節約ヲ加ヘサレハ會計年度末即チ二三月ノ頃ニ至リ不得止木炭石炭等ノ使用ヲ中止スルノ不幸ニ立到ルヤモ難計故ニ今ヨリ各自注意シ殊ニ午後二三時頃ヨリハ木石炭ヲ火鉢煖爐ニ投スルコトニ意ヲ用ヒ退關ノ刻ニハ火氣ノ灰ニ化シ去ランコトニ勉メ猥リニ未燃盡或ハ灼熱ノモノヲ捨去ル等無益ノ冗費ヲ省カンコトニ致度此段各位御心得相成度候也

明治二十九年十二月八日

各　位

小林敬直

翌三十年二月公金騙取の徒出沒せるを以て大阪本金庫より左の注意を喚ひ來れり

國第六一號

近來仕拂命令地紙ヲ窃取シ仕拂命令官僞造印章ヲ押用シテ金庫ニ就キ現金ヲ騙取セル者各地ニ徘徊シ實ニ容易ナラサル次第ニ有之候ニ付殊ニ注意方其筋ヨリ通示有之就テハ案内仕拂命令及送金仕拂命令授受ノ手續最モ鄭重ニ取扱致度ニ付左ノ廉々及御打合候間御差支ノ義モ無之候ハヽ速ニ實行可致候條何分ノ御回報煩シ度此段及御協議候也

明治三十年二月十九日

大阪本金庫

金庫出納役場代理人

仕拂命令官

大阪稅關長　顯川君平殿

日本銀行副支配役　小野英三郎

一案内仕拂命令送付用トシテ金庫ニ於テ狀函ヲ造リ御廳ト金庫ノ間ニ用ユル合鍵ヲ添付差出シ置候ニ付右鍵ハ相當官吏ニ保管セシメラレ命令書ハ必ス之ニ藏メ閉鎖ヲ施シテ御送達有之度候尤モ送達ニハ可成一定ノ使丁ヲ使用セラレ度候

一仕拂命令地紙及從來使用ノ送付簿紛失ノ場合ニハ直チニ御通知ヲ要シ度候

一仕拂命令ノ印章ハ不明瞭ノ廉ナキ樣正確ニ押捺相成度候

監視部事務

二十七、處務細則　二十三年七月稅關官制の改正と同時に發布せられたる稅關分課規程に據れは新たに旅具檢査に關する事務を監視課の(當時未た部と稱せす)分掌に歸せしめたりしか稅關法及稅關規則の施行後に於ても一般の監視事務は從來と異なるところなきを以て單に監吏監吏補心得書に據りて其事務を執れり然るに二十六年稅關分課規程の改正によりて更に監視課を監視部と改めたると同時に監視部に屬する處務細則を頒てり

監視部

第一條　監視部ニ本部及海務係陸務係貨物係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　本部ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條　海陸各監區ヲ巡視シ監吏補ノ勤怠ヲ監察シ輸出入貨物ノ陸揚船積諸船舶及內外諸艀艇ニ關スル取締ヲ爲スヘシ

第二章　分課事務

第四條　入港船舶ノ來意ヲ尋問シ船籍及噸數尺度ヲ調査シ其他要件ヲ尋問簿ニ登記セシメ番號ヲ附シテ之ヲ關係ノ各課ニ通知スヘシ

第五條　條約書中緊要ノ條欵及港内慣行等ヲ船長ニ示スヘシ

第六條　關外ヨリ陸揚船積ノ特許ヲ得タル貨物監視ノ爲メ監吏補ヲ派出セシムヘシ

第七條　密商脫稅及國禁物ヲ發見シ又ハ密商脫稅品及ヒ國禁物ナリト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ其他成規ニ違犯シタルモノアルトキハ部長ニ通知シ部長ハ其事由ヲ審案シテ關長ニ具申スヘシ

第八條　艀船及沖商業取締規則ノ違犯者アルトキハ部長ニ通知シ部長ハ之ヲ告發シテ其旨關長ヘ具申スヘシ

第九條　本關管轄區域内ニ於ケル船舶ノ難破及寄港密商等ニ關スル取締ヲナスヘシ

第十條　本關附屬船ノ取締及水火夫ノ勤務ニ關シ指揮ヲ爲スヘシ

第十一條　旅具提携品自用品及食料品ヲ檢查シ課稅外ノモノハ檢印若クハ證票ヲ附シテ通關ヲ許可スヘシ

第十二條　輸出入無檢查品ノ通關ヲ許可スヘシ

第十三條　沿海通航船ノ尋問ヲ爲シ本船ニ關スル諸願書ヲ受理シ及其回漕貨物ノ目表ヲ調製スヘシ

第十四條　艀船及沖商業ニ關スル願書ヲ受理シ許可ノ檢印ヲ與ヘ又號旗ヘ檢印スヘシ

第十五條　輸出入船卸高ト積荷目錄トヲ對照調查シ悉皆卸濟ノ上關係ノ課ヘ通報スヘシ

第十六條　沿海通航船ヲ以輸入未濟ノ貨物ヲ他港ヘ回漕スル免許ヲ與ヘタルトキハ船會社ヨリ其貨物ノ目錄ヲ徵シ別ニ通知書ヲ添ヘ仕向港稅關ニ送付スヘシ

第十七條　監吏補ノ勤怠功過ヲ視察シ賞罰例ニ依リ之ヲ擬定シ關長ニ具申スヘシ

第十八條　監視部日誌ヲ調製スヘシ

第十九條　部務執行ノ成績及監吏補ノ勤怠年表ヲ調製シ關長ニ提出スヘシ

第二十條　内外船舶尋問簿同扣簿ヲ調査シ部務必要ノ諸規則ヲ類纂シ及内外人民ノ諸願届ヲ類別保管スヘシ

第廿一條　出港船舶ノ報告ヲ關係ノ課ヘ通知スヘシ

第廿二條　内外航資格變換ノ船アルトキハ船内ヲ調査シ之ヲ檢查課ニ通知スヘシ

第廿三條　内國郵船入港手數前貨物ヲ艀船ヘ假卸スルヲ許可スヘシ

第廿四條　船舶艙口ノ個所ヲ精查シ鎖鑰封緘圖ヲ調製スヘシ

第廿五條　船舶艙口封緘開披ノ際必ス之ニ臨監スヘシ

第廿六條　船舶艙口封緘免除願ヲ許可シ監吏補ヲ乘監セシムヘシ

第廿七條　船舶艙口ノ鎖鑰封緘ヲ毀損スルコトアラハ其實況ヲ審查シ船長ヨリ事由書ヲ徵シテ之ヲ部長ニ報シ部長ハ其事由ヲ審案シテ關長ニ具申スヘシ

第廿八條　沖商業者ノ號旗鑑札ヲ調查スヘシ

第廿九條　海務係ハ左ノ條項ニ依リテ其事務ヲ取扱フヘシ

第三十條　各船舶ニ乘監シ及海上ヲ巡視スヘシ

第卅一條　貨物ノ船卸船積及船移共總テ免狀ニ照應シ船積品ノ檢印ヲ閱シ手簿ニ記シテ許可スヘシ

第卅二條　船舶艙口封緘ノ開鎖ヲ爲シ之カ毀損アルトキハ實況ヲ精查シテ速ニ部長ニ通知スヘシ

第卅三條　爆發品ヲ搭載シ又ハ搭載セントスル船舶ノ港外船卸ヲ監視スヘシ

第卅四條　密商脫稅幷國禁物ヲ看破シタルトキハ本品ヲ押獲シ其他成規ニ違反ノモノアルトキハ直ニ部長ニ通知スヘシ

第卅五條　輸入提携品ヘ附票ヲ與ヘ船卸ヲ許可スヘシ

第卅六條　輸出提携品ハ其附票ニ照シテ船積ヲ許可スヘシ

第卅七條　陸務係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第卅八條　各監區ヲ監守シ及陸上ヲ巡視シ上屋幷門戸ノ鎖鑰ヲ監守スヘシ

第卅九條　輸出入貨物ノ免狀幷檢印ノ有無ヲ調査シ手簿ニ記シテ通關ヲ許スヘシ

第四十條　船用品又ハ食料品及沖商業品中課稅外物品ノ檢査ヲ爲シ通關ヲ許可スヘシ

第四十一條　閉關中前條ノ物品中ニ有稅品ト認ムルモノアルトキハ開關ノトキ迄之ヲ監視スヘシ

第四十二條　陸揚旅具ハ海務係ノ附票ニ照シテ貨物係ヘ送附セシメ船積旅具ハ貨物係調査濟ノ證アルモノハ放許スヘシ

第四十三條　密商脫稅及國禁物ヲ看破シタルトキハ之ヲ差押ヘ其他成規ニ違犯ノモノアルトキハ直チニ部長ニ通知スヘシ

第四十四條　關內及近傍ニ失火アルトキハ本部ニ急報シ防拒ヲ爲スヘシ

第四十五條　關內ノ電燈ニ異狀アルトキハ本部ニ急報シ防拒ヲ爲スヘシ

第四十六條　關內ニ出入スル車馬及荷役人夫ノ取締ヲ爲スヘシ

第四十七條　貨物係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第四十八條　輸入貨物ノ記號番號個數上屋入日時等ヲ調査シテ記錄スヘシ

第四十九條　定規場所外陸揚船積特許ノ貨物及揮發物爆發物檢印ノ爲メ關外ヘ出張スヘシ

第五十條　上屋內外ニアル貨物ノ位置ヲ整理シ若シ異狀ヲ發見シタルトキハ之ヲ部長ニ報告スヘシ

第五十一條　輸出入貨物ハ願書及免狀ニ對照シ檢印ヲ爲シ出入通關ノ證票ト爲スヘシ

第五十二條　艀船內ニ於テ檢査免許ノ貨物ハ其艀船內ニテ之ニ檢印スヘシ

第五十三條　獸類其他檢印シ難キ貨物ニハ檢印ノ代證ヲ付スヘシ

第五十四條　輸出ノ爲メ豫メ檢査ヲ受ケタル見本品ニシテ課稅外ノモノハ檢印ノ後封印ヲ施シ關外ニ引取又ハ他ノ波止場ニ運送スルコトヲ許可スヘシ

第五十五條　起重品ノ借用願ヲ許可スヘシ

第五十六條　陸揚貨物上屋規則ノ規定ヲ過クルモノハ倉庫課ヘ通知スヘシ

第五十七條　輸出入貨物種類員數記號番號噸數調査簿免狀控簿等ヲ整理保存スヘシ

第五十八條　輸出入無檢査品ノ通關ヲ許可スヘシ

第五十九條　船用品ヲ檢査シテ其船積願ヲ許可スヘシ

第六十條　直許ノ輸入見本品ハ積荷目錄ニ詳記スヘシ

第六十一條　輸出入自用品食料品船用品及旅具提携品ヲ調査シ之ヲ取扱ヲ爲スヘシ

第六十二條　閉關中輸入無稅畜類ノ假通關願ヲ許可スヘシ

後三十一年四月廿六日先きの處務細則を廢し更に監視部に屬する規程を示せり

第十三條　監視部ニ總務係、貨物係、海務係、及陸務係ヲ置ク

第十四條　總務係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一　外航船舶ノ尋問及檢査

二　內航船舶ニ關スル諸願届書ノ取扱

三　貨物積卸特許追願ノ取扱

第二章　分課事務

四　提携品及船用品ノ取扱
五　海陸ノ巡視
六　艙口ノ封鎖及開鎖ノ立會
七　艀船ノ取締
八　沖商業ノ取締
九　部員ノ監督
十　監吏補貸罰ニ關スル取扱
十一　稅關構內車馬人夫ノ取締
十二　稅關所屬船及水夫ノ取締
十三　火災其他異常ノ際ニ於ケル取扱
十四　外航船舶ノ漂流難破幷未條約國ニ關ス
十五　監視部諸表ノ調製
十六　內航船ノ船籍證書保管
十七　監吏補被服ノ取締
十八　防火器具ノ管理
十九　漁業奬勵法ニ依ル船舶發着ノ證明

第十五條　貨物係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一　輸出入貨物ノ記號、番號、及個數ノ調査
二　貨物ノ陸揚幷船積ニ關スル取扱
三　輸出入貨物ニ關スル諸免狀ノ處理

四　輸出入貨物檢印ノ取扱
五　輸出入品帳簿ノ記入
六　上屋內外貨物ノ整理
七　危險物藏置場所ノ指定
八　爆發物港外積卸ノ監視
九　押印夫運搬夫ノ指揮監督

第十六條　海務係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一　船舶ノ乘監
二　船卸、船積及船移貨物ノ取扱幷各免狀ノ處理
三　提携品及船用品附箋ノ受授
四　艙口ノ封鎖及開鎖
五　水上ノ巡視
六　內航船ノ尋問
七　船積帳ノ記入及整理
八　艀船號旗ノ調査
九　出入船舶ノ監視

第十七條　陸務係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトズ

一　監區ノ監視
二　門戶ノ監守
三　輸出入禁制品出入ノ監視

四　旅具提携品ノ調査

二十八、吏員の配置　曩きに監吏監吏補心得書の示すところに據れは監視官吏の部署を定め本課及ひ海務陸務の配置に就かしめたるも新たに監視部の分掌を定むると共に新たに貨物係を置く等監視事務の上に一段の擴張を爲せり試みに當時の監視官吏の配置を示せは左の如し（廿八年調査）

大阪税關監視部吏員配置明細書（△ハ兼務）

監視本部

一部長	税關屬兼税關監吏	△一人　但晝間毎日勤務
一神戸税關在勤ニシテ大阪税關監吏ヲ兼ヌル者		△一人　同上
一巡察兼部長補助	監吏	一人　同上
一本部詰（本部ニ服務シテ監吏ヲ助ケ傍ラ陸海ヲ巡視ス）	監吏補	二人　但一名ッヽ晝夜隔日勤務
一本部詰補助	同	一人　夜間毎日勤務

天保町支部

一主任	監吏	△一人　但晝間毎日勤務
一支部詰（監吏ヲ助ケ傍ラ陸海ヲ巡視ス）	監吏補	二人　但一人ッヽ晝夜隔日勤務

海務

一主任	監吏	△一人
一海上巡回	監吏補	二人　但一名ッヽ晝夜隔日勤務
一商船乘監	同	六人　但晝四名夜二名ノ割合
一乘監豫備	同	△二人　但一名ッヽ晝夜隔日勤務
一四日市出張所豫備	同	△一人

陸務係

一主任	監吏	△一人　但晝間毎日勤務
一波止場監守	監吏補	四人　但二名ッヽ晝夜隔日勤務

貨物係

一主任	監吏補	一人　但晝間毎日勤務
一補助	税關屬	一人
〃	監吏補	一人　晝間毎日勤務
一檢査課補勤		
以上		

二十九、執務規定の配布　三十一年七月監視部分掌規程に基き此月二十二日を以て監視上各執務規程を配布せり　一、各監所執務規定　二、監船員執務規定　三、水上巡回執務規定　四、貨物係執務規定　五、水陸巡察規定　六、船内檢査手續等とす今左に順次之を示さん

一、各監所執務規定

東波止場監所

第一條　本監所監視位置ハ本部以東構内全體及波止場一圓トシ其本位ヲ正南門南側トス

第二條　本監所監視員ハ監區内ヲ巡視シ密商脱税禁制品ノ出入其他犯則違例ニ注意シ上屋内外貨物ノ窃取ヲ防遏スルモノトス

第三條　東波止場ハ專ラ輸入貨物ノ陸揚上屋入等ニ設備シタル場所ナルヲ以テ若シ輸出貨物ヲ構内ニ搬入セントスルモノアレハ懇ロニ諭シ之ヲ西波止場ニ致サシムヘシ

但特許セシモノハ此限ニ非ス

第二章　分課事務

第四條　輸入手數濟貨物ヲ引取ラントスルトキハ毎個ノ檢印ヲ點檢シテ放許ス可シ若シ檢印ナキモノアルトキハ現品ヲ差押ヘ監吏ニ具申ス可シ

第五條　輸入手數濟貨物中檢印ヲ押捺シカタキモノ若クハ多數ニシテ載車ノ儘檢印ヲ點檢シカタキモノハ檢印代證又ハ毎個點檢證ニヨリ記號品種個數及貨主ノ氏名等ヲ調査シ手簿ニ記シテ放許シ其證票ハ領收シ置キ皆濟ノ後本部ニ差出ス可シ

第六條　輸入手數濟貨物中ニ手數未濟ノ貨物ヲ構外ニ運搬セントスルモノアラハ之ヲ差止メ監吏ヘ具申ス可シ

第七條　輸入手數濟貨物ヲ船ニテ引取ラントスルモノアラハ本部ノ海路引取證ニ照シ記號品種個數及貨主ノ氏名等ヲ手簿ニ記シ檢印又ハ檢印代證ヲ檢シテ之ヲ放許シ其證票ハ領收シ置キ皆濟ノ後本部ニ差出ス可シ

第八條　誤テ陸揚シタル手數未濟輸入貨物ヲ本船ヘ積戻サントスルモノアラハ貨物係ノ積戻證ニ照シ第七條ノ如ク手簿ニ記シテ艀積ヲ許シ該證ニハ認印ヲ押捺シ扱人若クハ艀船夫ヲシテ本船乘監員ニ致サシム可シ

第九條　輸入手數濟貨物ヲ本船ヘ積戻サントスルモノアラハ檢査課ヨリ發スル再輸出免狀ニ捺セシ貨物係ノ認印ヲ確認シ第七條ノ如ク手簿ニ記シ艀積ヲ許シ該免狀ニ認印ヲ押捺シ扱人若クハ艀船夫ヲシテ本船乘監員ニ致サシム可シ

第十條　手數未濟貨物ヲ軍艦用品トシテ船積センストスルモノアラハ檢査課ヨリ發スル許證ニ貨物係ノ押捺セシ認印ヲ確認シ之ヲ領收シテ第七條ノ如ク手簿ニ記シ艀積ヲ許シ該許證ハ追テ本部ニ差出ス可シ

第十一條　休日又ハ成規ノ時間外ニ特許ヲ得スシテ荷役ヲ爲サントスルモノアラハ直チニ之ヲ制止ス可シ

第十二條　日沒又ハ臨時荷役ヲ終リタルトキハ上屋各扉ノ閉鎖ニ注意シ人夫ハ悉皆出門セシムヘシ

第十三條　構內ニ出入スル人夫ニハ其組合ノ取締ヨリ鑑札ヲ交付スルヲ以テ之ヲ携帶セサルモノ及夜荷役人夫ノ夜鑑札ヲ携帶セサルモノハ直ニ關外ニ出ス可シ尤モ貨主ノ自ラ雇來リシ事實明瞭ナルモノハ此限ニ非ス

第十四條　馬車荷車等ノ雜沓ヲ制止シ貨物運搬ノ便宜ヲ與フ可シ但馬車荷車ノ指命ニ違フモノハ直ニ監吏ニ具申ス具シ

第十五條　日沒ノ際其監區內ニアル貨物ヲ點檢シ其記號品種個數位置等ヲ手簿ニ記シ置キ翌朝之カ檢閱ノ便ニ供ス可シ

第十六條　構內ニ於テ喫烟スルモノアラハ懇ロニ禁止ノ旨ヲ諭示シテ制止ス可シ若シ聽從セサルトキハ其氏名ヲ尋ネ之ヲ監吏ニ具申ス可シ

第十七條　輸出入貨物中鐵葉其他修繕等ノ爲メ蠟付ヲナシ又ハ封蠟ヲ施ス等ノ場合火器ヲ用ユルモノハ必ス指定ノ場所ニ於テナサシムヘシ

第十八條　特許ヲ得テ輸出貨物ヲ艀積セントスルトキハ毎個檢印ヲ點檢シ第七條ノ如ク記號品種個數貨主ノ氏名等ヲ手簿ニ記スヘシ

第十九條　輸入貨物中小量ノ部分ヲ見本品トシテ取出サントシ未納稅品ナレハ査定係ノ許證ヲ認メ稅濟品若クハ無稅品ナレハ貨物係ノ許證ヲ認メテ放許ス可シ

第二十條　輸入金銀貨幣紙幣等陸揚以後手數完了マテノ間貨主自家ニ之ヲ保監スルコトヲ特許シ貨物係ニ於テ施封シタルモノハ其封印ヲ確認シテ放許シ記號個數品種及貨主ノ氏名等ハ手簿ニ

記入シテ次番者ニ申送リ追テ手數履行ノ爲メ再ヒ持來ルトキハ其旨手簿ニ記ス可シ

第廿一條　陸揚セシ旅具提携品及船用品等ハ乘監者ヨリ發スル附票ニ照シテ個數ヲ調査シ旅具檢査係ニ致サシメ檢査濟ノ證アルモノハ舲積ヲ許ス可シ

西波止場監所

第廿二條　本監所監視位置ハ本關構内全體及波止場一圓トス

第廿三條　本監所監視員ハ第二條ノ規定ニ據リ諸般ノ取締ヲナス可シ

第廿四條　西波止場ハ專ラ輸出貨物ノ上屋入舲積等ニ設備シタル場所ナレハ輸入貨物ハ東波止場ニ致サシメ當所ニ陸揚スルヲ許ス可ラス但特許セシモノハ此限ニアラス

第廿五條　輸出手數濟貨物ヲ船積セントスルトキハ每個ノ檢印ヲ點檢シ第七條ノ如ク記號個數品種及貨主ノ氏名等ヲ手簿ニ記シテ放許ス可シ若シ檢印ナキモノアルトキハ現品ヲ差押ヘ監吏ニ具申スヘシ

第廿六條　輸出手數濟貨物中ニ手數未濟ノ貨物ヲ混淆シテ舲積セントスルモノアラハ之ヲ差止メ監吏ニ具申ス可シ手數未濟品ノミナルトキモ亦同シ

第廿七條　輸出手數濟貨物ニシテ檢印ヲ點檢シ第七條ノ如ク手簿ニ記シテ舲積ヲ許シ該證ニ認印ヲ押捺シ難キモノハ貨物係ノ檢印代證ヲ點檢シ第七條ノ如シ

第廿八條　輸出貨物中小量ノ部分ヲ見本品トシテ取出サントスルトキハ貨物係ノ許證ヲ認メタル上放許ス可シ

第廿九條　輸出金銀貨幣紙幣等手數濟後舲積マテ貨主自家ニ之ヲ保監スルコトヲ特許シ貨物係ニ於テ施封シタルモノハ其封印ヲ確認シテ放許シ記號個數品種及貨主ノ氏名等手簿ニ記入シテ次番者ニ申送リ追テ舲積ノ爲メ持來ルトキハ其旨手簿ニ記ス可シ

第三十條　誤テ舲積出シ又ハ破損過剩其他本船ニ於テ船積セサル等ニ因リ積戻リタルモノハ之ニ對スル免狀附箋ハ貨物係ニ致サシメ現品ハ直ニ陸揚セシム可シ

第卅一條　成規外時間ノ荷役、上屋各扉ノ閉鎖、構内人夫車馬ノ取締、喫烟、火器ノ使用、日沒時監區内貨物ノ點檢等ハ第十一條以下第十七條迄ノ諸例ニ依リ處理ス可シ

第卅二條　本關所屬ニシテ商賣ニ貸與シアル倉庫ニ出入ノ貨物ハ平日休日ノ別ナク之カ構内通過ヲ許シ輸出入貨物ト混淆紛雜セサル樣監視シ同品ノ陸揚船積ハ一切許ス可カラス

但特許アルモノハ此限ニ非ス

天保町監所

第卅三條　本監所監區ハ湊屋新田以西ノ安治川口、沖合及其沿岸トス

第卅四條　本監所監視員ハ海務係監吏補及水夫ヲ指揮監督シ又常ニ監區ヲ巡回シ第二條ノ主旨ニ遵ヒ輸出入貨物及旅具提携品ヲ監視ス可シ

第卅五條　外國船外國通航内國船及沿海通航船ヲ尋問シ又其出港ヲ認メタルトキハ其都度本部ニ報告スヘシ

第卅六條　船舶ノ船内檢査ヲナストキハ時宜ニ依リ水上巡回員又ハ乘監豫備員ヲシテ補助セシメ船内檢査手續ニヨリ檢査ヲ執行ス可シ

第卅七條　所屬關船ノ取扱ニ注意シ船具ノ毀損散失セサル樣水夫ヲ指揮シ修理新製スヘキモノハ之カ請求ノ手續ヲナス可シ

第卅八條　各船舶艙口封鎖及解除ノ際ハ必ス之ニ立會其精粗ニ注意ス可シ

第卅九條　前條ノ船舶艙口封鎖ヲ破毀シタル時ハ現狀及時刻ヲ尋問シ直ニ之ヲ監吏ニ報告ス可シ

第四十條　各艙口封鎖圖ヲ調製シ以テ施封ノ便ニ供ス可シ

第四十一條　艙口封鎖用具ノ整理保管ヲナスヘシ

第四十二條　水上巡回員ハ本務ノ側本關所屬火藥庫ヲ巡檢ス可シ

二、監船員執務規程

第一條　監船員ハ外國船及外國通航內國船ハ成規ニ從テ乘監シ其位置ハ本船甲板上トシ監區ハ船內一圓及其船ノ周圍トス

第二條　監船員ハ乘監中常ニ監區內ヲ監視シ貨物及船用品旅具提携品幷ニ諸人ノ出入ニ注意スヘシ

第三條　監船員ハ乘監中專ラ左ノ事項ヲ視察シ直ニ處理シ得可キモノハ之ヲ執行シ然ラサルモノハ之ヲ海上巡察又ハ本部若クハ天保町監所ヘ報告ス可シ

一　免狀ヲ受ケシテ貨物ノ積卸又ハ船移ヲナスモノナキヤ否

二　密商脫稅其他犯則若クハ其幇助ヲナスモノナキヤ否

三　船用ニ供スル定量以外ノ阿片ヲ有スルモノナキヤ否

四　入出港屆ヲ怠ルモノナキヤ否

五　成規ノ場所外ニテ貨物ヲ揚卸スルモノナキヤ否

六　艀船夫及沖人足ニ於テ貨物取扱上弊害ナキヤ否

七　外航內國船ニ阿片及其器具ヲ有スルモノナキヤ否

八　輸出入禁制品ヲ積卸スルモノナキヤ否

九　艀船及沖商業規則違反ノモノナキヤ否

十　艙口封印ニ異狀ナキヤ否

第四條　船卸貨物ハ陸揚免狀ニ照シテ之ヲ許シ本船名記號番號品種個數貨主ノ氏名艀船番號ヲ手簿ニ記入シ皆卸シハ本免狀裏面ニ其旨ヲ記載シ捺印シテ貨主ニ返附シ內卸ハ控簿ニ記入シテ內卸免狀ヲ附與シ本免狀ヲ預リ置キ之ニ裏書ヲナス可シ又船積貨物モ同上ノ例ニ倣ヒ輸出免狀ニ照シ皆積ハ本免狀ヲ貨主ニ返附シ內積ハ貨物係ヨリ監船員ニ向ケ發スル內積證ニ照シテ船積セシムト雖モ本船ヘ運搬シタル貨物中內積トナリシモノハ再ヒ積入ノ有無ヲ確メ歸部ノ上執レモ監吏ニ申告ス可シ

但沿海通航船ヲ以テ回漕スル輸入手數未濟貨物ノ積卸ハ本條ノ例ニ依リ處理ス可シ

第五條　內外軍艦及其附屬船ヨリ本船ヘ又ハ本船ヨリ內外軍艦及其附屬船ヘ船移セントスル貨物ハ其品種個數記號番號艦名等ヲ手簿ニ記載シテ放許シ歸部ノ上監吏ヘ申告ス可シ但軍人ニ屬スル提携品モ之ニ準シテ處理ス可シ

第六條　積卸貨物中記號番號個數品種等免狀ニ符合セサルモノハ積卸ヲ許ス可カラス然レトモ若シ免狀ノ誤謬タルコト明瞭ナルモノハ之レカ取扱ヲナシ置キ本部若クハ天保町監所ヘ報告ス可シ

第七條　無免狀ニテ貨物ノ積卸ヲナサントスルモノアラハ停止シ其手數ヲ經サシム可シ若シ說諭ヲ聽カス擅ニ積卸ヲナスモノアラハ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ヘ急報ス可シ

第八條　旅具提携品中商品ト認ムルモノアルトキハ「ビルヲフヒーラング」ノ有無ヲ調査シ之ヲ有スルモノハ陸揚免狀ヲ得サシ然ラサル者ハ許票ニ其旨ヲ記シテ附與シ第四條ノ如ク手簿ニ記ス可シ又船中不用品又ハ乘組員ノ委托物品ニシテ多量ナルモノハ陸揚免狀ヲ得タル後ニアラサレハ船卸ヲ許ス可カラス

第九條　船積ス可キ貨物ハ毎個手數濟ノ檢印又ハ檢印代證ヲ點檢シテ許可ス可シ其證ナキ者ハ船積ヲ止メ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ヘ報告スヘシ

第十條　船積ス可キ船用品及旅具提携品ハ當該者ノ許票アルモノハ之ヲ許シ若シ其證ナキモノハ艀船夫等ニ就キ出所ヲ尋問シ積戻ノ上檢査ヲ受ケシム可シ

第十一條　船積貨物ハ甲船ニ於テハ該裏書ニ照シ乙船ニ於テハ該裏書ニ照シテ積入ヲ許シ免狀ニ裏書ヲナシ認印ヲナシ放許ス可シ又乙船ニ於テハ記號番號品種個數等ヲ免狀ニ照シ之ニ裏書ヲナシ認印ヲナシ放シ手簿ニハ甲船名又ハ乙船名及各其入港番號ヲ明記シ輸出入貨物ト區別シテ記入ス可シ

第十二條　他港ヘ陸揚ス可キヲ誤テ陸上シタル輸入貨物ノ積戻ハ貨物係ノ許票ニ照シテ記號番號品種個數等四條ノ如ク手簿ニ記シ船積ヲ許ス可シ

第十三條　制規ノ時間外特許ヲ得スシテ貨物ノ積卸ヲナスモノ又ハ入港手數前及出港手數後ニ特許ヲ受ケス貨物ノ積卸ヲナスモノハ制止シ監吏ヘ報告ス可シ但出港手數前許可ヲ受ケタル貨物ハ出港手數後ト雖モ積卸ヲ許ス可シ

第十四條　船舶ノ艙口ヲ封鎖開除スルハ監船員ノ任ニシテ出前ニ開封シ日沒後ニ封鎖スルモノトス故ニ出務ノ際封鎖圖ヲ熟視シ手簿ニ記載シアル申繼ニ照シ艙内ニ通スル口々ヲ精覈調査シテ施封ス可シ但封艙及解除ノ際ハ船司若クハ代理人ヲシテ立會又ハ點檢セシム可シ

第十五條　前條ノ船舶艙口封鎖ヲ破毀シタル時ハ臨監者ニ報告シ現狀及之ヲ認タル時刻ヲ確査シ置ク可シ

第十六條　艙口封鎖ノ際豫メ貨物積在位置ヲ視察シ破封事件ノ參考ニ供スルヲ要ス又貨物ノ艙外ニアルモノハ之ヲ艙内ニ運ハシムル可シ若シ止ムヲ得サル物品アラハ其所ニ就テ施○スルカ又ハ船司ヨリ證明書ヲ徵スルカ臨監者ニ議シテ之ヲ處理ス可シ

第十七條　乘監中本船出港手數濟トナルカ或ハ出帆ノ準備ヲナスモノアラハ出帆時刻ヲ船司又ハ士官ニ尋問シ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ヘ報告ス可シ

第十八條　船内ニ於テ非常ノ事故アルカ又ハ船舶ノ危險アル事ヲ認知セハ海上巡察員又ハ本部若クハ天保町監所ニ急報ス可シ

第十九條　試運轉若クハ困難船曳船等ノ許可ヲ得テ港外ヘ出ル船舶ノ乘組員ハ途中不開港場ヘ立寄ル事ヲ許ス可カラス

第二十條　船内檢查ヲ要スル船舶アルトキハ船舶檢查手續ニヨリ檢查ス可シ

第廿一條　輕荷又ハ塵灰等ヲ港内ヘ投棄セントスルモノアラハ之ヲ說諭シ陸上若クハ港外ヘ棄テシム可シ

第廿二條　乘監員交代又ハ下船ノ際ハ乘監中處理セシ事項等ヲ詳細手簿ニ記入認印ヲナシ次直者ヘ引繼クカ又ハ歸部ノ上監吏ニ差出ス可シ

第廿三條　火藥搭載船許可ヲ得港外ニテ之ヲ船卸シタルトキハ其艀船ノ碇繫場或ハ陸揚所ヲ確メ歸署ノ上監吏ヘ申告ス可シ

第廿四條　積荷目錄拔書ヲ送付セシ時ハ必ラス其物品ノ所在ニ就キテ照合シ船卸セントキハ其旨ヲ該目錄及手簿ニ記載捺印シ歸部ノ上監吏ニ差出ス可シ

第廿五條　監船員ハ監吏ノ命ニヨリ領事館又ハ商館ニ就キ必要ノ事項ヲ調查スル事アル可シ

第廿六條　各自取ノ荷物ヲ船卸セン時ハ歸部ノ上必ス其記號個數ヲ監吏ニ申告ス可シ

三、水上巡回執務規程

第一條　水上巡回員ハ成規ノ時間中港内ヲ巡回シテ左ノ事項ヲ視察シ直ニ處理ス可キモノハ之ヲ處理シ然ラサルモノハ監吏ニ報告ス可シ

第二章　分課事務

第一　外國船及外航内國船沿海通航船其他艀船内外人所有船等ニシテ密商脫税或ハ之カ幇助ヲナスモノナキヤ否

第二　輸出入貨物ヲ窃盗スルモノナキヤ否

第三　艀船夫沖商業人ノ犯則違令又ハ其擧動ニ不審ノ廉ナキヤ否

第四　碇舶船舶ノ船名位置及貨物搭載艀船ノ繫泊處ヲ知了シ之カ異狀ナキヤ否

第五　内外船舶規定ノ時間内ニ入出港手數ヲ怠ルモノナキヤ否

第二條　外國船及外航内國船ノ入港セントスルヲ認ムルトキハ直チニ之ヲ監吏ニ報告ス可シ

第三條　前條ノ船舶出港セントスル時ハ豫メ其出港手數ノ濟否ヲ了知シ置キ迎船ノ來ラサル場合ニハ乘監者ヲ下船セシメ之ヲ監吏ニ報告ス可シ

第四條　除監ノ船舶ニ於テ荷役ヲ始ムル時ハ之ヲ監視シ直ニ監吏ニ報告シテ其指揮ヲ受ク可シ

第五條　成規時間外ニ特許ヲ受ケスシテ貨物ヲ積卸スルモノ又ハ入港手數前及出港手數後ニ特許ヲ受ケスシテ貨物積卸ヲナスモノアテハ之ヲ制止シ監吏ニ報告ス可シ

但出港手數後ニ於テ手數濟ノ貨物及船用品ヲ船積スルモノハ此限ニアラス

第六條　浴海通航船ノ出入ヲ監視シ其入港シタル時ハ直ニ之カ尋問ヲナシ港出シタル時ハ時刻ヲ手簿ニ記載シ置キ歸部ノ上帳簿ヘ謄寫ス可シ但内外國軍艦ハ其國名及入出港時刻ヲ記載ス可シ

第七條　臨時發生ノ事件若クハ事務上ニ就キ監船員ヨリ援助又ハ指示ヲ求ムル時ハ之ヲ處理シ或ハ監吏ニ報告スヘシ

第八條　船内檢査ヲナス船舶アル時ハ監吏ノ指揮ニ從ヒ普通巡察員ヲ補助シ船内檢査手續ニヨリ檢査ヲ行ヲモノトス

第九條　監吏ノ指揮ニ從ヒ本部事務ヲ補助スル事アル可シ

第十條　巡回セシ場所及ヒ時刻其他處理セシ事故ヲ巡回簿ニ記載ス可シ

第十一條　成規時間外ニ貨物積卸特許ヲ受ケタルモノアル時ハ監吏ノ命ニ依リ之ヲ乘監員ニ報告セシムルコトアル可シ

第十二條　他港稅關若クハ其支署ニ於テ追テ外國行船ニ資格ヲ變更シ併テ其搭載貨物ノ輸出手數ヲ爲スノ豫定ヲ以テ外國輸送貨物ヲ積船スル船舶アルトキハ其船名船種積量船主及船長ノ氏名出帆日時貨物ノ個數品名等詳細ニ取調ヘ監吏ニ報告ス可シ

第十三條　他港稅關若クハ其支署ニ於テ已ニ内航船ニ資格ヲ變更シ併セテ其搭載貨物ノ輸入手數ヲ爲シタル外國歸航船入港シタル時ハ稅關ヨリ附與セシ免狀證書類及事實ヲ確認スルニ必要ナル本船備付ノ記錄等ヲ檢閲シ輸入手數ヲ脫漏セシ貨物ナキヤ否詳細ニ課査ヲ遂ケ監吏ニ報告ス可シ

四、貨物係執務規程

貨物係ハ上屋規則ニ從ヒ輸出入貨物ノ整理ヲ擔任シ日出日沒ニ上屋幷ニ各門ノ開閉ヲ掌リ上屋内外ヲ巡視シ貨物ノ取締ヲナシ火災其他非常ノ事アル時ハ及フ限リ豫防ヲナシ本部ヘ急報ス可シ

第一條　埠頭ヘ陸揚スル輸入貨物ハ監船員ノ裏書ヲナシタル陸揚免狀及同内卸免狀或ハ神戸稅關貨物係員若クハ海務係員ノ認許證アル大阪船送免狀及同内送免狀等ヲ受理シ其艀船毎ニ該貨物ノ記號番號本船名艀船番號及貨主ノ氏名上屋入日時等詳細陸揚簿ニ記入スヘシ尤モ該貨物中本港又ハ他港ノ檢印アルカ或ハ過不足アラハ免狀ノ裏面ニ其旨ヲ記入シ認印ヲナシ速ニ檢査課ノ目錄係ニ通知ス可シ

第二條　陸揚貨物ハ總テ帳簿ニ依リ廿四時間ヲ經過シタル時ハ記號番號包裝個數船名等貨物入庫請求簿ニ記入シ倉庫課ニ通知ス可シ

第二章　分課事務

第二章　分課事務

第三條　上屋入ノ貨物ハ錯雜セサル爲メ當該者ニ於テ豫メ其位置ヲ指定整理ス可シ又損傷貨物ヲ發見セハ記號通知書ニ記入シ置キ速ニ其旨貨主又ハ引受人ニ告知シ指定ノ場所ニ運搬セシムヘシ若上屋内外ノ貨物中紛失シタルモノアル時ハ直ニ監吏ニ申告シ監吏ヨリ部長ニ具申ス可シ

第四條　火藥石炭油等爆發若クハ揮發質ノ物品ハ上屋内ニ入ルヲ許サヽルモノナレハ定規ノ場所ニ回漕セシム可シ又赤燐硝石水油類及危害有臭汚穢ナル物品等モ構内定規ノ場所ヘ置カシメ速ニ之ヲ引取ラシム可シ

第五條　埠頭ニ設置セル起重機ハ制限以内ノ噸量ニ限リ揚卸ヲ許可スト雖モ若シ器械ニ損所ヲ生シタル時ハ其事由ヲ調査シ監吏ニ申告ス可シ

第六條　重量貨物或ハ石炭コークス等ノ如キ陸揚ヲナシ難キモノニテ檢査課ノ許可セシモノハ艀船内ニ於テ點檢シ陸揚貨物一般ノ例ニヨリ取扱フ可シ

第七條　時々上屋内外ヲ巡視シ貨物ノ整理取締ニ注意シ且ツ上屋ノ開閉及各門ノ開閉ヲ擔掌ス可シ

第八條　貨物ノ陸揚ヲ終リタル時ハ必ス艀船内ヲ檢査ス可シ

第九條　陸揚シタル貨物中記號番號等ヲ改正セントスルモノアル時ハ直ニ停止シ其理由ヲ調査シ監吏ニ申告ス可シ

第十條　上屋内外ニアル人夫ニ注意シ取締上不都合アルカ或ハ組合鑑札ナキモノアラハ直ニ監吏ニ報告ス可シ尤モ貨主自ラ雇來リシ事實明瞭ナルモノハ此限ニアラス

第十一條　輸入免狀ヲ受理シタルトキハ該免狀面ト實物トヲ照合シ符合セハ押印夫ヲシテ毎個輸入檢印ヲ押捺セシメ若許ハ其免狀面及陸揚簿ニ記入シ認印ヲ捺シ免狀ハ貨主ニ返付シ又免狀面内許ノ時ハ放許ノ都度其個數月日及時ヲ免狀ニ記入シ認印ヲナシ皆濟ノ後ハ陸揚簿ニ記入シ認印ヲ捺シ免狀ハ貨主ニ返付ス可シ但免狀面ニハ何個ノ殘何個ヲ放許シテ皆濟ト記入スルヲ要ス

第十二條　輸入免狀ノ貨物實際不足ヲ生シ戻稅若クハ次便船ニ引取リノ爲メニ不足證明ヲ願出タルトキハ該免狀ハ檢査課ノ目錄係ニ送致ス可シ

第十三條　假納稅引取ノ貨物ハ輸入申告書ニ檢査課及徵收課主任假納稅濟ノ認印アルヲ確認シ皆濟内許共輸入貨物一般ノ例ニヨリ取扱ヒ貨主ニ返付セス監吏ノ調査ヲ經テ檢査課ニ送付ス可シ

第十四條　檢査課ニ於テ檢査ス可キ貨物ヲ指定シ假通關ヲ許可スルモノハ申告書ニ記載アル指定貨物ノ個數番號ト同課主任ノ認印トヲ確認シ指定以外ノ分ノミ放許ス可シ尤モ申告書ハ前條ノ如ク貨主ニ返付セス監吏ノ調査ヲ經テ檢査課ヘ送付スヘシ

第十五條　品種ニヨリ檢印押捺シ難キモノハ監視員ニ宛テ檢印代證ヲ發シ必ス之ニ認印ヲナス可シ但該代證ハ記號番號品種個數貨主又ハ引受人ノ氏名年月日ヲ記入スルモノトス

第十六條　輸入貨物ノ記號番號免狀ニ符合スルモ其品種又ハ數量等ニ差異アリト認ムルトキハ精密ニ調査シ檢印ヲ停止シテ監吏ニ申告ス可シ又貨物ノ記號番號免狀ニ符合セサルモノハ鑑定課査定係若クハ檢査課ニ報告シ其事由取調ノ上之ヲ許放ス可シ

第十七條　重量貨物又ハ石炭コークス等ノ如キ物品檢査課ニ於テ許可セシモノハ其證ヲ認メタル上艀船内ニテ點檢許放ス可シ

第十八條　公使幷ニ公使館用品等無檢査通關ノ通牒アルモノハ當該者其裏面ニ月日ヲ記入シ認印ヲナス等凡テ定例ノ輸入手續ニ從ヒ處理ス可シ

第十九條　誤テ陸揚シタル手數未濟ノ貨物又ハ貨主都合ニヨリ本船ヘ積戻サントスルトキハ願書ヲ出サシメ檢査課ノ證明ヲ得船名記號等相違ナキ時ハ記號番號包裝個數等積戻簿ニ記載シ貨物積戻用紙ニ記入シ認印ヲナシ本品點檢ノ上許可シ該積戻書ハ貨主ヲシテ監船員ニ出サシム可シ

第二章　分課事務

第二十條　手數濟輸入貨物ヲ積戻シ又ハ回漕センストスルモノハ檢査課ヨリ發セシ免狀ヲ認メ輸出檢印ヲ押捺シテ許放スヘシ

第廿一條　手數未濟ノ出庫積戻及軍艦用品トシテ船積センストスル貨物ハ檢査課ヨリ發出セシ免狀ニ照合シテ檢印代證ヲ附與シ許可スヘシ

第廿二條　手數未濟ノ輸入貨物ヲ沿海通航船ニテ開港間ニ回漕センストスル時ハ檢査課ヨリ發セシ免狀ニ照シ相違ナケレハ該免狀ニ月日ヲ記シ認印ヲナシ檢印代證ヲ附與シテ許放シ檢査課ニ通報ス可シ

第廿三條　輸出貨物ハ其免狀ヲ受理シ記號番號個數等實品ト照合シ符合スル時ハ輸出檢印ヲ押捺シ免狀面ニハ月日及時輸出控簿ニハ記號番號個數品名本船名及貨主ノ氏名等ヲ記入シ何レモ認印ヲナシテ放許ス可シ內許ノ時ハ內積證書ヲ解船毎ニ付與シ皆濟ノ際本免狀ヲ貨主ニ返付ス可シ

第廿四條　海外ヘ輸出スル目的ヲ以テ神戶迄解ヲ以テ輸送スル手數濟貨物ヲ許放スル時ハ通常ノ輸出品ノ例ニ依リ取扱フ可シ

第廿五條　輸出貨物ノ記號番號免狀ニ符合スルモ其品種又ハ數量等ニ差異アルヲ認知セシトキハ第十六條ノ例ニ據リ處理ス可シ

第廿六條　少量ノ船用品ヲ積出サントスルモノアルトキハ調査ノ上相當ト認ムルモノハ許票ヲ付與シ直ニ許放ス可シ尤モ多量ノ品ハ檢査課ノ手數ヲナサシム可シ

第廿七條　輸出ノ爲メ上屋內ニ假入シ未タ手數ヲ爲サヽル貨物ヲ貨主ノ都合ニヨリ引戻ヲ出願スル時ハ許票ヲ付與シテ監視員ニ出サシム可シ

第廿八條　輸出見本品等ノ回漕ヲ船會社ノ便船ニ托センカ爲メ關外ヘ運送スルヲ出願セハ些少ノ品ニテ徵稅ニ關セサルモノヽ如キハ之ニ封印ヲ施シ許放ス可シ尤モ徵稅ヲナス物品ハ檢査課ノ手數ヲナサシム可シ

第廿九條　金銀貨幣紙幣等ノ貴重品ニシテ其輸入セシモノハ陸揚以後手數濟マテノ期間其輸出スルモノハ手數濟以後解積マテノ期間貨主自ラ之ヲ自家ニ保管スルコトヲ願出タル時ハ之ヲ許可ス其場合ニ於テハ現品ニ封印ヲ施シ願書ノ餘白若クハ裏面ニ「施封」ノ二字及月日時ヲ記入シ認印ヲナシテ之ヲ保管シ置キ追テ輸入手數又ハ解積ヲナサン爲メ再ヒ運搬シ來ル時封印ヲ解「解封」ノ二字及月日時ヲ記入シ認印ヲ爲シ置ク可シ

第三十條　輸出手數濟ノ貨物ノ貨主ノ都合ニヨリ引戻サントスルモノハ檢査課ニ申告ノ取消ヲ出願セシメ然ル後其檢印ヲ抹消シ許票ヲ與ヘテ監視員ニ出サシム又免狀ニ記載アル船名ヲ變更セントスル時モ同課ニ出願セシメ書改ノ後許放ス可シ

第卅一條　無檢查通關ノ通牒アル輸出品ハ第十八條ノ例ニヨリ其上倉庫課ヘ通報ス可シ

第卅二條　輸出又ハ積戻ノ爲メ上屋ニ假入タル貨物ヲ二十四時內ニ輸出サヽル時ハ第二條ノ例ニ準シ注意シ陸揚セシムヘシ

第卅三條　輸出貨物ヲ水上運搬シ來リ之ヲ陸揚セントスルモノアラハ他ノ貨物ノ妨害トナラサル樣

第卅四條　輸出貨物手數濟ノ後本船ニ於テ悉皆積入ヲナサス其幾分ヲ積戻スル時ハ監船員ニ於テ免狀ヘ內積ノ箇數ヲ記入シ歸部ノ上監吏ニ出シ更ニ本部ヨリ送致セルヲ以テ實品ヲ點檢シ第卅條ノ例ニヨリ消印シ免狀ハ監吏ヘ送致ス可シ

第卅五條　輸入貨物中見本ノ爲メ少量ノ部分ヲ持歸ランコトヲ貨主ヨリ出願スルトキ手數濟若クハ無稅ノ品ナレハ許票ヲ付與シテ放許シ若シ未手數有稅品ナルトキハ鑑定課查定係ノ許證ヲ請

ハシム可シ
但輸出貨物ハ手數既濟未濟ノ別ナク輸入無稅品同樣取扱フ可シ

五、水陸巡察規程

第一條　巡察ヲ分テ特別巡察普通巡察ノ二種トス

第二條　特別巡察ハ監吏之ヲ行ヒ普通巡察ハ本部詰監吏補及天保町監所詰監吏補之ヲ行フ
但特別巡察ハ普通巡察ノ事項ヲモ檢案スルモノトス

第三條　巡察中各船乘監者ヨリ事故ノ報告ヲ得ハ直ニ其船ニ到リ之ヲ處辨スヘシ

第四條　第五條中第二第三第四第七第八ノ場合ニ於テ相當ノ處理ヲナシ若クハ注意ヲ惹クカ如キモ他ノ見聞ニ觸レサルコトヲ勉ム可シ

第五條　巡察員ハ晝夜適宜ノ時間ヲ刻シテ水陸ヲ巡廻シ特別巡察者ハ第一乃至第八普通巡察者ハ第一乃至第五乃至第八ノ事項ヲ視察檢案スルモノトス

第一諸規則及指命ノ行ハルヤ否

第二監吏補ノ行爲及服務ノ能否

第三監吏補内外人民ニ對スル措置ノ可否

第四監吏補執務上緩慢又ハ煩雜ノ爲メ人民ノ不便或ハ不取締ノ廣ナキヤ否

第五密商脫稅其他犯則違例ノ廣ナキヤ否

第六部内ニ異狀又ハ危險ノ廣ナキヤ否

第六監吏補ノ執務ニ於テ過失怠慢及命令達示ニ反スルコトナキヤ否

第八監吏補ノ服裝姿勢擧動端正ナルヤ否

第六條　特別巡察員ハ巡察視察中檢案セシ事項ノ直チニ處理ス可キモノハ之ヲ行ヒタル後部長ニ報告シ其他ノ事項ハ總テ監吏ニ具申ス可シ

第七條　貨物係ノ巡察ハ監吏ヲシテ之ヲ行ハシメ第七條ノ事項ヲ視察檢案スルモノトス

第八條　普通巡察員ハ巡察中視察檢案セシ事項ノ直チニ處理スヘキモノハ之ヲ行ヒタル後監吏ニ報告シ其他ノ事項ハ總テ監吏ニ具申ス可シ

第九條　除監ノ船舶ニ於テ荷仕役ヲ爲サントスルモノアラハ海上巡回員ヲシテ一時監視セシメ置キ本部ヘ通報ス可シ

第十條　巡察セシ場所及時刻其他處理セシ事故等ヲ巡察簿ニ監載シ每朝部長ニ差出ス可シ

六、船内檢查手續

船内檢查ハ本部詰監吏若クハ天保町監所詰監吏等之ヲ執行シ本手續ニ定メタル事項ニヨリ密商脫稅豫防ノ目的ヲ以テ船内ヲ精密ニ檢查ス可キモノトス

第一條　檢查ヲ執行スル船舶ハ左ノ如シ
一入港シタル船舶（宿直乘監者ナキモノニ限ル）
二貨物卸濟ノ船舶
三質格變換ノ船舶
四賣買ノ船舶
五入渠上架ノ船舶
六木津川回航ノ船舶

第二條　檢查ヲナス可キ要部ハ艙内各室船用品貯藏所見本貯藏所其他貨物ヲ容レ得ル場所ニシテ船司又ハ士官ヘ其旨ヲ告ケタル上檢查ヲ執行ス可シ

第三條　監吏ハ其船舶ノ種類ニ由リ相當ノ檢查員ヲ配付スルモノトス

第二章　分課事務

但乘監員ハ毎ニ檢査ヲ補助ス可シ

第四條　入港船舶アルトキハ直チニ本船ニ到リ第二條中艙内ノ部分ヲ除キテ檢査シ貨物又ハ見本品委托品或ハ乘組員ニ屬スルモノニシテ商品ト認ムルモノアルトキハ船司又ハ士官ニ就キ本港ヘ陸揚ス可キモノナルヤ否ヲ尋問シ陸揚スヘキモノハ其手續ヲ示シ其儘積在シ置クモノハ證明書ヲ徹ス可シ尤モ紙包小箱等ノ類ハ可成一室ニ集メシメ通常ノ貨物ハ艙内ニ運ハシメ施封ニ便ナラシム可シ但入港船中輕荷ノミニテ貨物ナシト稱スルモノハ一應艙内ヲモ檢査ス可シ

第五條　稅關規則第十一條ノ資格變換幷ニ賣買船ハ檢査課ヨリ通報アラハ監吏ハ同課ヨリ送付セル船用品目錄ヲ檢査主務員ニ交付シ直ニ本船ニ到リ檢査ヲ行ハシム可シ

前項ノ命ヲ受ケタルトキハ檢査主務員ハ本船ニ到リ船用品目錄ニ照合シ第二條ノ要部ヲ檢査シ卸殘ノ貨物アルカ又ハ積荷目錄外ノモノアルトキハ陸揚ノ手續ヲナサシム可シ

第六條　貨物卸濟ノ船舶ハ乘監者ノ通報ニ隨ヒ檢査主務員ハ直チニ本船ニ到リ艙内ヲ檢査シ若シ卸殘ノ貨物又ハ積荷目錄外ノモノアラハ陸揚ノ手續ヲ爲サシム可シ

第七條　修繕ノ爲メ入渠上架若クハ木津川ヘ回航スル船舶ハ檢査課ヨリノ通報ニ隨ヒ監吏ハ檢査主務員ヲシテ直チニ本船ニ到リ檢査ヲ行ハシムヘシ

檢査主務員ハ前項ノ命ヲ受ケタルトキハ直チニ本船ヲ檢査シ卸殘ノ貨物又ハ積荷目錄外ノモノアラハ陸揚ノ手續ヲ爲サシメ又乘組員ノ手荷物ヲ檢査シ若シ有稅ニ屬スル品アラハ假リニ稅關迄陸揚セシムルカ或ハ船司ヨリ保管ノ證明書ヲ徵ス可シ

第八條　資格變換賣買船入渠上架木津川回航船ノ檢査ヲ結了シタルトキハ檢査主務員ハ歸部ノ上直チニ其旨ヲ監吏ニ報告シ監吏ハ之ヲ檢査課ヘ報告ス可シ

第九條　檢査主務員ハ第一條ニアル船舶ノ檢査ヲ結了シタル時ハ船舶檢査簿ヘ其旨ヲ詳記シ認印ヲ押捺ス可シ

後三十一年二月六日更ニ監視官吏執務提要ヲ配布して執務上の指針を示せり

監視官吏執務提要

凡ソ監視事務ノ目的ハ關稅ニ關スル脫稅犯則ヲ防遏シ其既犯ニ在テハ之カ事實ヲ搜索査明シ其處分ノ手續ヲ履行スルニ在リ是ヲ以テ監視官吏ハ一方ニハ其主タル犯則ノ取締ヲ嚴重ニスルト同時ニ他ノ一方ニハ正實ナル納稅義務者ヲ保護シ其取引交通上ニ妨害ヲ蒙ラサラシムルノ注意ナカルヘカラス因テ此ニ其執務ノ梗概ヲ擧示シ各自遵由スル所ヲ知ラシメ以テ萬一ノ失誤ナカランコトヲ期ス

第一監視官吏ハ上長ニ對シ恭順ヲ旨トシ職事ニ服スル忠實ニシテ假令危難ニ遭遇スルモ愼重自カラ持シ任務ノ目的ヲ達スルノ覺悟ナカルヘカラス

第二監視官吏ハ善ク其素行ヲ愼ミ職務上內外人民ニ對シテハ言語動止温和丁寧ヲ要スト雖モ或爲メニ緩慢ニ流レ威嚴ヲ損スル等ノ事アルヘカラス

第三監視官吏ハ執務上勉メテ嚴正靜肅ヲ旨トシ假令人民ニ於テ無禮過言其他粗暴ノ擧動アルモ其職務ヲ妨害セサル以上ハ徐ニ之ヲ諭止シ彼ヲシテ反省ノ念ヲ起サシムルヲ要ス然レトモ若シ其職務ヲ妨ケ威嚴ヲ失墜スル等ニ至テハ苟モ假借スヘカラス其事情ヲ上官ニ具申シ指揮ヲ乞フヘシ

第四監視官吏ハ自己ノ職掌ヲ忽ニスヘカラサルハ勿論同僚互ニ相輔翼匡正シテ同功一体タルノ精神ヲ遺忘スヘカラス

第五監視官吏ハ一般ニ監視部長ノ監督ニ屬シ監視監區ニ於テハ其監區主任ノ監督ニ從フモノトス

第六監視官吏ハ密商脫稅ニ關スル犯則其他ノ違例ヲ防止スルハ勿論尙常ニ左ノ各項ニ注意スルヲ

第二章　分課事務

要ス

(一)監區內ニ於ケル外國貿易及船舶舟車ニ關係アル營業者及既往犯則者等ノ行爲ヲ視察スル事
(二)輸出入貨物荷造ノ異狀アルモノヲ視察スル事
(三)輸出入貨物運送舟車ノ往來ヲ注視スル事
(四)海陸交通ノ人夫及旅客旅具等ニ注意スル事

第七監視官吏密商脫稅ノ所爲ヲ發見シタルトキハ本品ヲ差押ヘ本人及關係人ノ住所氏名及物品ノ出處運搬ノ手續等ヲ詳細ニ尋問シ成ルヘク本人ヲ同伴シ本部ニ開申スヘシ其運送船客船其他行商等各其規則違犯ノ場合ニ於テモ亦本條ノ例ニ依ル

第八監視官吏輸出入貨物又ハ官品ヲ窃取セル者ヲ取押ヘタルトキハ贓物ト共ニ犯人ヲ引致シ其旨ヲ本部ヘ具申スヘシ

第九監視官吏密商脫稅等ノ犯則者アルヲ知リ又ハ之カ密告ヲ受ケタル時ハ速ニ之カ防遏及差押等ノ手續ヲ爲シ一面ニハ直ニ本部ニ通告スヘシ

第十人民ノ家屋倉庫內等ニ於テ犯則ヲ發見シ若クハ之カ搜查ヲ爲ス場合ニハ成ルヘク主人若クハ主タル者ヲ立會ハシメ他日證左ノ煙滅セサラン事ヲ期スヘシ

第十一犯則物件ノ差押ヘタルトキハ其品名、數記號等ヲ詳細ニ之ヲ查明シ令狀ヲ以テ執行シ直ニ本部又ハ監區ニ送致スヘシ若シ其物件ニシテ本部又ハ監區ヘ送致スル事能ハサル場合ニ於テハ其占有者ニ於テ以後ノ處權ヲ行フヘカラサル旨ヲ告知シ十分ノ警戒ヲ加ヘ置クヘシ

第十二前條若シ送致シカタキ場合ニ在テハ尙保全ニ掛念アル時ハ相當ノ監守者ヲ附スルカ若クハ警察官吏市町村吏等ニ保管ヲ委托スヘシ

第十三活動物腐敗物若クハ危險物等ニシテ性質上送致シカタキモノト思考スルトキハ本部又ハ監區ニ急報シテ上官ノ指揮ヲ乞フヘシ

第十四國禁阿片ノ密輸入品ヲ差押ヘタル場合ニハ左項ノ手續ヲ注意シテ措置スヘシ

(一)犯者條約國ノ外國人ニシテ住所氏名分明ナラス且逃亡ノ虞アルトキハ其國領事ノ承認ヲ得テ地方警察官ニ引渡スカ又ハ領事ノ保管ニ任シ住所氏名ヲ確任シ置クヘシ

(二)犯者內國人若クハ條約未濟國人ナレハ總テ地方警察官ニ引渡スモノトス

第十五各監所監視員ハ其監所ヲ通過スル貨物旅客ニシテ國禁物若クハ密輸出入品ヲ藏匿スルノ疑アルトキハ不審ノ旨ヲ告ケ之ヲ檢查シ事實果シテ例規ノ不慣ニ出スルモノナル時ハ其手續ヲ示諭シ若脫稅ノ構意ニ出シモノト認ムル時ハ本品ヲ差押ヘ若クハ現場ニ留置キ犯人ノ住所氏名ヲ調查シ本人同伴シテ本部ニ申報スヘシ

第十六監視監區ハ其區域ヲ畫定スト雖モ若シ他ノ監區ノ區域內ニ於テ犯則ヲ發見シタル時ハ自他ノ區別ヲ爲サス相當ノ手續ヲ爲シ直ニ該リ監區主任ヘ引繼クヘシ

第十七監視官吏ハ他ノ課員ヨリ職務上委囑セラルルコトアル時ハ職掌上許ス限リハ之ニ應スルモノトス此場合ニ於テハ速ニ上官ニ申報スヘシ

第十八脫稅犯則違例其他要件ニ關シ上官ヘノ報告等ハ其事件ノ發生シタル時ヨリ遲クモ二日以內ニ提出スルモノトス

但シ詳細ノ調書若クハ圖表等ニテ此日限內ニ呈出シカタキモノハ其旨申報スヘシ

總テ報告書類ハ其係監吏又ハ監區主任ニ致シ監吏及主任ハ之ヲ部長ニ提出スルモノトス

第十九監視區ニハ主任ノ外開閉ヲ許ササル書函ヲ備ヘ置キ左ノ書類等ヲ保管スヘシ

(一)監視事務ニ必要ナル諸書類
(二)諸書式及標本

第二章　分課事務

(三)諸達及諸命令
(四)部長及監區主任其内外官吏間ニ往復セシ秘密書類及時々定ムル諸暗號
(五)監視區圖解

第二十各監視監區ニハ監視ニ關スル日記表ヲ備ヘ置キ左ノ事項ヲ記載捺印スヘシ

(一)脫稅犯則違例等ノ件
(二)監視出務時間及主任巡回時間
(三)時々口頭若クハ書面ノ命令
(四)本部及諸官衙ト照會往復ノ件
(五)臨時發生ノ事故天候等

第廿一監視官吏ノ手記スヘキ帳簿ハ式ニ從ヒ精密ニ記載スヘク若シ失誤アルヲ發見セハ速ニ訂正スルヲ要ス

第廿二職務ニ關スル書類帳簿等ハ嚴密ニ保管シ他見ヲ避クル樣注意スヘシ

第廿三職務執行ニ關シ見聞セシ人民ノ機密若クハ官務ノ秘密ニ屬スル者ハ一切他ニ漏洩スヘカラス

第廿四各監視員同僚ト交代スル時ハ必ス監視位置ニ於テシ且監視中事況ノ詳細ヲ申繼クヘシ何等ノ事故アルモ其位置外ニ於テ交代スルヲ許サス

三十、旅具檢查　明治二十三年以前旅具檢查に關する慣行に就ては既に本吏第二期（第八篇第四章參照）に於て述ふるところの如し二十三年七月新に發布せられたる稅關分課規程によりて旅具檢查事務は全然監視課の手に移されたりしか降て二十八年始めて之に關する檢查内規を定む

大阪稅關旅具檢查内規

第一

外航船へ上下スル旅客及乘組人ノ携帶スル旅具ノ檢查ハ專ラ監視部ノ擔任トス
但時宜ニ依リテハ宿直員ニテ檢查スル事アルヘシ

第二

本船乘監者ヨリ提帶上陸ヲ認タル個數又ハ品名ハ當日亦ハ翌日本部へ通報スヘシ

第三

風雨ノ時天保町ヨリ直ニ上陸スル旅客ノ提帶品又ハ沖賣營業者等ニ於テ些少ノ有稅品ヲ提帶スルモノアル時ハ見積代價一ト口拾圓迄ハ天保町本部詰ニ於テ直ニ稅金ヲ假納シ後本關へ送付スヘシ
但代價拾圓以内ト雖モ商品ト認ル時ハ二重稅ヲ取立ヘシ

第四

見積代價拾圓以上ノ物品ヲ徵稅スル時ハ本部詰幷ニ本關吏員ト協議ノ上評價ヲ決定スヘシ

第五

旅具中有稅品アル時ハ自用品又ハ商品ノ區別ヲ判別シ拾圓以上ノ商品ハ翌日開關時刻マテ留置クヘシ亦拾圓以上ト雖モ全ク自用旅具用品ト判決シタル時ハ直ニ單稅ヲ假納シ許放スヘシ

第六

提携スル自用品ニシテ徵稅スル代價ハ凡ソ百圓ヲ限リトシ以上ノ高價品ハ自用品ト雖モ開關ノ上本手數ヲ爲サシムルモノトス

第七

有稅品ト雖モ全ク自用ニ供スルモノト見認ムル時ハ五圓以内ノ物品ハ免除スヘシ

以上

是れと同時に左の如く旅具中特に免稅すへきものを示し適從するところを知らしむ

旅具中無稅ニ屬スル品類

帽、傘、杖
長短沓及(スルーブ)ノ類　各一二個
旅甔、肩掛、フランケット　各一二個
手巾　凡貳打
化粧道具　一組
衣服及自体粧飾品　一組
懷中時計及付屬品　一組
自用藥品
旅用自轉車　一個
カメラ　一個
望遠鏡　一個
旅用食器類　一組
同　小寢及椅子
同　小兒自携ノ玩具　少許
同　筆紙墨　少許
同　飲食物　凡ソ五圓以下
烟草ノ已ニ使用シタル殘品包裝ヲ開キタルモノ自家職業又ハ研究ニ關シ必用携帶ノ學術用具及工藝用品遠洋出漁ノトキ豫メ屆ケ置キタル潛水器具漁具類

右之通確定ス

廿八年十月

後明治三十年二月右の內規を廢して更に檢查及徵稅規定を定め爾來之によりて檢查事務を執れり

大阪稅關

監視部檢查幷徵稅規定

凡ソ外國旅客ノ出入及其旅具携帶品ノ檢查ハ監視部內ノ一分掌ニ屬スト雖モ其實ハ關稅ノ一要部ト云フモ可ナリ蓋シ來航ノ外國人ニ在テ始テ我官吏ニ接シ吏務ノ整否宮民相對スルノ情態ヨリ四邊ノ事物ニ至ル迄先ツ眼ニ入ル者ハ此檢查ノ時ニアリ是ヲ以テ職ヲ該務ニ執ル者ハ尤モ注意ヲ加ヘサルヘカラス然ラスンハ其過失ハ徒ニ關吏ノ聲譽ヲ損スルノミナラス時ニ延ヒテ一國ノ體面ニ關スル者ナシトセス豈愼マサルヘケンヤ本則揭クル所ノ要ハ左ノ數項ニ過キス曰ク執務愼重人ヲ遇スル懇切曰ク方正敏活事ニ臨テ果斷曰ク奸ヲ防ク嚴密曰ク課稅苟モセサル等ナリ當務者能ク其意ヲ體シ服膺忘レス以テ職責ヲ辱シメサラン事ヲ

第一條　本部檢查係ハ外國出入旅客ノ狀況ニ注意シ其旅具提携品ヲ檢查ス

第二條　凡ソ檢查官吏ハ左項ニ注意シ檢查ヲ爲スハ敏活ニシテ粗漫ナラサルヲ要ス

第三條　檢查上事若シ他日ノ參考トモナルヘキ者アラハ其人品氏名國籍船名ヨリ往來發着ノ地名若クハ所持品等可及的ノ記載ヲ爲シ置クヘシ

(一)旅客ノ人體資格

(二)總テノ場合ニ於テ有稅品ヲ有スルヤ否ヲ問フ事

(三)檢查員ノ視察上必要アル場合ニハ制禁品若クハ貴重寶石類ヲ所持スルヤ否ヲ問フ事

(四)旅客ノ現ニ出頭セサル場合ニ於テハ其所有主ノ人名國籍及資格ノ概要等

第四條　檢查ノ事務ハ左項ニ從ヒ係長豫シメ其事務ノ繁簡ヲ察シ適宜各員ヲ配當シ執務セシムヘシ

第二章　分課事務

シ

(一)(二)(三)常時ニ在テノ執務
入船若クハ出船ノ一ナル場合
入船出船ノ同時ナル場合

第五條　檢査係員ハ受檢貨物ノ排列幷檢査濟否ノ區分ヲ明瞭ニシテ混雜セシメサル樣指示シテ整理スヘシ

第六條　旅具提携品中有稅品アルトキハ本人ヨリ有稅品仕譯書ヲ提出セシメ徵稅ノ手續ヲ爲スヘシ其商品ト見認ムルモノハ申告書ヲ出サシメ調書ヲ經タル後徵稅スヘシ但無稅品ト雖モ價格ノ高キモノ多量ナルモノ若クハ積荷目錄ニ揭ケアルモノト思料スルトキハ申告書ヲ出サシメ直許ヲ爲スヘシ

第七條　前條仕譯書等ヲ提出シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ其更正ヲ要スルモノハ本人ヲシテ之ヲ更正セシムヘシ

(一)記載ノ事項ニ相違ナキヤ否
(二)記載外ノ品物ハ本人ノ身分狀況ニ照シ相當ナリヤ否
(三)受檢人ニ於テ事物ノ上ニ隱蔽虛僞ノ狀況ナキヤ否

第八條　凡ソ檢査ハ仕譯書提出ノ順序ニ依リ之ヲ行ヒ其成績ハ仕譯書ノ裏面ニ記載スヘシ

第九條　前條ノ調査ヲ爲シタル後係長監吏ハ係員ト共ニ其稅額ヲ檢定シテ之ヲ徵收シ領收證ヲ本人ニ交付スヘシ

第十條　稅額ノ檢定ハ鑑定課ニ於テ時々調査スル所ノ價格表及稅目類別表ニ照シテ之ヲ爲シ係長監吏及係員ハ其檢定ノ概要ヲ仕譯書ノ裏面ニ記載シ各自表面ニ認シ之ヲ檢査課ニ送付スヘシ

第十一條　檢査課及鑑定課ハ前條ノ仕譯書ヲ審査シ認印ヲ捺シテ之ヲ徵收課ニ送付スヘシ但シ意見アルトキハ速ニ之ヲ係長監吏ニ通知スヘシ

第十二條　係長監吏ニ於テ鑑定課審査係ノ檢定ヲ要スルモノト思料スルトキハ之ヲ同係ニ回付シ若クハ其出務ヲ待チテ鑑定ヲ經テ徵稅スヘシ

第十三條　旅具提携品中隱匿セシ物品ヲ發見セシトキハ係長ヲ經テ部長ニ報シ其處分ヲ請フヘシ

第十四條　禁制物其他贋造貨幣又ハ風俗ヲ害スル繪畫等ヲ發見シタルトキハ假リニ差押ノ手續ヲ爲スト同時ニ係長ニ報シ係長ハ部長ニ申議シ速ニ其處分ヲ爲スヘシ

第十五條　旅具提携品中彼ニ於テ他見ヲ憚ル如キ物品アラハ成ヘク他人ノ目ニ觸レサル樣檢査スヘシ

婦人所屬品檢査ノ如キモ亦本條ノ精神ニ依リ成ヘク注意ヲ加フヘシ

第十六條　外國又ハ本邦外交官携帶ノ旅具提携品ハ無檢査ニテ通關ヲ許シ本邦外交官ノ所屬品ニシテ携帶ニアラサルモノハ部長ノ通達ニ依リ無檢査ニテ通關ヲ許スヘシ

但領事貿易事務官等ノ所屬品ハ此限ニアラス

第十七條　外國外交官所屬品ニシテ外務省ヨリ無檢査通關ノ通牒アルモノハ記號個數等該通牒ニ照シ無檢査通關ヲ許スヘシ

第十八條　旅具提携品ノ通關ヲ許ストキハ輸出ハ附票又ハ白墨ヲ以テ許票トシ輸入ハ白墨ノミヲ用ヰルモノトス

第十九條　旅具提携品ヲ留メ置カントスル者アルトキハ先之ヲ檢査シ而シテ廿四時間ハ本人ノ責任ニ附シ之ヲ許スモ廿四時間ヲ過クルトキハ管守係ヘ報シテ入庫セシメ庫租及之ニ關スル費用ヲ拂フヘキ旨荷主ヘ示諭シ他日受授ノ證トシテ名刺又ハ他ノ證票ヲ預リ其波方ヲ約シ置クヘシ

第二十條　碇泊諸船舶ヨリ贈答品又ハ雜品等ヲ提携シ來リタルトキハ之ヲ檢査シ有稅品ハ相當ノ手續ヲ爲サシメ無稅品ハ第六條ノ如ク取扱フヘシ

第廿一條　直許ヲ爲ス輸出入品ノ價額品名船名人名等ハ詳細帳簿ヘ記載シ置クヘシ輸入見本品ニシテ積荷目錄中ニアルモノハ貨物係ヘ送附シ然ラサルモノハ檢査ノ上之ヲ許放シ本條ノ記載ヲ爲シタル後本部ヘ通知スヘシ其徽稅スヘキモノハ相當ノ手續ヲ履マシムヘシ

第廿二條　檢査官吏ハ特ニ姿勢言動ヲ正フシ其旅客ニ接スル寬厚ニシテ又威信ヲ失スヘカラス

第廿三條　旅具提携品ノ檢査ハ敏活ニシテ其要ヲ得ルヲ主トス綴密ヲ名トシテ苛刻ニ渉リ煩ヲ旅客ニ與フル等ノ事ナカルヘシ

三十一、積卸特許と信號規定　天保山沖即ち大阪港に出入せる船舶にして貨物積卸の繼續を特許せんとするに中り本船乘監吏に對し之か通知をなさんと欲するも由來天保山監所所在の位地と本船の投錨點は常に少くも約二浬の距離を隔つるか故に之か處置に不便勘からさるを以て遂に二十八年十月信號內規を定め爾來天保山監所に於て之を實行せしめ今日に至るも現に此方法を取れり

天保山出張所ト乘監船舶間ニ於ケル荷物揚卸繼續特許ノ信號內規

第一條

一本部出張所及碇泊船間ノ距離遠隔セルカ爲メ通信ノ時期ヲ失シ願主ノ不便ヲ來スノ虞アリ故ニ荷役及其繼續ノ特許ヲ紅白青ノ三色ニ區別シタル旗ヲ以テ信號トス

但時間ハ從前ノ通成ルヘク速ニ本船ニ通スヘシ

第二條

一荷物揭卸繼續ノ船アル時ハ天保山出張所ヨリ信號ヲ以テ本船ニ報スヘシ

第三條

一乘監者ハ午後四時ヨリ日沒ニ至ル迄ノ間ハ監守ノ傍ラ出張所信號ノ有無如何ニ注目シ決シテ觀察ヲ怠ルヘカラス

第四條

一沖合碇泊船ノ追願ハ晝夜ノ別ナク天保山出張所ニ於テ許可シ晝間ハ旗ヲ以テ之ヲ示シ夜間ハ直ニ本船ニ通知スヘシ

但電話貫通ノ時ハ本關ニ於テ追願受理スルコトアルヘシト雖モ電話濟迄ハ願主ヲ待タセ置クヘシ

第五條

一沖合碇泊ノ船舶最初入港ノモノハ赤旗次ニ入港ノ分ハ白旗トシ其何レカ一方ノ船舶仕役ヲ許可セシ時ハ紅白其一ヲ揭ケ兩隻共ニ許シタル時ハ兩色ノ旗ヲ揭クルモノトス

第六條

一川內碇泊ノ船舶ハ仕役特許アレハ青色ノ信號ヲ揭示スヘシ沖川碇泊ノ各船仕役スレハ紅白青ノ三種ノ旗ヲ連揭スルモノトス

第七條

一天保山出張所詰ノモノハ沖合又ハ碇泊船豫定信號外ニ多數ノ船舶アル時ハ其當日貨物揚卸ノ繁閑ヲ見計ヒ乘監者ト信號ノ連絡ヲ定メ置キ其以外ノ者仕役シタル時ハ人ヲシテ通知スヘシ

第八條

一本關本部詰ノモノハ荷役特許ノ際電話不通ナル時ハ川內碇泊船ヘハ直ニ本船乘監者ヘ沖合碇泊船ヘハ天保山出張所ヘ小使ヲ以テ急報スヘシ

但場合ニ依リ腕車ヲ以テ通スルコトアルヘシ

白　赤　青

明治廿八年十月廿八日

注意

一當分ノ內沖合ハ二隻川內ハ一隻碇泊ノ豫定ヲ以テ信號通信ノ規定ヲ設クルト雖モ沖合ニ二隻以上碇泊船アリテ川內ニ一隻以上ノ碇泊船アリテ沖合ノ碇泊船二隻ニ滿タサルトキハ臨時一方ノ號旗ヲ他方ニ融通利用スヘシ

但此場合ニ於テ出張所詰ト乘監者ハ相互ニ牒合シ決シテ誤解失實ナキ事ヲ注意スヘシ

一乘監吏ハ肉眼ヲ以テ信號旗ノ色合ヲ見別ケ難キトキハ双眼鏡又ハ望遠鏡ヲ備用スヘシ

三十二、監視官吏の賞罰　明治二十三年七月稅關官制の改正に伴ひ同年十月八日勅令第二一八號を以て稅關監吏補賞罰規則を發布せり該規則は左の如し

第一條　監吏補其職務上勤勞アル者ハ事ノ大小難易ニヨリ毎年五圓以下ノ賞ヲ與フ

第二條　監吏補其職務上怠慢過失アル者ハ情狀ニヨリ左ノ懲罰ニ處ス

第一　譴責　第二　罰俸　第三　免職

第三條　罰俸ハ月俸額百分ノ一以上一箇月以下トス

第四條　罰俸ハ毎月俸ヲ以テ納付セシム但月俸額三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條　罰俸ニ處セラレタル者罰俸完納前退官免職又ハ死去スルトキハ之ヲ追徵

第六條　大藏大臣ハ本規則ノ執行ヲ稅關長ニ委任スルコトヲ得

右規則第六條によりて其賞罰の執行方は依然稅關長に委任せらるゝことゝなりしを以て當關に於ては從來の監吏補賞罰例擴充を以て之に宛てたりしも二十八年更に監吏補賞罰例を規定施行せしむる達第八號

木關監吏補賞罰例別冊之通相定候條此旨相達ス

但シ賞罰例中貨物係ニ關スル事項ハ當分ノ內之ヲ實施セス

明治廿八年五月二十九日

監視部

大阪稅關長　穎川君平

（別紙）

大阪稅關監吏補賞罰例

賞例

第一條　監吏補其職務上功勞アルモノハ例ニ照シテ之ヲ賞シ又事ノ難易輕重ヲ計量シテ本賞ヲ加等スル事アルヘシ

第二條　本則ニ揭ケサル事項ト雖モ職務上功勞ノ賞スヘキモノハ諸條ニ比附シテ之ヲ賞シ或ハ賞詞ニ止ム

第三條　密商脫稅ノ構意ヲ以テ價格五圓以上ノ輸入有稅品又ハ價格五拾圓以上ノ輸出有稅品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シテ押獲シタルモノハ賞第六等

第四條　押獲シタル貨物輸入品ニシテ價格五圓以上拾圓毎ニ一等ヲ加ヘ輸出貨物ニシテ價格五拾圓以上百圓毎ニ一等ヲ加フ

第五條　押獲シタル貨物價格五圓末滿ノ輸入有稅品又ハ價格五拾圓未滿ノ輸出有稅品ハ賞第十等

第六條　國禁阿片ヲ密運シ又ハ密運セントスルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第六等其量半斤以上一斤毎ニ一等ヲ加フ半斤未滿ノ阿片及其吸烟器具ヲ押獲シタルモノハ賞第九等

第七條　第三條及第六條ノ場合ニ於テ犯人ノ暴壓ヲ受ケ又ハ負傷スルモ屈セス職務ヲ盡シタルモノハ賞第一等

第八條　輸入若クハ輸出禁止ノ物品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シ押獲シタルモノハ賞第六等

第九條　稅關ノ手數ヲ避クル爲メ無稅品ヲ密運シ若クハ密運セントスルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第十等其物品ノ沒收ニ歸スル時ハ賞第九等

第十條　手數既濟ノ貨物中ニ手數未濟ノ貨物ヲ混シ運搬スルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第十等

第十一條　稅關區內ニ於テ火藥爆發物其他危險質物ヲ發見シ成規ノ手順ヲナサシメタルモノハ賞第六等

第十二條　稅關ノ印章記標ヲ僞造シ使用シタルモノヲ發見シタルモノハ賞第六等又稅關附屬ノ物品ヲ盜取スルヲ發見シタルモノハ賞第九等

第十三條　職務ヲ執行スルニ當リ輸出入貨物ヲ盜ミ又ハ盜マントスルヲ發見シ押獲シタルモノハ賞第十等

第十四條　暴行脅迫ヲ以テ輸出入貨物ヲ强取シ又ハ强取セントスルヲ押獲シタルモノハ賞第二等

第十五條　第十二條以下ノ條項ニ當リ其ノ物品ヲ追回シ得ルモ其犯人ヲ押獲セサル者ハ各本賞ニ一等ヲ減ス然レトモ其難易ヲ審議シ或ハ減等セサル事アルヘシ

第十六條　海又ハ陸ニテ輸出入貨物ニ火ヲ失シタル時或ハ暴風雨等ニ際シ自己ノ危險ヲ顧ミス貨物ヲ救護シタルモノハ賞第一等

第十七條　稅關ノ廳舍建物又ハ貨物等ニ火ヲ失シタルヲ發見シ直ニ撲滅セシモノ若クハ急報シテ大事ニ至ラシメサリシモノハ賞第五等

第十八條　夜間故ナク本關構內及建物又ハ輸出入貨物ヲ貯藏シタル處ヘ入リタルモノヲ發見シ門外ヘ放逐シ若クハ告發ノ手續ヲ爲シタルモノハ賞第十等

第十九條　密商脫稅犯則盜犯其他取締手續ニ違ヒタルモノヲ發見シテ同僚ニ告知シ若クハ同僚ニ助力シテ又ヲ禁遏セシメタルモノハ賞第十等

第二十條　賞ヲ分テ十等トナス左ノ如シ

一等	五圓	參圓五拾錢
二等	參圓五拾錢	三等
四等	貳圓五拾錢	六等
七等	壹圓	九等
十等	五拾錢	

罰則

第一條　監吏補職務上怠慢過失アルモノハ例ニ照シ之ヲ罰ス其違犯ノ諸條ニ涉ルモノハ一ノ重キニ從フ又事ノ輕重情狀ニヨリ本罰ヲ加減シ又ハ全免スル事アルヘシ

第二條　罰例ニ觸ル、事アルモ自ラ覺擧シテ事ニ害ナキモノハ本罰ヲ減輕シ若クハ全免スル事アルヘシ

第三條　本例ニ揭ケサル怠慢過失ハ譴責ニ付ス

第四條　凡テ官吏ノ體面ヲ汚辱シタルモノハ其職ヲ免ス

第二章　分課事務

第五條　監視中密商脫稅品アルヲ覺ラス又誤テ放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第六等
第六條　前條ノ貨物輸入有稅品ナレハ價格五拾圓以上百圓毎ニ一等ヲ加ヘ輸出有稅品ナレハ價格五拾圓以上百圓毎ニ一等ヲ加フ
第七條　保管物ノ紛失ヲ覺ラサルモノハ罰第六等誤テ保管物ヲ毀損スルモノハ罰第十等
第八條　手數未濟ノ貨物ニ檢印放許シ海關稅ニ害アルモノ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノ及ヒ手數濟貨物ノ檢印ヲ遺脫シタルモノハ罰第十等
第九條　手數既濟未濟ニ論ナク無檢印貨物ノ脫漏ヲ覺ラス又誤テ之ヲ放許シ海關稅ニ害ナキモノハ罰第十等
但貨物ヲ追回シタルモノハ罰ヲ論セス
第十條　貨物ノ記號番號ヲ誤認シ貨主ノ區別ヲ混シ之ヲ放許シタルモノハ罰第十等
第十一條　國禁物阿片ノ密輸ヲ覺ラサルモノハ其量半斤未滿ハ罰第九等以上一斤毎ニ一等ヲ加フ吸烟器具ノ密輸ヲ覺ラサルハ罰第九等
第十二條　監區內ニ於テ稅關ノ廳舍建物又ハ貨物等ニ火ヲ失シタルヲ覺ラサルモノハ罰五等
第十三條　艙口封鎖又ハ共解披ニ踈漏アルモノハ罰第八等
第十四條　艙口封鎖又ハ解披ノ時期ヲ失スルモノハ罰第九等其時期ヲ過ル二時間毎ニ一等ヲ加フ
第十五條　封鎖又ハ解披ノ踈漏ニ由テ密商脫稅其他ノ事害ヲ生セシメタルモノハ罰第五等
第十六條　出務時期又ハ欠勤屆ヲ遲延スルモノハ罰第十等其二時ヲ過クルモノハ一等ヲ加ヘ四時已上ニ及フモノハ更ニ一等ヲ加フ病氣ニテ欠勤中漫ニ他行スルモノハ罰第九等
第十七條　就務時間ヲ後ルヽモノハ罰第十等其後ルヽコト一時以上ハ一時毎ニ一等ヲ加フ
第十八條　規定ノ交代時期外ニ於テ擅ニ交代スルモノハ罰第十等

第十九條　交代ノ際次直ヘノ授囑ヲ遺忘シ又ハ踈漏ニシテ爲メニ事害ヲ生セシメタルハ罰第九等
第二十條　監視中公務ニ非スシテ談話スルモノハ罰第十等
第廿一條　監視中擅ニ監區ヲ離ルヽモノハ罰第十等
第廿二條　監視中遮目ノ場所ニ到リタルモノハ罰第九等其橫臥又ハ睡眠スルモノハ罰第八等
第廿三條　監視中家屋又ハ室內ニ入ルモノハ罰第九等其橫臥又ハ睡眠スルモノハ罰第八等
第廿四條　監視中衣帽等ヲ脫シ若クハ睡眠スルモノハ罰第十等其橫臥スルモノハ罰第九等
第廿五條　監視中擅ニ監區ヲ去リ其隣區ニ至リタルモノハ罰第十等他ノ場所ニ至リタルモノハ罰第七等
第廿六條　監區外ニ出張中擅ニ監所ヲ去リタルモノハ罰第五等
第廿七條　在官中上官ノ許可ヲ得ス他出スルモノハ罰第十等其歸部セサルモノハ罰第八等
第廿八條　公文又ハ官品ヲ遺失シ若クハ誤テ毀損シタルモノハ罰第十等
但辨償スヘキ成規アルモノハ仍ホ之ヲ辨償セシム
第廿九條　監視中書籍ヲ閱覽スルモノハ罰第十等
第三十條　監視中喫烟スルモノハ罰第十等其禁制ノ場所ニ於テスルモノハ罰第六等
第卅一條　監視中失體ノ所爲アルモノハ罰第十等
第卅二條　上官ノ令達ニ違ヒタルモノハ罰第六等
第卅三條　罰俸ヲ分テ十等ト爲ス左ノ如シ

月俸一ヶ月	百分ノ四十	百分ノ廿七
一等 百分ノ五十	二等 百分ノ卅五	三等 百分ノ廿五
百分ノ四十五	百分ノ卅二	百分ノ廿三

百分ノ廿一半
四等 百分ノ二十
百分ノ十八
百分ノ八
七等 百分ノ七
百分ノ六
百分ノ二
十等 百分ノ一半
百分ノ一

百分ノ十六半
五等 百分ノ十五
百分ノ十三
百分ノ五半
八等 百分ノ五
百分ノ四半

百分ノ十一
六等 百分ノ十
百分ノ九
百分ノ三半
九等 百分ノ三
百分ノ二半

次て三十年十一月に至り再ひ之を改正せゟ左に掲けて參考に資せん

達第一七號

監吏補賞罰令別冊之通改定本月十五日ヨリ施行候條此旨相達ス

明治三十年十一月十三日

大阪税關監視部

大阪税關長　穎川君平

監吏補賞例

第一條　監吏補職務上功勞アルモノハ本例ニ照シテ之ヲ賞ス

但事ノ難易輕重ヲ計量シテ本賞ヲ加減シ或ハ賞詞ニ止ムル事アルヘシ

第二條　本例ニ明文ナシト雖モ職務上功勞アルモノハ相當ノ條項ニ比擬シ之ヲ賞シ或ハ賞詞ニ止ム

第三條　賞ハ之ヲ十等ニ分ツ

第一等	五圓	第二等	參圓五拾錢
第四等	貳圓	第五等	壹圓五拾錢
第七等	七拾錢	第八等	五拾錢
第十等	貳拾錢		

第一等	五圓	第二等	參圓五拾錢
第四等	貳圓	第五等	壹圓五拾錢
第七等	七拾錢	第八等	五拾錢
第十等	貳拾錢	第三等	貳圓五拾錢
		第六等	壹圓
		第九等	參拾錢

第四條　職務執行ニ當リ他ノ暴行ヲ受ケ又タ負傷スルモ屆セス其職務ヲ盡シタルモノハ其難易輕重ニ從テ本賞ヲ加等シ第一等ニ至ルヲ得

第五條　密商脫税ノ搆意ヲ以テ價格五圓以上ノ輸入有税品又ハ價格拾圓以上ノ輸出有税品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シテ之ヲ押獲シタルモノハ賞第六等其貨物ニシテ輸入有税品ナル時ハ價格五圓以上拾圓ヲ增ス毎ニ一等ヲ加ヘ輸出有税品ナル時ハ價格拾圓以上貳拾圓ヲ增ス毎ニ一等ヲ加フ

第六條　押獲シタル貨物價格五圓未滿ノ輸入有税品又タ價格拾圓未滿ノ輸出有税品ナル時ハ賞第九等

第七條　税關ノ手數ヲ避クル爲メ無税品ヲ密運セントスルモノアルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第九等

第八條　國禁ノ阿片ヲ密運シ又ハ密運セントスルモノハ賞第八等

牛斤以上一斤ヲ增ス毎ニ一等ヲ加フ

半斤未滿ノ阿片及吸煙器具ヲ押獲シタル時ハ賞第六等

第九條　輸入若クハ輸出禁止ノ物品ヲ密運シ或ハ密運セントスルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第六等

第十條　手數未濟ノ貨物ヲ運搬シ若クハ運搬セントスルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第十等

手數既濟ノ貨物中ニ手數未濟ノ貨物ヲ混シ運搬セントスルヲ發見シ定規ノ手數ヲ經サシメタルモノハ賞第九等

第十一條　免狀又ハ其他ノ許可證面ノ數ヨリモ過數ヲ運搬セントスルヲ發見シタル者ハ賞第十等

第十二條　稅關ノ印章記標等ヲ僞造使用シ又ハ盜用セシモノヲ發見シタルモノハ賞第三等

第十三條　稅關ニ關スル文書ヲ僞造シテ行使シタルモノヲ發見シタルモノハ賞第七等其事ノ輕重ニ從ヒ本賞ヲ加等シテ第二等ニ至ルヲ得

第十四條　稅關構內及輸出入貨物ヲ貯藏スル場所ニ於テ火藥爆發物其他危險質物ヲ發見シ定規ノ手續ヲナサシメタルモノハ賞第六等

第十五條　稅關構內及輸出入貨物ヲ貯藏スル場所ニ於テ火ヲ失シタルヲ發見シ之ヲ消止メ若クハ急報シテ大事ニ至ラシメサリシモノハ賞第五等

第十六條　風雨水害ノ際ニ當リ功勞アルモノハ前條ニ準シ各二等ヲ減ス

第十七條　稅關所屬ノ物品ヲ盜取スルヲ發見シ之ヲ押獲シタルモノハ賞第八等其暴行強迫ヲ以テ前述ノ貨物ヲ其犯人強取セントスルヲ取押タルモノハ其難品ノ輕重ニ應シ之ヲ加等シ賞二等ニ至ルヲ得

第十八條　前條ノ場合ニ於テ其物品ヲ追回シ得ルモ其犯人ヲ押獲シ得サルモノハ前條ニ準シ一等又ハ二等ヲ減ス然レトモ其難易ヲ審議シ或ハ減等セサル事アルヘシ

第十九條　夜間故ナク本關構內及建物若クハ輸出入貨物ヲ貯藏セル場所ニ入リタルモノヲ發見シ之ヲ門外ニ放逐シ若クハ告發ノ手續ヲ爲シタルモノハ賞第十等

第二十條　諸種ノ違法犯則アルヲ發見シ之ヲ制止シタルモノハ賞第十等

第廿一條　第五條以下ニ揚ケタル諸般ノ場合ニ際シ其違法犯則及危險ノ事實ヲ發見シ同僚ニ告知シタル者若クハ其告知ヲ受ケテ之ヲ制止防壓シタルモノハ各本條ニ照シ本賞ニ一等ヲ減ス

監吏補罰例

第一條　監吏補職務上怠慢過失アル者ハ本例ニ照シ之ヲ罰ス其違犯ノ諸條ニ涉ルモノハ一ノ重キニ從フ

但シ情狀ヲ詮考シテ本罰ヲ加減シ或ハ譴責ニ止メ又ハ全免スル事アルヘシ

第二條　本例ニ明文ナキ怠慢過失ハ譴責ニ付シ又ハ違犯ノ情狀ニ依リ相當ノ條項ニ擬シ之ヲ處罰ス

第三條　本例ニ觸ルヽ事アルモ自ラ覺擧シテ事ニ害ナキモノハ本罰ヲ減輕シ或ハ譴責ニ止メ又ハ全免スルコトアルヘシ

第四條　罰ヲ分テ十等トス

一等	月俸一ケ月百分ノ五十	二等	百分ノ四十五	三等	百分ノ四十	四等	百分ノ廿五	五等	百分ノ廿二
六等	百分ノ廿一半	七等	百分ノ十六半	八等	百分ノ十五	九等	百分ノ十三	十等	百分ノ十

第五條　凡テ官吏ノ體面ヲ汚辱シ其他重大ナル怠慢過失アル者ハ其職ヲ免ス

第六條　監視中貨物ノ脫漏ヲ覺ラス又誤テ之ヲ放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノハ罰第十等

其貨物ニシテ輸入有稅品ナレハ價格五圓以上拾圓毎ニ一等ヲ加ヘ輸出有稅品ナレハ價格拾圓以上貳拾圓毎ニ一等ヲ加フ

第七條　手數未濟ノ貨物ニ檢印放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノ及手數濟貨物ノ檢印ヲ遺脫シタルモノハ罰第十等

第八條　手數既濟未濟ニ論ナク無檢印貨物ノ脫漏ヲ覺ラス又タ誤テ之ヲ放許シ海關稅ニ害アルモノハ罰第八等其海關稅ニ害ナキモノハ罰第十等

但シ貨物ヲ追回シタルモノハ罰ヲ論セス

第九條　貨物ノ記號番號或ハ免狀ヲ誤認シ貨主ノ區別ヲ混シ之ヲ放許シタルモノハ罰第十等

第十條　免狀ノ記入ニ粗漏アルモノハ罰第十等

第十一條　定期ノ時間外貨物ノ積卸ヲ放許セシモノハ罰第十等

但臨時特許ノ場合ニ於テモ亦同シ

第十二條　國禁阿片ノ密輸ヲ覺ラサルモノ又ハ誤テ之ヲ放許シタルモノハ其量半斤未滿ハ罰第八等其量一斤ヲ增ス毎ニ一等ヲ加フ吸煙器具ヲ密輸スルヲ覺ラサルモノハ罰第九等

第十三條　輸入若クハ輸出禁止ノ物品ヲ密輸スルヲ覺ラサルモノハ罰第八等

第十四條　船舶ノ入出港ヲ覺ラサルモノハ罰第十等其入港ヲ當該監吏ニ報告セサルモノ亦同シ

第十五條　定期ノ手續ニ反シテ貨物ノ積卸ヲナサシメシモノハ罰第十等

第十六條　監區內ニ於テ稅關ノ廳舍建物又ハ貨物等ニ火ヲ失シタルヲ覺ラサルモノハ罰第五等

第十七條　艙口封鎖ニ粗漏アルモノハ罰第九等其他場所封鎖ニ粗漏アルモノハ罰第十等其之ニ因テ密商脫稅其他ノ事害ヲ生セシメタルモノハ各一等ヲ加フ

第十八條　解封ニ粗漏アルモノハ前條ニ準シ各一等ヲ減ス

第十八條　艙口封鎖又ハ解披時期ヲ失スルモノハ罰第九等

第二十條　出務時間又ハ缺勤屆ヲ遲延スルモノハ罰第十等其二時ヲ過クルモノハ一等ヲ加ヘ四時以上ニ及フモノハ更ニ一等ヲ加フ

同僚ノ缺勤屆ヲ依托セラレ之ヲ遲延スルモノハ罰本人ト同シ病氣缺勤中漫ニ他行スルモノハ罰第八等

第廿一條　缺勤屆ヲ出サスシテ缺勤スルモノハ罰第八等其二日以上ニ及フモノハ一日毎ニ一等ヲ加フ

第廿二條　三日以內ニ轉居屆ヲ出サヽルモノハ罰第十等

第廿三條　身元保證人轉居ノ屆出ヲ爲サヽルモノハ亦同シ

第廿四條　病氣中定日ニ醫案ヲ差出サヽルモノハ罰第十等其後ル、事一時間ニ及フ毎ニ一等ヲ加フ

第廿五條　就務時間ヲ後ルヽモノハ罰第八等

第廿六條　規定ノ時間外ニ於テ擅ニ交代スルモノハ罰第十等

第廿七條　夜時交代時期ノ報告ヲ遲延シ若クハ報告セサルモノハ罰第十等

第廿八條　交代ノ際次直者ヘ授囑ヲ遺忘シ又ハ粗漏ニシテ爲ニ事害ヲ生セシメタルモノハ罰第九等

第廿九條　監視中公務ニアラスシテ談話スルモノハ罰第十等

第廿九條　監視中擅ニ監區ヲ離ルヽモノハ罰第十等其他ノ場所ニ至ルモノハ罰第七等

第三十條　監視中擅ニ遮目ノ場所ニ至リタル者ハ罰第十等其横臥又ハ睡眠スルモノハ一等ヲ加フ
第卅一條　監視中擅ニ家屋又ハ室内ニ入ルモノハ罰第九等其横臥又ハ睡眠スルモノハ一等ヲ加フ
第卅二條　監視中横臥又ハ睡眠スルモノハ罰第十等其横臥且ツ睡眠スルモノハ一等ヲ加フ
第卅三條　前三條ノ場合ニ於テ衣帽及靴等ヲ脱スルモノハ各一等ヲ加フ
第卅四條　上官ノ許可ヲ得ス任地ヲ離レタルモノハ罰第十等
第卅五條　在直中上官ノ許可ヲ得ス他出スルモノハ罰第十等爲メニ勤務ヲ忘ルモノハ罰第八等
第卅六條　出張中擅ニ監所ヲ去リタルモノハ罰第十等
第卅七條　監視中書籍等ヲ閲覧スルモノハ罰第十等其歸部セサルモノハ罰第八等
第卅八條　監視中戯具ヲ弄スルモノハ罰第八等
第卅九條　監視中喫烟スルモノハ罰第十等
第四十條　監區内ニ於テ盗賊其他ノ違法犯則アルヲ覺ラサルモノハ罰第十等
第四十一條　同僚ノ職務ヲ行フヲ妨クルモノ及ヒ同僚ヨリ救援ノ請求ヲ受ケ之ニ應セサルモノハ罰第九等
第四十二條　公文又ハ官品ヲ遺失シ若クハ誤テ毀損シタルモノハ罰第十等
但シ辨償スヘキ成規アルモノハ仍ホ之ヲ辨償セシム
第四十三條　保管物ノ紛失ヲ覺ラス若クハ誤テ之ヲ他人ニ引渡シタルモノハ罰第六等誤テ保管物ヲ毀損シタルモノハ罰第九等
第四十四條　監視中失体ノ所爲アルモノハ罰第十等
第四十五條　上官ノ指揮令達ニ違ヒタルモノハ罰第九等
第四十六條　服裝姿勢ヲ亂シタルモノハ罰第十等

三十三、服制禮式及被服取扱内規　二十三年九月勅令第二百四十一號を以て新官制に伴ふ税關監吏及監吏補の制服を制定發布せり是を從來のものに比せは改良一番せるを見る

監吏及監吏補服制表

正

		監吏	監吏補
		（二十四年十二月勅令第二四〇號ヲ以テ本行改正）	
上衣	地質	紺羅紗	同
	製式	背廣形	同
	袖章	幅五分黒線一條	同
	鈕	金櫻花二行	同
胴衣	地質	紺羅紗	同
	鈕	金櫻花一行	同
袴	地質	紺羅紗	同
	製式	側章幅五分黒線ヲ附ス	同
帽	地質	紺羅紗	同
	製式	圓形ニシテ黒革ノ眉庇ヲ附ス	同
	徽章	金鍍ノ字及櫻葉五枚銀櫻花ヲ附ス周圍幅二分金線二條	同

		監吏	監吏補
		自一級俸至二級俸	自三級俸至四級俸
上衣	地質	同	同
	製式	同	同
	袖章	同一條	幅一分黒線二條
	鈕	同	同　一條
胴衣	地質	同	同
	鈕	同	同
袴	地質	同	同
	製式	同	普通
帽	地質	同	同
	製式	同	同
	徽章	同　一條	同　點線二條

		監吏	監吏補
		自一級俸至二級俸	自月俸拾五圓至月俸拾參圓
上衣	地質	同	同
	製式	同	同
	袖章	同一條	幅一分黒線二條
	鈕	同	同　一條
胴衣	地質	同	同
	鈕	同	同
袴	地質	同	同
	製式	同	同
帽	地質	同	同
	製式	同	同
	徽章	同　一條	同　一條

		監吏	監吏補
		自三級俸至四級俸	自月俸拾貳圓至月俸五圓
上衣	地質	同	同
	製式	同	同
	袖章	同一條	幅一分黒線二條
	鈕	同	同　一條
胴衣	地質	同	同
	鈕	同	同
袴	地質	同	同
	製式	同	同
帽	地質	同	同
	製式	同	同
	徽章	同　一條	同　點線二條

服				夏				衣	
外套	地	質	紺羅紗	上衣	地	質	紺薄羅紗	帽	地	質	白「セルジ」
	製	式	同（折襟胸二重後帶ヲ附ス）		製	式	同		製	式	同（兜形圖ノ如シ）
	袖	章	同（幅一分黒線一條）		袖	章	同		徽	章	同（金櫻花ノ紐釦ヲ兩側ニ附ス）
	釦		同（金櫻花二行）		釦		同				
	帽		同（紺羅紗圖ノ如シ）								
			同				同				同
			同				同				同
			同				同				同

第二條　禮式ハ分テ左ノ三種トス

最敬禮　停歩正面シテ直立シ兩足ヲ整ヘ右手ニ帽ノ前庇ヲ摘ミ之ヲ垂直ニ提ケ帽ノ內部ヲ右股ニ對セシメ左手ヲ垂下シ頭ヲ垂レ體ノ上部ヲ前ニ傾ク

敬禮　室外ニ在テハ正面シテ姿勢ヲ正フシ右手ヲ擧ケ五指ヲ伸シ掌ヲ左方ニ向ケ諸指ヲ接シテ食指ト中指トヲ帽ノ右側ニ當テ左手ヲ垂下シ共眼ニ注目スルモノトス其兩中頭巾ヲ被リタル場合モ亦之ニ準ス

室內ニ在テハ正面シ姿勢ヲ正フシ兩手ヲ垂下シ共眼ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クルモノトス

同班禮　輕ク右手ヲ擧ケ諸指ヲ伸シ帽庇ニ觸ル

第三條　本式中上官ト稱スルハ監吏補ノ監吏以上ニ於ケル監吏ノ部長以上ニ於ケル部長ノ稅關長ニ於ケルヲ云フ

第四條　天皇三后皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃皇族ニ奉對シテハ最敬禮ヲ行フヘシ其外國皇帝皇后以下及大統領ニ於ケルモ亦然リ

第五條　前條ノ場合ニシテ水上ニ於ケルトキハ監視船ハ進行ヲ止メ端舟ハ櫂ヲ捧ケ在船ノ監吏監吏補ハ適宜ノ場所ニ於テ最敬禮ヲ行フヘシ

但シ水夫等ハ外部ニ服役スル者ノミ其位置ニ直立シテ本文同樣最敬禮ヲ行フヘシ

第六條　天皇奉祝ノ奏樂ヲ聞クトキハ時ト場トヲ問ハス必ス姿勢ヲ正フスヘシ其外國皇帝奉祝ノ場合モ亦之ニ準ス

第七條　職務執行ノ爲メ止ムヲ得サル場合ノ外上官ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ其高等官ニ對シテハ停歩シテ之ヲ行フヘシ他廳又ハ外國高等官ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第八條　同僚ハ同班禮ヲ行フヘシ

第九條　物品ヲ携帶スル等ニテ相當ノ禮式ヲ行フ能ハサルトキハ禮スヘキ人ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ若シ左手ニ携帶スルトキハ右手ヲ帽ニ當ツヘシ

第十條　內外官民ヨリ禮ヲ受ケタルトキハ必ス相當ノ答禮ヲナスヘシ

第十一條　室內ニ於テハ帽ヲ脫スヘシ

第十二條　上官室內ニ來ルトキハ椅子ヲ離レテ禮ヲ爲スヘシ

第十三條　船舶乘艦中船長役員等近傍ヲ通過スルカ若クハ相逢フトキハ適宜相當ノ禮ヲ爲スヘシ

但船積船卸貨物調查中ハ此限ニアラス

同年六月稅關官制の改正によりて新たに監視官を置き翌月勅令二百三十二號を以て監視官の制服を定めたり當時當關に監視官を置かさりしを以て之を略す而して以上述へたる制服は明治十年六月以來監吏補のみに對して給與せられたるも二十三年の制服改正と共に監吏に對しては初任の際に限り制服料を支給せしも二十七年三月に至り之を廢し監吏補に對する制服料は二十六年六月以降一ヶ年三拾圓を月賦支給することゝなせり元來當關に於ては被服に關する事務は總て庶務課に於て取扱ひ來たりしか二十九年夏季より現品の給與保管其他の監督に關する事務は便宜之を監視部に於てせり後三十一年七月監吏補被服幷に被服料取扱內規を定め監視部に於て之を分掌せしむ

監吏補被服幷ニ被服料取扱內規

第一條　監吏補轉免等ノ節ハ後任者ヘ必ラス其儘被服ヲ讓渡サシム

但保存期限前二ケ月以後ノ者ニ限リ被服ノ下渡ヲ望ム者ハ未償金ヲ一時ニ仕拂ハシメ被服ヲ下渡ス事アルヘシ

第二條　後任者ノ讓受ケタル被服着用ニ適セサル爲メ仕立直シ等ヲナス時ハ其費用ハ凡テ後任者

ノ自辨トス

第三條　後任者第一條但書ノ場合ニ該當セシ時ハ特ニ次期ノ被服ヲ新調セシム

第四條　增員等ノ爲メ中途拜命ノ者（保存期限前二ケ月以後ノモノハ第三條ニ據ル）ハ新ニ被服ヲ製シ拜命ノ日ヨリ下賜ナル筈ノ被服料豫算額ヲ被服代價ヨリ引去リ殘額ハ當人ノ負擔トシ一時又ハ月賦トシテ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシム

第五條　減員等ノ爲メ中途轉免等ノモノハ被服料仕拂殘額（增金アレハ其殘額ヲモ）ヲ一時ニ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシメ被服ハ當人ニ下渡ス

第六條　被服保存期限ハ左之通相定ム

一夏　服　五月一日ヨリ十月三十一日迄

一冬　服　十一月一日ヨリ翌年四月三十日迄

一外套、帽　十一月一日ヨリ翌年十月三十一日迄

第七條　別仕立等ノ爲メ增金セントスル者ハ當該監吏ニ必ラス屆出テ許可ヲ得ヘシ

第八條　增金仕拂方ハ六ケ月以內（一ケ月ノ月賦ヲ下ラス）ノ月賦トシ新調ノ月又ハ其翌月ノ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシム

但壹圓未滿ハ月賦トスルヲ許サス

第九條　被服地撰定等ハ監吏立會ノ上之ヲ定ム

第十條　被服請負者ヘ仕拂ノ方法ハ外套帽ハ十一月ヨリ翌年四月迄冬服ハ十一月ヨリ翌年四月迄トス而シテ外套帽ノ冬夏二期代金仕拂ノ割合ハ大凡冬六分夏四分トス

第十一條　未償金幷增金等ヲ一時又ハ月賦トシテ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ仕拂ハシムル場合ニハ當該監吏ハ直ニ其金額ヲ當人ノ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ引去リ被服受負者ヘ仕拂フヘシ

第十二條　每月十五日被服ノ檢查ニ當リ破損又ハ紛失等アルモノニハ直ニ修繕ヲ命ス可シ其費用ハ自辨トス

但當人ニ於テ修繕等ヲナサヽルトキハ當該官吏ハ直ニ被服受負者ニ命シテ修繕セシメ其費用ハ月俸又ハ其他ノ下賜金ヨリ引去リ被服受負者ニ仕拂フ可シ

第十三條　此內規ニ記載ナキモ被服料支給規定ニアルモノハ勿論其規定ニ據ルモノトス

第十四條　被服ニ關スル事故本人ニ於テ處辨セサルトキハ身元保證人ニ於テ一切負擔スヘシ

三十四、缺勤償金の配與　監吏補の病氣其他の事故を以て勤務を缺けるものより償金を徵し之を代勤者へ給與せるは既に古き以前よりの慣例たりしか後三十一年四月之れか配與方を內定しすへて是に據つて缺勤償金を分配給與せしむ

監吏補缺勤償金配與法

一各分掌ノ欠勤償金（前月二十一日ヨリ當月二十日マテ）參分ノ一ヲ一ケ月（前月二十一日ヨリ當月二十日マテ）間ニ於ケル皆勤者（十日ヲ超ヘサル忌引交通遮斷及出張ハ之レヲ除ク）並ニ參回以內ノ缺勤者ニ配與ス

但其割合ハ皆勤者ヲ物數五個トシ一回缺勤者ヲ同三個二回欠勤者ヲ同二個三回缺勤者ヲ同一個ト定ム

一各分掌ノ缺勤償金（前月二十一日ヨリ當月二十日マテ）參分ノ二ヲ一ケ月（前月二十一日ヨリ當月二十日マテ）間ニ於ケル勤務總數ヲ其人員ニ平均シタル度數ニ超過スル數ニ應シテ配與シ超過數ナキトキハ各平均數ノ得者ニ等分給與ス

即チ平均度數ヲ超過スルコト一度ナレハ之ヲ物數一個トシ三度ナレハ同三個トシ若シ平均度數ニ超過スル數ナクシテ各自ノ得數相等シキトキハ配與金全額ヲ其總人員ニ等分スルカ如シ

但十日ニ滿タサル勤務日數ハ加入計算セス

一各分掌ノ缺勤償金配與計算方ハ缺勤償金取立ノ階級ニ準シ月俸二十圓十九圓十八圓ヲ物數一個六分トシ十七圓十六圓ヲ同一個四分十五圓十四圓ヲ一個二分十三圓十二圓ヲ同一個十一圓十圓ヲ同八分九圓八圓ヲ同六分六圓ヲ同四分ト定ム

一各分掌違ノ助勤ヲナシタルトキハ其度數ニ應シ缺勤償金配與日數期間（前月二十一日ヨリ當月二十日マテ）ニ新任、轉免等ニテ勤績セサルモノハ計算加入セス

但分掌換ヘノモノハ當月五日ヲ以テ出務日數ノ多キ分掌ノ部ニ編入シ若シ前後何レモ同數ナルトキハ現分掌ノ部ニ編入シ參分ノ一配與ノ部ヨリ配當ス

一監所詰ノ各出務日數一方ハ九日ヲ超ヘ他方十日ニ滿タサルトキハ後者ノ出務日數ニ助勤者ノ出務日數ヲ加算シ其和ヲ以テ前者ノ出務日數ニ對スル平均數ヲ割出スモノトス

一監所詰一方ノ者缺勤償金配與日數期間缺勤スルトキハ十五度ヲ以テ平均數ト假定ス但二月ハ十四度ヲ以ラ平均數ト假定ス

一監所詰ノ出務日數缺勤償金配與日數期間各十日ニ滿タサルトキ或ハ一方九日以下ノ出務日數アリテ他方出務日數ナキトキ若クハ何レモ出務日數ナキトキハ缺勤償金全額ヲ助勤度數ニ應シ助勤者ニ配與ス

一各分掌ニ於テ三分ノ一ヲ配與スヘキモノナキトキハ三分ノ二配與ノ部ヘ加入ス

一各分掌ノ勤務度數ヲ計算スルニハ本部詰ノ晝夜監所詰ノ晝夜海務係ノ晝夜及早出晝勤務陸務係ノ晝夜及早出晝勤務ヲ各一度トシ本部詰ノ夜出海務係ノ晝勤務夜勤務宵宿曉宿陸務係ノ晝勤務夜勤務ヲ各半度ト定ム

明治三十一年四年一日

三十五、處務細則　稅關長官房の設置は二十九年六月稅關分課規定改正の時に在り當時稅關長より

大阪稅關各課及出張所

今般官房職第一六二號ヲ以テ稅關分課規程中改正ノ義大藏大臣ヨリ御達相成候ニ付テハ庶務課中文書統計兩課ノ義ハ今ヨリ稅關長官房文書係及統計係ト改稱ス此段相達ス

明治二十九年六月十一日

大阪稅關長　　顯川君平

と回達し更に官房處務細則を規定して之を配布せり即ち

稅關長官房

第一條　稅關長官房ニ文書係統計係ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　文書係ハ左ノ事項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條　官吏ノ職務及身分ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ

第四條　申牒往復命令ノ諸文案ヲ起草スヘシ

第五條　各課成案ノ回議ヲ調査シ意見アルモノハ其主務課ニ協議シ之レカ取扱ヲ爲スヘシ

第六條　訴願及訴訟ニ關スル事項ヲ調理スヘシ

第七條　稅關法稅關規則違犯者ニ對スル申渡ノ手續及犯則事件告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　官報ヲ閱覽シ及官報掲載ニ關スル事項ヲ取扱フヘシ

第九條　各課擔任外ノ諸務ヲ調理スヘシ

第十條　關印及關長ノ官印ヲ管守スヘシ

第二章　分課事務

第十一條　諸法令ヲ調査シ年報書ヲ編纂スヘシ
第十二條　各課ヨリ資料ヲ蒐集調理シ本港外國貿易年報ヲ編纂スヘシ
第十三條　現員取調表並職員原籍表ヲ調製スヘシ
第十四條　吏員ノ勤惰ヲ調査シ職員勤務表ヲ調製スヘシ
第十五條　吏員ノ分課錄印鑑簿履歷簿住居簿ヲ整理スヘシ
第十六條　外國人ノ諸文書ヲ接受反譯シ其答案ヲ起草シ及之ヲ發遣スヘシ
第十七條　外國人ノ應接ニ通辨シ及外國人引會始末ヲ登載スヘシ
第十八條　船難報告船難證書ノ證明手續ヲ取扱フヘシ
第十九條　外國ノ往復書類ヲ編纂整理スヘシ
第二十條　內外新聞紙ヘ公告ノ事項ヲ取扱フヘシ
第二十一條　諸文書ヲ接受發遣シ及之ヲ件名簿ニ登載スヘシ
第二十二條　諸文書ヲ淨寫シ及文書回達諸表送達ノ取扱ヲ爲スヘシ
第二十三條　接受ノ文書中回答ヲ要スルモノニシテ主任者ヨリ回答案ノ具申回付等延引遲滯スルトキハ之レカ督促ヲ爲スヘシ
第二十四條　郵便料及電報料ノ受拂ヲ爲スヘシ
第二十五條　吏員出勤簿ヲ整理スヘシ
第二十六條　當宿直員ノ配付指定ヲ整理スヘシ
第二十七條　諸法令及諸文書ヲ編纂整理保管スヘシ
第二十八條　監視部長ヨリ具申セル監吏補賞罰ノ擬定ヲ審査シ及其辭令案ヲ起草スヘシ
第二十九條　文書保存規則ノ規定ニ從ヒ文書ノ保存期限ヲ擬定シ關長ニ具申シテ之ヲ處理スヘシ

第三十條　公文簿冊ノ貸借ハ渾テ文書借覽規則ニ據リ之ヲ取扱フヘシ
第三十一條　吏員ノ出張俸給ノ增減及賞罰金等ノ事項ニ關シ其都度收入支出方通知ノ手續ヲ担理スヘシ
第三十二條　統計係ハ左ノ條項ニ依リ其事務ヲ取扱フヘシ
第三十三條　輸出入物品ノ數量元價稅額及輸出入貨幣出入貨幣ノ統計ヲ爲スヘシ
第三十四條　輸出入品簿輸出入貨幣並地金簿出入船舶簿其他事務上必要ナル帳簿ヲ整理シ諸表編製ノ資料ニ備フヘシ
第三十五條　每半月官房第三課ヘ送付スル輸出入品價額表輸出入貨幣並地金表ヲ調製スヘシ
第三十六條　每月官房第三課ヘ送付スル輸出品表輸出入品表輸出入元價國別要計表輸出入貨幣並地金表出入船舶表輸出入無檢查無稅品表及輸入藥種表輸出燐寸表等ヲ調製スヘシ
第三十七條　每半年官房第三課ヘ送付スヘキ外國往來船貨價額表ヲ調製スヘシ
第三十八條　每年主稅局ヘ送付スヘキ外國貿易年報ニ要スル前年比較表ヲ調製シ期限順次ヲ以テ速カニ鑑定課ニ送付スヘシ
第三十九條　輸出入申告書ノ諸項ヲ審查シ疑義アルモノハ之ヲ主務ノ課係ヘ通牒シ又ハ過誤アルヲ發見セハ尙之ヲ關長ヘ具申スヘシ
第四十條　輸入品元價及輸出入貨幣價額ハ總テ制規ニ依リ日本銀貨ニ換算スヘシ
第四十一條　貨物輸出入申告書並船舶出入港屆書ヲ保管スヘシ
第四十二條　製表材料ヲ蒐集保存シ及統計ニ關スル諸件ヲ調查スヘシ
第四十三條　每半年主稅局ヘ送付スヘキ輸出入品噸量內外船舶表ヲ調製スヘシ
第四十四條　每月出張所ヨリ送付スヘキ輸出物品表輸出國別要計表出入船舶表等ヲ審查保管スヘシ

第二章　分課事務

第四十五條　毎半年出張所ヨリ送付スヘキ外國往來船貨價額表及輸出品噸量內外船舶表ヲ審査スヘシ

第四十六條　毎半月出張所ヨリ送付スヘキ輸出品價額及收稅要計ヲ審査スヘシ

第四十七條　前項ニ揭ケサル統計ニ關スル諸件ヲ臨時審査處理スヘシ

第四十八條　輸出入重要品ノ前年比較表ヲ調製シテ毎月之ヲ關長ニ提出スヘシ

第四十九條　輸出入品價額及輸出入貨幣ノ前年ニ比較セル要計表ヲ調製スヘシ

後三十一年四月更めて各課分掌規程を編み官房に屬する分掌を定めたり

第一條　稅關長官房ニ文書係統計係ヲ置ク

第二條　文書係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一　諸文書ノ接受及發送

二　稅關及稅關長ノ名ヲ以テスル諸文書ノ起草淨書

三　外國文書ノ反譯ニ關スル事項

四　法令及諸達ノ揭示通報

五　船舶報告ニ關スル事項

六　公文記錄ノ整理編纂保管

七　稅關年報及貿易年報ノ調製

八　外國貿易ニ關スル法令違犯者ノ處分ニ關スル事項

九　吏員ノ進退身分ニ關スル事項

十　吏員ノ勤惰ニ關スル事項

十一　當宿直ノ配布

十二　式禮ニ關スル事項

十三　官報及新聞紙ノ查閱

第三條　統計係ハ左ノ事項ヲ取扱フモノトス

一　輸出入貨物入出港船舶其他貿易ニ關スル一切ノ統計及報告

二　甲號課稅原簿ノ整理

三　貿易年表月表其他貿易統計ニ關スル書冊ノ保管

四　支署ヨリ送付スル貿易統計ニ關スル書類ノ調查及保管

五　輸出入申告書謄寫願ノ處理

非常出務に關する內規　二十九年六月非常出務內規を配布し火災、洪水等非常の時に際し吏員の進退は一に之れに從はしむ

大阪稅關非常出務內規

第一　警鐘打擊ノトキハ其方法ニ注意シ直ニ出關スヘシ

第二　當宿員在關吏ハ近火ノトキ收稅及經費ニ關スヘシ

第三　監視員ハ非常ノトキニ於テ保稅貨物ノ散亂ヲ防キ關內ノ取締ニ從事スヘシ

第四　各課員ハ出關ノ上各自擔當ノ書類ヲ始メ器具ニ至ル迄水夫小使等ヲ指揮シ取片付ヲナスヘシ

第五　庫ノ牖口ニ注意シ火防ニ盡力スヘシ

第六　本關備付ノ水道引管ハ監吏之ヲ保管シ非常ノ際其使用ヲ指揮スヘシ

第二章　分課事務

第七　洪水ノ時上屋部内ノ貨物ニ害ヲ及ホスノ見込アルトキハ人夫ヲ指揮シ臨機ノ處分ヲ爲スヘキ事

第八　前條ノ場合ニ於テ各自ノ擔當ハ火災ノ例ニ依リ書類器具ノ取片付ニ盡力スヘシ

二十九年六月三日

（備考、税關長官房は二十九年六月九日大省の達示に依り同月十一日始めて大阪税關に新設す然るに右非常出務内規は同年六月三日を以て配布せるか故に之れを庶務課事務の中に編むは至當なりと雖も今便宜上是に收めたり）

後三十一年二月六日更に火災準備内則と題し左の内則を回示せり

火災準備内則

税關ハ輸出入貨物ノ徵税ヲ爲スヲ以テ之カ取締ト保管トヲ完全ナラシムルハ最緊要ナリトス故ニ火災其他非常ノ際税關官吏ハ本内則ニ從テ防禦準備ヲナスヘキモノトス

第一條　税關又ハ其近傍ニ於テ失火シタルトキハ各官吏ハ直ニ馳付ヘシ

第二條　火災準備ヲ分テ内外二部トス

第三條　内部準備ハ各課長若シクハ出頭中ノ首席員ニ於テ其分掌ノ文書諸帳簿器具運搬ノ事ヲ指揮スルモノトス

但閉關中ニ在テ各課員着關セサル間ハ監視部分擔シテ便宜内部準備ニ從事スヘシ外部準備ハ監視部長監吏補ニ於テ水夫定傭夫馳付人夫等ヲ指揮シ消防手配貨物ノ保護運搬其他一切ノ取締出入人ノ調査税關ノ標燈掲示倉庫ノ目塗及税關官舍ヘ急報ヲナスモノトス

第四條　各課員ハ上官ノ指揮アルニ非ラサレハ執務場ヲ離ルヽコトヲ得ス

第五條　在直守警ハ第三條ニ隨ヒ水夫定傭夫小使馳付人夫等ヲ指揮シ倉庫ノ目塗關長部長各課長及警察官ヘ急報シ税關ノ警燈及標燈ノ點火等ヲナスヘシ

但シ守警ハ當分ノ内當直監吏ヲ以テ之ニ充ツ

第六條　監視部長若クハ首席監吏ハ指揮總長トナリ在關監吏補ヲ三部ニ分チ監吏若クハ監吏補一名各部ニ指揮長トナリ又水夫定傭夫小使馳付人夫ヲ二部ニ分チ之ヲ前記ノ一部二部ニ屬セシム第一部ハ消防ニ第二部ハ貨物ノ保護運搬ニ第三部ハ各門及關内海岸ノ守備並海上ノ取締ニ從事スヘシ

但事宜ニ依リ指揮長各部ノ人員ヲ彼是轉用スルコトヲ得ヘシ又守警ヨリ人夫ノ要求アルトキハ便宜幾分ヲ分遣スヘシ海上及倉庫ノ取締ヲ要スル場合ニ於テハ第三部員ノ内ヲ派遣スヘシ

第七條　第三條ノ首席員及第六條中ノ指揮總長トナリ在關監吏補一ヲ以テ其當該者到着スルトキハ之ニ引繼クモノトス

第八條　第六條ノ場合ニ於テ現監視者ハ監視位置ヲ離去スルコトヲ得ス

第九條　本關及監視部正門監視者ハ直ニ見舞人ノ受付ヲナスヘシ

第十條　右門監視者ハ第三部指揮長ノ指揮ニ屬シ無用ノ者及混雜若クハ混雜ノ虞アルニ際シ車馬等ノ入ルコトヲ禁シ關内ノ雜沓ヲ防クコトニ注意シ左項ノモノヽ外一切出入セシム可カラス

(一)當衙ニ奉仕ノ者及馳付人夫

(二)救護ノ爲メニ來ル内外軍艦員及警察官居留地警察員消防手

(三)關内ノ陸揚會社ニ傭仕ノ者

(四)關内ニ貨物ヲ有シ救護ノ爲メ來ル者

第十一條　海岸監視者ハ第九條ニ掲クルモノヽ、外構内各海岸ヨリ上陸セントスルモノアルトキハ之ヲ拒絶スヘシ

第二章　分課事務

第十二條　當務監吏ハ各波止場共必要ノ人員ヲ殘シ取締ヲ爲サシメ他ハ火災準備ノ場所ヘ送致スヘシ

第十三條　各課員ハ一定ノ標章ヲ帶ヒ各自擔當ノ場所ヘ駐付非直監吏補ハ制服ヲ着シ火災準備ノ場所ニ集合シ指揮ニ從事スヘシ

第十四條　指揮總長ハ晝間ハ監視船旗夜間ハ高張提灯ヲ目標トシ第一部指揮長ハ晝間ハ紅白染分旗夜間ハ綠燈第二部指揮長ハ晝間ハ紅旗夜間ハ紅燈第三部指揮長ハ晝間ハ白旗夜間ハ白燈ヲ以テ目標トス

第十五條　內部準備ヲ了シタルモノハ外部準備第二部ヲ補助スヘシ

第十六條　水夫定傭夫小使及駈付人夫等使役ヲ命セサルモノハ皆指揮總長指定ノ場所ニ集合指揮ヲ待タシムヘシ

第十七條　關員ハ散亂放語スルコトヲ許サス必ス靜肅ヲ保チ一体ノ動作ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條　稅關近傍ニ火災アリタルトキ若クハ近傍ナラサルモ風向ニ依テハ前各課ノ準備ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ火元實見ヲ命セシ者ノ外災所其他ニ到ルヲ許サス

第十九條　物品ノ保護運搬ヲ命シタルトキハ火災場最近ノ場所ヨリ着手スヘシ

第二十條　倉庫ノ目塗ヲ行フニハ可成堅要ニ塗ラシムヘシ

第二十一條　器具又ハ水等ヲ運搬スルトキハ其距離ニ應シ便宜人夫ヲ配付シ成ヘク手渡ニ爲サシムヘシ

第二十二條　總テ物品ヲ運搬スル場合ハ火災場ニ最離レタル空地ト定ムヘシ

官有物品ハ稅關倉庫又ハ火災場ニ遠サカリタル所ニ運送スヘシ

保稅倉庫ニ一般ノ輸出入貨物ヲ入ルヽハ倉庫課員及第二部指揮長ノ監督ニ從ヒ該倉庫ニ殊ニ餘裕アリテ且第二十四條若クハ借庫規則第十八條ニ揭クル外ニシテ他ノ貨物ニ危險ヲ及ホサヽルモノト思料スルモノニ限リ一棟貸ノ倉庫ハ渾テ其借主ノ外使用スルヲ得ス

貨物ヲ艀船ニ積ミ救護セントスルモノアルトキハ之レヲ許可スヘキニ依リ時狀ニ從ヒ監視船艇ノ準備ヲナシ水上必要ノ場所ニ監視者ヲ配置スヘシ

必要ニ從ヒ貨物ヲ稅關構外ヘ運出セントスルモノアルトキハ第三部指揮長ハ適宜監視者ヲ派遣スヘシ

第二十三條　斧又ハ其他ノ刃物類ヲ携帶スルモノハ動作ノ際ハ誤テ人ヲ傷害セサル樣注意スヘシ

第二十四條　稅關倉庫ニ納ムヘキ文書物品ハ非常持退ノ記號アルモノヲ先キトシ然ル後尙ホ他ノ物品ニ及フヘシ

第二十五條　地方消防員ノ到着スルトキハ外部準備員ハ時機ニ從ヒ相當ノ應援ヲ爲シ專ラ稅關守衛貨物ノ監守ニ從事スヘシ

第二十六條　稅關又ハ稅關近傍ノ火災ニ於テハ警燈トシテ稅關內尤モ認メ易キ所ニ點火スヘシ

危險ニ迫ルトキハ指揮總長ノ指揮ニ依リ電線ヲ斷ツヘシ

第二十七條　災所ニ於テ消防ニ從事スルモノハ其發火物ノ性質ニ注意シ消火ノ應用ヲ認誤ルヘカラス譬ヘハ水ヲ以テ消滅スルコト能ハサルモノ若クハ水ノ爲メニ火勢ヲ助クル恐レアル物品（石炭石油揮發物（アルコール）其他類似ノ物質）ヨリ發火シタルトキハ第一着ニ應用ノ消火器ヲ用ヒ若クハ砂泥灰粉等ヲ用ユル等是ナリ

第二十八條　防火使用ニ供スルハ左ノ物件トシ一ヶ月二回守警之ヲ點檢シ應變ノ注意ヲナスヘシ

(一)喞筒及附屬品

(二)(三)(四)(五)(六)(七)(八)
揮發質物發火消防器
帆木綿水嚢及附屬綱具
手斧及鳶口
水道水管
砂泥灰粉及目塗土
物品運搬器
梯子提燈及其他消防必要品

第二十九條　守警ハ三ケ月ニ一回ヲ標準トシ閉關中仕役ナキ日消防水射練習ヲ爲シ防火器其ノ運用ヲ檢スヘシ此場合ニ於テハ實地適用及習熟ノ爲メ監吏及各主任立會フヘシ

第三十條　守警ハ關內ニ於ケル各水道管口ニ目標幷ニ番號ヲ附シ應變ノ用意ヲナスヘシ

第三十一條　暴風雨震災其他ノ變災ニ際シテハ本部在直監吏及監吏補ハ本內則ニ準シ相當ノ防禦ニ從事スヘシ他ノ關員モ亦同シ

第三十二條　碇泊船中ニ火災アルトキハ直ニ軍艦又ハ警察官ニ急報シ成ヘク救助ヲ爲シ若シ海中ヘ投棄セシ貨物アラハ其取締方ニ注意スヘシ

尋て七月二十二日曩きに配布せる火災準備內則を改竄して更に非常準備內規と題し各課員に回覽服膺せしむ

非常準備內規

火災其他ノ變異ニ際シ文書ノ紛亂ヲ防キ廳舍ノ安全ヲ謀リ貨物ノ保管ヲ完カラシメンニハ事ニ衝リ須ラク一體ノ動作ヲナスヲ要ス仍テ茲ニ防壓ノ法ヲ內規シ關員ヲシテ準據スルトコロアラシム

第一條　稅關又ハ其近隣ニ出火アルトキ及近火ナラサルモ風向ニ依リ關員ハ直ニ出廳ス可シ

第二條　火災準備ヲ分チ內外二部トス

第三條　內部準備ハ課部長若クハ首席員ニ於テ其分掌ノ文書帳簿器具等ノ運搬ヲ指揮スヘシ
但閉關中關員未着中ハ監視部員ハ本關當宿直員ト協力シテ內部準備ニ從事ス可シ外部準備ハ監視部長若クハ監吏ニ於テ水夫定傭夫駈付人夫等ヲ指揮シ消防ノ手配、貨物ノ保護運搬其他一切ノ取締、出入人ノ調査、稅關ノ標燈警燈ノ揭出點火、倉庫ノ目塗、稅關官舍及警察官ヘノ急報ヲ爲スモノトス

第四條　監視部長若クハ監吏ハ指揮總長トナリ監視部員ヲ二部ニ分チ監吏若クハ監吏補壹名各部ニ指揮長トナリ又水夫定傭夫小使駈付人ヲ二部ニ分チ之レニ分屬セシム
第一部ハ消防ニ第二部ハ貨物ノ保護運搬、關前波止場及之ニ接近セル河川上等各要所ノ守備取締ニ從事ス可シ
但事宜ニ依リ指揮總長ハ各部ノ人員ヲ彼此轉用スルコトヲ得可シ

第五條　各門監視者ハ左記ノ外一切出入ヲ禁シ以テ關內雜沓ノ防避ヲ務ム可シ
一當衙ニ奉仕ノ者及駈付人夫
二警察官幷ニ消防手
三關內貨物ニ利害ノ關係アルモノ及其被傭者

第六條　本關員ハ一定ノ標章ヲ帶ヒ各自擔當ノ場所ヘ監吏監吏補ハ制服ヲ着ケ火災準備ノ場所ヘ集合ス可シ

第七條　指揮總長ハ晝間ハ監視船旗夜間ハ高張提燈ヲ第一部指揮長ハ晝間ハ紅旗夜間ハ紅燈ヲ第二部指揮長ハ晝間ハ綠旗夜間ハ綠燈ヲ以テ目標トス

第八條　內外各部及一二兩部ノ準備ヲ了シタルモノハ互ニ相補助ス可シ

第九條　稅關倉庫ニ納ム可キ文書物品ハ非常持退ノ記號アルモノヲ先トシテ次ニ他ニ及フモノトス

第十條　保稅倉庫ニ一般ノ輸出入貨物ヲ納ルヽハ課部長若クハ倉庫課員ノ指揮監督ニ從ヒ該倉庫ニ餘裕アリテ且第九條若クハ倉庫規則第十八條ニ揭クル外ニシテ他ノ貨物ニ危險ヲ及ホサヽルモノト思料スルモノニ限リ又壹棟貨ノ倉庫ハ渾テ其借主ノ外使用スルヲ得ス貨物ヲ艀艇ヘ積ミ救護セントスルモノアルトキハ之ヲ許可スヘキニ依リ時狀ニ從ヒ監視船艇ノ準備ヲ爲シ水上必要ノ場所ニ監視者ヲ配置ス可シ

必要ニ從ヒ貨物ヲ稅關構外ヘ運ヒ出サントスルモノアルトキハ第二部指揮長ハ適宜監視者ヲ派遣ス可シ

第十一條　火災場ニ於テ消防ニ從事スルモノハ發火物ノ性質ニ注意シ消火ノ應用ヲ誤認ス可カラス

第十二條　關員ハ散亂放語スルコトヲ許サス必ス靜肅ヲ保チ上官ノ指揮ニ從フ可シ

第十三條　斧、鳶口其他刃物ヲ携帶スルトキハ其使用ニ注意シ他ヲ傷害セサルコトヲ愼ム可シ

第十四條　左記防火用物件ハ一ケ月二回指揮總長若クハ指揮長之ヲ點檢ス可シ

一　喞筒及附屬品
二　揮發質物發火消防器
三　帆木綿水嚢及附屬綱具
四　手斧及鳶口
五　水道引管
六　砂、泥灰粉及日塗土
七　物品運搬器
八　梯子、提燈及其他消防必要器

第十五條　指揮總長若クハ指揮長ハ毎三ケ月壹回ツヽ、消防水射練習ヲ爲シ防火器具ノ運用ヲ檢ス可シ

第十六條　碇泊船中ニ火災アルトキハ直ニ警察官ニ急報シ可成救助ヲナシ若シ水中ニ抛擲セシ貨物アラハ其取締方ニ注意ス可シ

第十七條　風雨震災洪水其他ノ變異ニ際シテハ在直監視部員ハ本關當宿直員ト協議シ本內規ニ準シ相當ノ防禦ニ從事ス可シ

文書ノ接受

三十六、文書の發受　從來文書の發送若しくは接受は常に各課の分擔に屬し往々其統一を欠き整理保存の上に於て紛雜を來すの虞勘なからさるを以て遂に二十九年十二月二十五日是れか發送若しくは接受に關する規程を設け翌三十年一月一日より實施せしむ規定左の如し

一　接受件名簿ハ文書係之ヲ保管ス
一　接受セサル文書ハ文書係之ヲ件名簿ニ記入シ整理回付保管ヲ爲スヘシ
一　接受セル文書ニシテ本關及文書係ニ宛テタルモノハ文書係之ヲ保管ス
　但出納及用度ニ關スルモノハ原紙ヲ庶務課ニ送リ寫ヲ文書係ニ備フ

文書ノ發遣

一　課部係ニ宛テタル文書ハ當該者之ヲ保管ス
一　發遣件名簿ハ文書係之ヲ保管ス
一　發遣スル文書ハ番號ヲ件名簿ニ記入スヘシ

一天、地、文及回ノ番號ヲ附スヘキ書類ハ起案淨書發遣共ニ文書係之ニ任シ併セテ之ヲ保管ス
一課部又ハ係ノ番號ヲ附スヘキ書類ノ起案及保管ハ當該者之ニ任ス
一發遣書類ニ使用スル記號ハ左ノ如シ

第一、關名又ハ關長名義ヲ以テスルモノ
　天　大藏省ヘ宛テタルモノ
　地　大藏省以外ヘ宛テタルモノ
第二、課部係名ヲ以テスルモノ
　文　文書係
　統　統計係
　檢　檢查課
　鑒　鑒定課
　徵　徵收課
　倉　倉庫課
　庶　庶務課
　監　監視部
　貨　貨物係
　回　回達

文書係保管綴込書類

本省指令達
他官廳照會往復
本省照會往復
文書係照會往復
回達簿
職員出勤簿
職員簿
原籍簿
職員住居簿
諸伺
辭令幷受書
監吏補賞罰人員表
給仕以下雇人出勤簿
分課簿
印鑑簿
現行諸內規
開關出勤簿
職員願屆書類

以上

三十七、官吏心得概則の配布　三十年二月六日關長より稅關官吏心得概則を配布して曰
凡ソ稅關官吏ハ其職掌直接ニ內外國人ニ對シ關稅ノ徵收若シクハ密商ノ防遏等ニ從事スルモノ
職責ノ重クシテ且大ナル固ヨリ言ヲ俟タサルナリ是ヲ以テ平素服務ノ間亦一層ノ謹戒ヲ加ヘサ
ルヘカラス因テ此ニ關稅官吏心得ノ概要ヲ擧示シ以テ服膺スル所アラシム
第一　關稅官吏ハ自ラ持スル敬重ニシテ常ニ共擧止言動ニ注意シ內外人民ニ對シ威信ヲ失セ
ス勉メテ謹厚ヲ旨トスヘシ
第二　關稅事務ハ最モ周到綿密ヲ要スト雖モ從ラニ事ヲ繁縟ニシ人民ニ煩冗ヲ感セシム可カ
ラス又固ヨリ懇切ヲ要スト雖モ職務ノ分限ヲ踰越シ毫モ關係スル等ノコトアルヘカラス
第三　事務ヲ處辨スルハ嚴正ニシテ敏活ナルヲ貴フト雖モ苛酷ニ流レ若クハ疏漫ノ弊ニ陷ル
ヘカラス事ニ臨ンテ熟慮精察果斷ニシテ寬和ヲ失フヘカラス
第四　密商遁稅ノ犯則ハ固ヨリ其取締ノ整否ニ關シ消長スルモノナレハ事ノ巨細トナク注意
周密ニシテ須ラク之ヲ未萌ニ防止シ寧ロ犯則ノ累ナキヲ期スヘシ

第五　犯則ヲ發見シ若クハ犯則ト思料スルトキハ事實ノ如何ヲ精査シ之レニ處スル公正嚴格ヲ旨トシ詭辨ニ惑シ意誼ニ偏シ證左ノ煙沒スル等ノコトアルヘカラス

第六　關稅官吏ハ人民ノ貨財ニ對シ其職務ヲ行フモノナレハ特ニ素行ヲ修メ最モ淸廉ナラサルヘカラス故ニ其私事ニ於テモ貨主ニ對シ人ノ耳目ヲ引ク等ノ擧動ヲ愼ム可シ

第七　關稅官吏ハ商家ノ機密ヲ見聞スルモ決シテ之ヲ他人ニ漏洩スヘカラス

第八　關稅官吏ハ人民ニ接スルニ相當ノ禮節ヲ失フヘカラス萬一人民ニ於テ無禮失言其他粗暴ノ擧動アルモ其職務ヲ妨害セサル以上ハ宜シク忍耐持重シテ公正之ニ當ルヘシ然レトモ其職務ヲ妨ケ威信ニ關スルニ至ラハ苟モ假借スヘカラス

第九　關稅官吏ハ執務ノ際ニ服裝姿勢ニ注意スルハ勿論同僚互ニ雜談論爭スル等威容ヲ失ヒ體面ヲ損スルノ擧動アルヘカラス

第十　執務中猥リニ私事ヲ以テ人ニ接シ或ハ使夫ヲ私役シ又ハ私信ヲ書シ私書ヲ讀ム等ノコトアルヘカラス

第十一條　執務中ハ各自其職掌ノ地位ニ從ヒ相犯シ相濫ルコトナク互ニ禮讓ヲ重スヘシ若シ同僚ノ過失誤謬アリト思惟セハ徐ニ忠告匡正シ互ニ補翼相提携シテ官務ノ擧クルヲ期スヘシ

第十二條　關稅官吏ハ上官ノ指揮ニ遵ヒ公正忠實其務ニ服スヘシ若シ事體變例ニ屬シ或ハ重大ナルモノハ狀ヲ上官ニ具シテ其指命ヲ受クヘシ

三十八、文書類の取扱、編輯及保存規程　三十一年五月十日を以て文書取扱及ひ保存規程を各部課に記錄編輯規程を文書係に配布實施せしめ從來の文書係保存規程を廢止せしむ

大阪稅關文書取扱規程

第一　文書ノ受理

第一條　總テ到達スル公文ハ官房文書係ニ於テ之ヲ受理スルモノトス但シ關稅ニ關スル一定ノ申告書類ハ當該課ニ於テ受理ス

第二條　文書ヲ接受スルトキハ之ヲ受付簿ニ記入シ其本關若クハ關長宛ノモノハ受付月日ヲ本書ヘ記入シ課長及關長ノ閱覽ヲ經テ關係課ヘ通知シ其課宛ノモノハ直ニ交付スヘシ

第三條　本關又ハ關長宛ノ文書ハ文書係之ヲ保管シ課宛ノモノハ當該課之ヲ整理保管ス

第四條　受付簿ハ文書係之ヲ保管ス

第二　文書ノ發遣

第五條　發遣スル文書ハ番號ヲ附シ之ヲ件名簿ニ記入シ其關名若クハ關長名ヲ以テスルモノハ文書係ニ於テ其課名ヲ以テスルモノハ當該課ニ於テ起案淨書保管スルモノトス

第六條　發遣書類ニハ左ノ記號ヲ附記スヘシ

第一、關名若クハ關長名ヲ以テスルモノ

天　大藏省ヘ宛テタルモノ

地　大藏省以外ヘ宛テタルモノ

第二、課名ヲ以テスルモノハ其頭字

第七條　發遣手續ヲ了シタルトキハ之ヲ庶務課ニ交付シ郵稅若クハ電信料ノ支拂ヲ受クヘシ

第八條　發遣スヘキ文書若クハ圖面ハ必ス扣書ヲ存スヘシ

第九條　本省所管各廳及本關支署間ノ電報ハ總テ所定ノ符號ヲ用ユヘシ

第十條　件名簿ハ文書係之ヲ保管ス

第三　雜

第十一條　令達其他重要ノ文書ハ回號ヲ付シ各課ノ回覽ニ供スヘシ

第二章　分課事務

第十二條　凡ソ文書ハ起案若クハ關覽者ニ於テ必ス一定ノ位置ヘ捺印ス可シ

第十三條　諸文書ノ紫摺其他字跡消滅ノ虞アルモノハ之ヲ改寫スヘシ

第十四條　往復文書ハ處理結了ノ後一定ノ帳簿ニ綴込ミ一年毎ニ之ヲ編輯スヘシ

大阪稅關文書保存規程

第一條　稅關事務ニ關スル諸申告書及日常往復公文類ハ本規程ニ據リ一定ノ期限間各主任ノ課ニ於テ保存スルモノトス

第二條　例規徵證トナルヘキ文書若クハ他日ノ參考ニ資スヘキ簿冊ハ總テ永世保存トス概目左ノ如シ

一、輸出入、回漕、船移、入出庫ノ貨物及出入港船舶其他稅關雜收入ニ屬スル申告書類

二、貨物船舶ニ對シ附與シタル證書若クハ證明ニ關スル書類

三、歲入歲出及物品會計ニ關スル證憑書類

四、會計決算認可書類

五、大臣令達申牒伺指令其他例規徵證若クハ參考トナスヘキ一切ノ往復文書圖案ノ類

六、關長ノ達示命令ニ關スル書類

七、事務成績ニ關スル書類

八、文書保存ニ關スル書類

九、契約若クハ命令書ノ類

十、職員任免賞罰ノ辭令案並ニ受書其他監吏監吏補試驗成績表ノ類

十一、職員履歷書若クハ身元引受證書ノ類

十二、職員進退伺若クハ具狀書復命書ノ類

十三、傭人進退ニ關スル書類

十四、指令ヲ與ヘタル人民會社諸願伺書類

十五、輸出入、回漕、船移、若クハ上屋、倉庫出入ノ貨物出入港船舶ニ關スル登記諸帳簿謄寫簿若クハ船舶尋問簿ノ類

十六、貨物船舶其他貿易ノ統計ニ屬スル諸原簿若クハ諸表ノ類

十七、歲入歲出並ニ官有財產物品會計ニ關スル諸原簿仕譯簿補助簿若クハ計算書ノ類

十八、公文ノ接受發遣ニ關スル諸帳簿

十九、貿易年月表其他貿易統計ニ屬スル諸冊子類

二十、諸法令其他永世參考ニ資スヘキ報告諸冊子類

第三條　前條ノ外一時ノ措辨ニ止マリ若クハ永世保存ノ必要ナキモノハ通常二十年以下二年以上ニ於テ適宜期限ヲ定メ保存スルモノトス概目左ノ如シ

一、積荷目錄　（二十年）

二、領事船籍預リ證書　（五年）

三、輸出入回漕船移及上屋倉庫出入ノ貨物內外航船遊船艀沖商業等ニ係リ人民會社ヨリ出セル諸願屆書類　（五年）

四、直許ニ係ル輸出入品申告書其他貨物船舶ニ屬スル取扱濟ノ免狀類及預リ書ノ類若クハ吏員手帳ノ類　（五年）

五、各課並ニ宿直員日誌ノ類　（五年）

六、一時限リ措辨ノ往復書簡類　（五年）

七、各部課間報告若クハ通知ニ屬スル書類　（二年）

第二章　分課事務

八、送達簿ノ類（二年）
九、吏員幷ニ傭人出勤簿ノ類（二年）
十、監吏補身元引受證書　但退職者ニ係ル分（二年）
十一、監吏補試驗應答ニ關スル書類（二年）
十二、吏員傭人ヨリ出セル雜願屆書類（二年）

第四條　永世保存ヲ除クノ外總テ保存期限ニ達スルトキハ各部課長ヨリ關長ヘ伺ノ上決斷ヲ經テ廢棄ノ處分ヲナスヘシ

第五條　各部課保存ニ係ル書類帳簿ハ毎年四月前年分ノ目錄ヲ調製スヘシ

但保存期限滿了後廢棄ニ付セシトキハ其都度之ヲ目錄ニ記入スルモノトス

第六條　廢棄ニ付スル書類ハ當該部課ニ於テ其都度書面ニ押捺セル官廳其他ノ印影ヲ抹殺スヘシ

第七條　廢棄ニ附セシ書類ハ總テ之ヲ庶務課ヘ引繼クヘシ

第八條　保存書類ハ當該部課ニ於テ常ニ類別整理シ且表紙ニ保存期限ヲ付記スヘシ

第九條　第二條第三條所定ノ外新タニ事目ヲ加ヘタルトキ若クハ疑岐ニ渉ルモノアルトキハ其都度伺出ツヘシ

大阪稅關記錄編輯規程

第一條　記錄ハ本關必要ノ文書ヲ保管スルタメ官房文書係ニ於テ之ヲ編輯スルモノトス

第二條　記錄ヲ分テ左ノ二種トス

一、秘密文書
二、通常文書

第三條　記錄ハ一年毎ニ之ヲ編輯スヘシ

第四條　記錄中ノ文書ニシテ彼此參照ヲ要スルモノハ符號ヲ設ケテ成ルヘク搜索ノ便ニ供スヘシ

但シ歐文ハ譯文ヲ添フヘシ

第五條　往復公文ニ付帶セル別冊樣式又ハ圖面ノ類ニシテ記錄中ニ合綴シ難キモノアルトキハ別ニ公文付屬書留ヲ設ケテ之ヲ綴込ミ事件ノ摘要ヲ傍記シ且ッ記錄中ノ公文ト共ニ卷數丁數ヲ符合スヘシ

第六條　既ニ編輯セシ文書ニシテ他日改正加除ノ通知ニ接スルトキハ原書ヘ之ヲ追記スヘシ

第七條　記錄編輯ノ分類事目ハ左ニ據ルヘシ

本省指令達　本省往復　諸官衙往復　親展往復
課長往復　現行內規　諸伺　辭令
履歷書　年報　貿易年報　文書往復

第八條　隨時分類事目ノ增補ヲ要スルトキハ力メテ先例ヲ推シテ順序ヲ立ッヘシ

第九條　記錄ハ每年明細ノ目錄ヲ調製スヘシ

職員勤惰表調製心得

一、職員勤惰表ハ半年毎ニ調製スヘシ
二、初任若クハ他廳ヨリ轉任ノ爲メ新ニ就職シタルモノハ總テ辭令面ノ日ヨリ計算スヘシ
三、他廳ヘ轉任ヲ命セラレタルモノハ總テ辭令面日付ノ前日迄ヲ計算スヘシ

但退官又ハ死亡者ニ在テハ辭令面若クハ死亡ノ當日ヲ算入ス

四、轉任者發令ノ日ヨリ赴任就職迄ノ日數ハ總テ休日ニ算入スヘシ
五、皆勤者ハ出勤日數日ヲ朱書スヘシ

但祭日及忌引ハ皆勤日數ニ算入ス

六、新任若クハ轉任退官等ノタメ當期中異動ニ係ルモノハ任免ノ欄ヘ其任免月日ヲ記入スヘシ

七、當期中他廳ヘ轉任若クハ退官死亡ノモノハ現在員ノ位置ヨリ適宜數行ヲ隔テヽ取纏メ列載スヘシ

八、勤惰表用紙ハ庶務課ヘ請求スヘシ

三十九、官吏出勤心得幷宿直規則　三十一年六月八日官吏出勤心得幷宿直規則を配布せり

大阪稅關官吏出勤心得幷宿直規則

第一章　出勤心得

第一條　本關官吏ハ平日午前十時迄ニ登廳午後四時退廳スヘシ

但即日完結ヲ要スル殘務アルトキハ此限リニ非ラス

第二條　登廳ノ上ハ直ニ關長室ニ就キ出勤簿ニ捺印スヘシ

第三條　本關官吏ハ洋服ノ外着用スヘカラス

第四條　父母ノ祭日又ハ病氣ニ因リ引入ルトキハ祭日ハ前日中ニ病氣ハ當日午前十時迄ニ其屆書ヲ出スヘシ

但病氣屆ハ其都度必ス引入日數ヲ豫定記入シ且引續缺勤十日毎ニ屆書ト共ニ醫師ノ診斷書ヲ出スヘシ

第五條　忌服ニ當ルトキハ即日忌引屆ヲ出シテ引入リ指揮ヲ待ツヘシ

但七歳未滿ノ小兒ニ對シテハ一日ノ遠慮屆ヲ出スヘシ

第六條　父母ノ　看病　歸省　墓參其他轉地療養等ハ總テ豫定日數ヲ記入シテ願出テ指令ヲ受クヘシ

第七條　出勤中發病等ノ爲メ退廳セントスルモノハ其屆書ヲ出シテ許可ヲ受クヘシ

第八條　暑中休暇ヲ賜フトキハ事務ノ繰合等ハ專ラ各部課長ニ於テ擔理シ人名日數ヲ屆出スヘシ

第九條　出張ヲ命セラレタルモノ若クハ第六條ノ指令ヲ受ケタルモノ若クハ本關所管內ノ轉任ヲ命セラレタルモノハ出發歸着共各屆書ヲ出シ且ツ轉任者ニ在テハ任地到着屆ヲ出スヘシ

第十條　出張官吏ハ歸着後二日以內ニ復命書ヲ出スヘシ

第十一條　出張其他旅費ノ支給ヲ受ケテ赴任スルモノハ旅行日記ヲ出スヘシ

第十二條　新任若クハ他廳ヨリ轉任ノ者ハ就職後速ニ履歷書幷ニ宿所屆ヲ出スヘシ

第十三條　族籍氏名ノ變更改印其他宿所移轉等ハ其都度速ニ屆出スヘシ

第十四條　任免增俸其他賞罰ノ辭令ヲ受ケタルトキハ即日受書ヲ出スヘシ

但用紙ハ美濃紙ニ限ル

第十五條　本關出張所間ノ轉勤若クハ他廳ヘ出向等ヲ命セラレタルトキハ辭令受領後五日以內ニ出發赴任スヘシ若シ該期日內ニ出發シ難キ事故アルトキハ事由ヲ具シテ關長ノ許可ヲ受クヘシ

第十六條　新年紀元節天長節ニハ禮服着用ノ上拜賀ノ爲メ出頭スヘシ

但拜賀時刻ハ當日午前九時トス

第十七條　本關近火其他天災事變等ノ場合ハ臨時速ニ出頭スヘシ

第十八條　職員ヨリ差出ス願伺屆書類ハ總テ半紙若クハ半紙罫紙ヲ用ウヘシ

ヲ官房文書係ヘ差出スヘシ

第十九條　職員ヨリ差出ス願伺屆書其他具狀書ノ類ハ總テ關長ニ宛テ當該部課長ノ認印ヲ受ケ之

第二章　宿直規則

第二十條　本關判任官（各部長同心得ハ之ヲ除ク）毎日一名宛順番ヲ以テ本關ニ宿直スヘシ

第二章　分課事務

第二十一條　宿直ヲ分テ平日宿直及休日宿直ノ二種トス

平日宿直ハ午後四時ヨリ翌日午前十時迄トシ休日宿直ハ午前十時ヨリ翌日午前十時迄トス

第二十二條　宿直員ハ慰勞トシテ翌日正午ヨリ休暇ヲ賜ハルモノトス

但事務ノ都合ニ依リ繰合セ難キトキハ此限リニ非ラス

第二十三條　日常出務ニ堪ユルモ他ニ感染シ易キ疾病アルモノハ詮議ノ上一時宿直ヲ除却スルコトアルヘシ

第二十四條　宿直ハ平日休日共左ノ例ニ依リ文書係ニ於テ一定ノ順番表ヲ製シ配付指定ヲナスモノトス

但宿直當番ハ別ニ本人ヘ通知セサルヲ以テ各自常ニ文書係内ノ掲札ニ注意スヘシ

一　課部長解任者

二　新拜命及再奉職ノ者

三　他廳ヨリ轉任ノ者

右ハ總テ一順後ニ組入ルヘシ

第二十五條　公務出張中又ハ忌引中ハ宿直ヲ免除ス

第二十六條　缺勤中宿直當番若クハ宿直當日ニ至リ俄ニ缺勤スルトキハ一時其宿直ヲ猶豫シ追テ返勤トシテ平日宿直ハ出勤ノ翌日休日宿直ハ其二回目ニ組入ルヘシ

但長日引續缺勤ノ爲メ宿直返勤滯テ數回ニ及フト雖モ其返勤ハ一回ニ止マルモノトス

第二十七條　前條當番缺勤ノ場合ニ於テハ當日宿直ハ次順ノモノヲ繰上クヘシ

第二十八條　平日休日共同一者宿直前後連續スルトキハ後宿直ヲ一日繰下クヘシ

第二十九條　宿直當日父母ノ祭日ニ當ルモノハ宿直ヲ一日繰下クヘシ

第三章　宿直心得

第三十條　宿直員ハ閉廳後小使ニ於テ掃除濟ミ次第各室ノ鎖鑰ヲナシ其他構内ノ諸取締ハ勿論殊ニ火ノ元等嚴重ニ注意シ宿直中ノ要件ハ遺漏ナク宿直日誌ニ記載シ置キ總テ關係ノ課ヘ之カ引繼ヲナスヘシ

第三十一條　閉廳中内外人ヨリ願出スル事件ハ總テ拒絶シ翌日開廳中ニ出願セシムヘシ

但臨時開廳其他已ムヲ得サル事件ニシテ捨置キ難ク看認ムルモノハ其主務ノ課長ヘ通牒協議シ或ハ關長伺ヲ經テ相當ノ處辨ヲナスヘシ

第三十二條　天災又ハ近火等ノ爲メ當關營造物其他諸貨物ニ對シ危險損傷ノ虞アルトキハ相當ノ保護防禦ヲナスヘキハ勿論關長各課長等ヘ急報シ夫々臨機ノ取計ヒヲナスヘシ

第三十三條　宿直中諸方ヨリ到着スル公文又ハ諸物品ハ總テ宿直日誌ヘ記載シ左ノ通取計フヘシ

一關長宛ニ係ル親展電信、親展至急書翰類ハ直ニ關長又ハ課長ノ自邸ヘ送付スヘシ

二親展ノ外通常電信又ハ至急書翰類ハ直ニ課長又ハ文書係員ノ宅ヘ送付スヘシ其各課係宛ノモノハ當該課員ノ宅ヘ送付スヘシ

三前記ノ外通常ノ書信及諸物品ハ總テ留置キ翌朝ニ至リ日誌ト共ニ自身文書係ヘ引繼クヘシ

第三十四條　宿直中接受セシ公文其他諸物品ハ宿直員ニ於テ漫リニ開披スルヲ禁ス

但要急ノ件ト認ムルトキ又ハ必要ニ際シテハ此限ニアラス

第三十五條　前條開披ノ場合ニハ封皮ニ事件摘要及紙數等ヲ詳記シテ記名捺印シ且該處理ノ手續ヲ日誌ニ記載スヘシ

第三十六條　宿直員ヨリ文書又ハ物品ヲ送達スルトキハ其都度必ス送達ヘ簿記載シ領收者ノ印ヲ

徹スヘシ

但本文ノ場合ニハ宿直日誌ヘ送達ノ旨ヲ記入スヘシ

第三十七條　平日宿直及休日宿直ノ交代ハ午前十時トス交代ノ際引繼物件ノ授受ハ必ス各本人ニ於テ之ヲナスヘシ

第三十八條　宿直員ハ閉廳中各課ノ鍵箱及ヒ各室門戸等ノ鎖鑰ヲ管守シ開廳ノ時ハ帳簿ニ當該課員ノ認印ヲ受ケテ交付シ授受ヲ明カニスヘシ

第三十九條　宿直員ハ閉廳中必ス宿直室ニ詰切リ漫リニ離去スルコトヲ得ス

附　則

第四十一條　出勤簿ノ捺印ヲ怠ルモノ無屆缺勤ノモノ病氣引入中定期ノ屆書及診斷書ノ呈致ヲ怠ルモノ休日宿直交代失期ノモノ若クハ宿直中ノ要件引繼或ハ整理ヲ等閑ニセシモノ等ハ總テ文書係ニ於テ事由書ヲ徵シ關長ヘ具申スヘシ

第四十二條　監視部員ノ出勤幷ニ宿直ハ別ニ定ムル所ニ依ル

四十、犯則處分の實例　明治二十三年發布したる稅關法及稅關規則の實施後當關に於て處分したる犯則事件は甚た鮮少なりとせす然れとも概して些細の事件に屬し特に記錄に値るものなしとす但た三十一年六月帝國汽船高知丸船長及同事務長に對する金塊沒收事件は告發の結果遂に大審院の手を煩はすに至る等事態稍々重大なるものあるを以て左に該事件の概要を述へて犯則處分の一例を示さん

該事件に關して先つ當關より犯則者に對して發したる處分通知書左の如し

原籍香川縣小豆郡野間村ノ內古江八番地
寄留大阪市西區本田三番町六拾六番屋敷
前田音松

原籍佐賀縣佐賀市柳町六拾五番地
寄留長崎縣下縣郡大手橋町拾參番戶
堤　辰一郎

右ハ本月八日韓國釜山港ニ於テ積載シタル金塊壹包此目方六百九十六匁五分ヲ密ニ本港ニ陸揚シタル處右ハ對島國佐須奈港ニ於テ沿海通航船舶資格變更ノ際輸入免狀ヲ受ケサルモノニ付稅關規則第十五條ノ違犯ト認ム依テ稅關法第十條第二項ニ據リ現品ヲ沒收ス

明治三十一年六月十日

大阪稅關長　佃　一豫

この通告に對して右犯則者は直に不服從の屆出をなしたるを以て當關は之れを大阪地方裁判所檢事局に告發し當該檢事は直に起訴の手續を爲し遂に同裁判所に於て之れか判決を與へて曰く

右稅關法違反事件ノ公訴審理ヲ遂クル處　被告前田音松堤辰一郎ハ汽船高知丸ニ乘組明治三十一年六月四日韓國釜山港ヨリ諸貨物ヲ積載シ同日對馬國佐須奈港ニ到着同所長崎稅關支署ニ於テ諸

原籍佐賀縣佐賀市柳町六十五番地
寄留時長崎縣下縣郡大手橋町拾三番戶寄留平民
汽船高知丸事務長　堤　辰一郎
三十三歲

香山縣小豆郡野間村ノ內古江八番地
當時大阪市西區本田三番町六十六番屋敷寄留平民
汽船高知丸船長　前田音松
四十歲

佐賀縣佐賀市柳町六十五番地
當時長崎縣下縣郡大手橋町拾三番戶寄留平民

貨物輸入ノ手續ヲ爲ス際釜山第一銀行ヨリ大阪第一銀行支店ニ送ル金塊壹包此目方六百九十六匁五分ニ對シ誤リテ輸入免狀ヲ受ケス且積荷目錄ニ記載漏ノ儘同八日大阪港ニ到着シ大阪稅關監吏補安野松太郎ノ調査ヲ受クルニ該リ右免狀ヲ受ケサリシコト及目錄ニ記載漏ナルコトヲ心付キタルモ之ヲ陸揚ケシ旭運輸商店マテ持行キタルハ同監吏補ノ認可ヲ得タル上ノコトニテ加フルニ該品ハ素ト無稅品ニ係ルヲ以テ稅關規則第十五條ニ違犯シタルモノト認メ難ク隨テ稅關法第十條第二項ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス

判　決

被告前田音松堤辰一郎ヲ無罪明治三十一年七月八日大阪地方裁判所刑事第四部公廷ニ於テ檢事成田元衛立會言渡ス

裁判長　判事　湯川愼三郎
判事　岩關克
判事　岡本孟
書記　室信之助

立會檢事は是の判決に服せす直に控訴の手續をなしたりしか當關に於ては更らに檢事長に對して左の如く注意する處あり曰く

地第四三號

去ル六月十八日本官ヨリ大阪地方裁判所檢事局ヘ告發シタル高知丸船長前田音松同船事務長堤辰一郎ノ稅關法違犯事件ハ去月八日同地方裁判所ニ於テ右ハ稅關法第十條第二項ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ストシテ兩名トモ無罪ノ宣告ニ相成タル處立會檢事ハ其裁判ニ服セス控訴セラレタル趣ニ有之候個ハ告發狀中犯則構成ノ時及場所ニ於テ或ハ不明ノ廉アリシヨリ右樣ノ裁判ニ相成候哉トモ被考候間爰ニ其告發ノ主意ヲ敎演スルノ必要モ可有之ト存候這般高知丸カ外國貨物ヲ積ミ韓國釜山港ヨリ對州佐須奈港ニ入津シ同所ニ於テ沿海通航船ニ其資格ヲ變更シタルハ一件書類ニ徵シ事實明晰タリ抑沿海通航船ハ稅關規則第三十六條ニ依リ開港間ニ回漕スル場合ノ外輸入手數未濟ノ外國貨物ヲ船積スルコトヲ得サル筋合ナリ加フルニ對州佐須奈港ハ稅關規則ニ謂フ所ノ開港ニ非ラス特ニ朝鮮貿易ノ爲メ開カレタル一海港ニ過キサルモノナレハ本件高知丸ノ如キハ前記開港間ノ廻漕ヲ爲シ能ハサル次第ニ之有候然ルニ被告等ハ前記佐須奈港ニ於テ沿海通航船ニ資格變更ノ際他ノ搭載貨物ハ總テ同所長崎稅關支署ニ於テ其輸入手數ヲ爲シタルニモ拘ラス所爭ノ物件タル金塊ニ至リテハ船內ニ隱匿シテ其輸入手數ヲ爲サス其儘沿海通航船タル同船ニテ同港ヲ出發密輸入ヲ遂ケタルモノニ有之候故ニ本案犯則ノ場所ハ對州佐須奈港ニシテ本官カ被告等ヲ告發シタルモ實ニ以上ノ犯則行爲ニ外ナラス告發狀中當大阪港ニテ竊カニ陸揚云々ノ事ヲ記載シタルハ右犯則ノ結果タル事後ノ所爲ヲ示シ併セテ被告等カ當關管轄區內ニ於テ該犯則物件ヲ所持シ居タルヲ顯然タラシメンカ爲ノミニシテ此點ニ對シテハ別ニ處分ヲ請求シタル次第ニハ無之候將又該判決文中該物件ハ無稅品ニ屬スルヲ以テ稅關規則第十五條ノ違犯ハ認メ難シトアレトモ同條ハ輸入貨物ノ有稅無稅ヲ論セス一般ノ輸入貨物ニ對スル輸入手續ヲ規定シ有稅品ナラハ其稅ヲ納ムヘシトノ事ヲ示セシモノト解釋セサルヲ得ス何トナレハ稅關法規中別ニ無稅輸入貨物ニ對スル輸入手續ヲ規定シタル條項ナキヲ以テ視ルモ無論無稅貨物モ本條ノ手續ニ依ルヘキコトハ推知シ得ラルヘク存候然レハ則チ輸入手數ヲ經スシテ無稅品タリトモ外國貨物ヲ輸入シ得サルハ同條及稅關法第十條第二項ノ規定ニ依リ事理明白ト思料致候條御參考ノ爲メ此段具陳候也

大阪稅關長

然るに控訴院は原判決を取消し更に下の如く判決して再ひ無罪を宣告せり

判　決

香川縣小豆郡野間村ノ內古江八番地平民
當時大阪府大阪市西區本田三番町六十六番屋敷寄留
汽船高知丸船長　前田音松
安政三年一月生

佐賀縣佐賀市柳町六十五番地平民
當時長崎縣下縣郡大手橋町十三番戸寄留
汽船高知丸事務長　堤辰一郎
文久三年十一月生

右税關法違犯被告事件ニ付明治三十一年七月八日大阪地方裁判所ニ於テ言渡シタル判決ヲ不當トシ同廳檢事ヨリ控訴シタルニ依リ審理ヲ遂クル處被告音松ハ汽船高知丸ノ船長辰一郎ハ同船事務長トナリテ共ニ同船ニ乘リ組外航船トシテ明治三十一年六月四日韓國釜山港ニ於テ諸貨物ノ輸入手續ヲ爲ス際其貨物ノ內量目六百九十六匁五分ノ金塊ヲ船內ノ金庫署ニ屆出テ右船積貨物ノ輸入手續ヲ爲ス際其貨物ノ內量目六百九十六匁五分ノ金塊ヲ船內ノ金庫中ニ藏匿シ置キ故ラニ積荷目錄ニ記載セスシテ陸揚免狀ヲ受ケス而シテ同港ニ於テ外航船ノ資格ヲ本邦沿海通航船ノ資格ニ改メタルモ右金塊ハ以然船積ノ儘大阪港ニ廻漕シ同月八日同港ニ於テ右金塊ヲ密ニ船卸セントシタル事實ハ大阪稅關長佃一豫ノ告發書前審公判始末書中證人安野松太郎陳述ノ部分及當公廷ニ於ケル被告兩名カ供述ノ各一分ニ徵シ明確ナルモ金塊ヲ船卸シタル事實ナキヲ以テ犯罪ヲ構成セサルモノトス因テ刑事訴訟法第二百五十八條第二百三十六條第二百二十四條ニ依リ無罪之言渡ヲ爲シ押收ノ金塊ハ同法第二百二條ニ依リ處分スヘキモノトス

然ルニ原判決カ誤テ輸入免狀ヲ受ケスシテ大阪港ニ到着シ(中略)加フルニ該品ハ素ト無稅品ニ係ルヲ以テ稅關規則第十五條ニ違反シタルモノトハ認メ難ク隨テ稅關法第十條第二項ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラスト判決シタルハ失當ナルニ依リ檢事ニ於テ被告ニ稅關法違犯ノ所爲アリトスルノ論旨ハ正當ナラスト雖モ原判決ヲ失當ナリトスルノ論旨ハ正當ナルニ付本件控訴ハ結局其理由アルニ歸スルモノト爲サヽルヘカラス因テ當控訴院ハ刑事訴訟法第二百六十一條ノ規定ニ則リ判決スルコト左ノ如シ

原判決ヲ取消シ更ニ被告兩名ヲ無罪トス

大阪稅關ノ保管ニ係ル金塊ハ其差出人ニ還付ス

明治三十一年九月二十一日

檢事全田達次郎干與ス

大阪控訴院刑事第二部公廷ニ於テ宣告ス

裁判長判事　田丸稅稔
判事　澤崎賴之助
判事　奥宮彥五郎
判事　大野金三郎
判事　元木直一
裁判所書記　增岡武一郎

原本ニ依リ此謄本ヲ作ルモノ也

明治三十一年九月二十六日

第二章　分課事務

於大阪控訴院

裁判所書記　中根庸

此第二審判決に對し檢事局は之れに屆せず更に上告の手續をなせり之れと同時に當關は此顚末を具して大藏大臣に上申して曰く

高知丸船長及事務長稅關規則違反之義に付御屆

本年六月八日內國船高知丸船長前田音松同船事務長堤辰一郎ノ兩名ハ本年六月四日韓國釜山港ニ於テ積載シタル金塊壹包ヲ當港へ陸揚シタル處右ハ對馬國佐順奈港ニ於テ沿海通航ニ資格變更ノ際輸入免狀ヲ受ケサルモノニ付稅關規則第十五條ノ違犯ナルヲ以テ別紙甲號ノ通現品沒收申渡セシ處不服ノ旨乙號ヲ以テ屆出候ニ付丙號ヲ以テ大阪地方裁判所へ告發セシカ無稅品ナルヲ以テ稅關規則第十五條ノ違犯ニ非ラストシ無罪ノ旨丁號ヲ以テ判決相成檢事ハ該裁判所不服ニテ直ニ之ヲ控訴セリ依テ別紙戊號ヲ以テ事ノ情狀ヲ具シ大阪控訴院檢事へ提出致置候然ル處同控訴院ハ被告ハ同金塊ヲ船卸シタル事實ナキヲ以テ犯罪ヲ構成セストノ理由ヲ以テ是又無罪ノ宣告ヲ爲セリ控訴院檢事ハ該裁判ニ對シ不服ニテ目下上告中ニ有之候依テ本件書類壹括相添此段及御屆置候也

明治三十一年十月十九日

大阪稅關長

大藏大臣宛

翌三十二年一月大審院に於て第二審判決を取消し當關請求の如く遂に稅關法規則第十五條稅關法第十條第二項に依り金塊を沒收すとの判決を與へられたる旨大阪控訴院檢事局より通知し來る爰に斯の事件を結了せり當時之れを傳へ聞ける各船主貨主の如きは該判決書類を謄寫して船長事務員等に配布して大に將來を警戒せりといふ

四十一、新條約實施に關する訓示　新稅率並に新條約實施の期迫れるを以て三十一年九月十三日之れに關して一篇の訓示を爲し大に屬僚を訓戒せり曰

各部課係員

新稅率並新條約實施ノ期モ今ヤ目前ニ迫リ稅關事務ノ煩雜多端ヲ加フヘキハ勿論ノ義ニ有之隨テ稅關官吏ノ職務執行上更ニ一段ノ注意ト奮勵トヲ要スル次第ニシテ稅法施行ノ當否ハ國家ノ財源ヨリ体面ニ關シ其影響ノ及フ處極メテ重大ナルモノナレハ稅關官吏ハ深ク其點ニ注意シ事ヲ處スル簡便敏捷ヲ主トシ人民ニ接スル嚴正廉潔ナルト同時ニ懇切丁寧ヲ旨トシ其本分ヲ誤ラサル樣致度旨大藏大臣ノ命ニ依リ大藏次官ヨリ特ニ通牒ノ次第モ有之此等ノ義ハ比際殊更注意ヲ要スル事項ナルヲ以テ各自互ニ相戒飾奮勵以テ右示諭ノ旨ニ悖ラサル樣致度此段及傳達候也

明治三十一年九月十三日

大阪稅關長　佃一豫　印

昭和四年五月二十日再版發行

大阪稅關（非賣品）

印刷者　大阪市西區阿波座下通二丁目二番地　今岡道夫

印刷所　大阪市西區阿波座下通二丁目二番地　今岡興文社

Ｉ6B-90